

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
イギリス文学研究AI	遠藤 不比人	7
イギリス文学研究AII	遠藤 不比人	11
イギリス文学研究BI	正岡 和恵	15
イギリス文学研究B II	正岡 和恵	19
アメリカ文学研究BI	下河辺 美知子	23
アメリカ文学研究BII	下河辺 美知子	27
アメリカ文学演習C	デュフレーヌ レイモンド トッド /日比野 啓	31
英語教育演習A	ロブソン ゴードン レーン	37
Thesis Writing	ラルフ ジェイムズ バーナビー	43
イギリス文学コア・カリキュラムB	小林 英里	49
批評理論コア・カリキュラムB	日比野 啓	53
論文演習I	小野 尚美	57
論文演習II	小野 尚美	59
論文演習I	ラルフ ジェイムズ バーナビー	61
論文演習II	ラルフ ジェイムズ バーナビー	63
論文演習I	遠藤 不比人	65
論文演習II	遠藤 不比人	67
論文演習I	正岡 和恵	69
論文演習II	正岡 和恵	71
論文演習I	平山 真奈美	73
論文演習II	平山 真奈美	75
論文演習I	森住 史	77
論文演習II	森住 史	79
論文演習I	田辺 春美	81
論文演習II	田辺 春美	83
論文演習I	日比野 啓	85
論文演習II	日比野 啓	87
論文演習I	権田 建二	89
論文演習II	権田 建二	91
チュートリアルI	小野 尚美	93
チュートリアルII	小野 尚美	95
チュートリアルI	ラルフ ジェイムズ バーナビー	97
チュートリアルII	ラルフ ジェイムズ バーナビー	99
チュートリアルI	遠藤 不比人	101
チュートリアルII	遠藤 不比人	103
チュートリアルI	正岡 和恵	105
チュートリアルII	正岡 和恵	107
チュートリアルI	平山 真奈美	109
チュートリアルII	平山 真奈美	111

チュートリアルI	森住 史	113
チュートリアルII	森住 史	115
チュートリアルI	田辺 春美	117
チュートリアルII	田辺 春美	119
チュートリアルI	日比野 啓	121
チュートリアルII	日比野 啓	123
チュートリアルI	権田 建二	125
チュートリアルII	権田 建二	127
古典文学共通講義I	平野 多恵	129
古典文学共通講義II	平野 多恵	133
近代文学共通講義I	杉井 和子	137
近代文学共通講義II	杉井 和子	141
日本語学共通講義I	森 雄一	145
日本語学共通講義II	森 雄一	149
近代文学研究B	浜田 雄介	153
古代文学演習A	吉田 幹生	159
近世文学演習	揖斐 高	165
近代文学演習A	林 廣親	171
日本語学演習A	久保田 篤	177
論文演習I	平野 多恵	183
論文演習II	平野 多恵	185
論文演習I	林 廣親	187
論文演習II	林 廣親	189
論文演習I	久保田 篤	191
論文演習II	久保田 篤	193
論文演習I	浜田 雄介	195
論文演習II	浜田 雄介	197
論文演習I	森 雄一	199
論文演習II	森 雄一	201
論文演習I	吉田 幹生	203
論文演習II	吉田 幹生	205
課題研究I	平野 多恵	207
課題研究II	平野 多恵	209
課題研究I	林 廣親	211
課題研究II	林 廣親	213
課題研究I	浜田 雄介	215
課題研究II	浜田 雄介	217
課題研究I	久保田 篤	219
課題研究II	久保田 篤	221
課題研究I	森 雄一	223
課題研究II	森 雄一	225

課題研究I	吉田 幹生	227
課題研究II	吉田 幹生	229
国際社会文化研究I	川村 陶子	231
国際社会文化研究II	川村 陶子	235
文化人類学研究I	堀内 正樹	239
文化人類学研究II	堀内 正樹	243
歴史研究BI	松浦 義弘	247
歴史研究BII	松浦 義弘	251
女性史・ジェンダー研究II	竹内 敬子	255
社会学研究AI	内藤 準	259
社会学研究AII	内藤 準	263
社会学研究BI	稲葉 佳奈子	267
社会学研究BII	稲葉 佳奈子	271
社会学研究CI	中江 桂子	275
社会学研究CII	中江 桂子	279
メディア・コミュニケーション研究AI	見城 武秀	283
メディア・コミュニケーション研究AII	見城 武秀	287
メディア・コミュニケーション研究BI	西 兼志	291
メディア・コミュニケーション研究BII	西 兼志	295
欧米文化演習	中野 由美子	299
国際社会文化演習	墓田 桂	305
文化人類学演習	細谷 広美	311
歴史演習B	佐々木 紳	317
社会学演習A	渡邊 大輔	323
社会学演習B	小林 盾	329
メディア・コミュニケーション演習A	伊藤 昌亮	335
メディア・コミュニケーション演習B	今田 絵里香	341
地域福祉・NPO演習	澁谷 智子	347
論文演習I	西 兼志	353
論文演習II	西 兼志	355
論文演習I	見城 武秀	357
論文演習II	見城 武秀	359
論文演習I	伊藤 昌亮	361
論文演習II	伊藤 昌亮	363
論文演習I	渡邊 大輔	365
論文演習II	渡邊 大輔	367
論文演習I	今田 絵里香	369
論文演習II	今田 絵里香	371
論文演習I	竹内 敬子	373
論文演習II	竹内 敬子	375
論文演習I	中野 由美子	377

論文演習Ⅱ	中野 由美子		379
論文演習Ⅰ	堀内 正樹		381
論文演習Ⅱ	堀内 正樹		383
論文演習Ⅰ	松浦 義弘		385
論文演習Ⅱ	松浦 義弘		387
論文演習Ⅰ	細谷 広美		389
論文演習Ⅱ	細谷 広美		391
論文演習Ⅰ	墓田 桂		393
論文演習Ⅱ	墓田 桂		395
論文演習Ⅰ	川村 陶子		397
論文演習Ⅱ	川村 陶子		399
論文演習Ⅰ	小林 盾		401
論文演習Ⅱ	小林 盾		403
課題研究Ⅰ	西 兼志		405
課題研究Ⅱ	西 兼志		407
課題研究Ⅰ	見城 武秀		409
課題研究Ⅱ	見城 武秀		411
課題研究Ⅰ	伊藤 昌亮		413
課題研究Ⅱ	伊藤 昌亮		415
課題研究Ⅰ	渡邊 大輔		417
課題研究Ⅱ	渡邊 大輔		419
課題研究Ⅰ	今田 絵里香		421
課題研究Ⅱ	今田 絵里香		423
課題研究Ⅰ	竹内 敬子		425
課題研究Ⅱ	竹内 敬子		427
課題研究Ⅰ	中野 由美子		429
課題研究Ⅱ	中野 由美子		431
課題研究Ⅰ	堀内 正樹		433
課題研究Ⅱ	堀内 正樹		435
課題研究Ⅰ	松浦 義弘		437
課題研究Ⅱ	松浦 義弘		439
課題研究Ⅰ	細谷 広美		441
課題研究Ⅱ	細谷 広美		443
課題研究Ⅰ	墓田 桂		445
課題研究Ⅱ	墓田 桂		447
課題研究Ⅰ	川村 陶子		449
課題研究Ⅱ	川村 陶子		451
課題研究Ⅰ	小林 盾		453
課題研究Ⅱ	小林 盾		455
イギリス文学特殊研究A	遠藤 不比人		457
イギリス文学特殊研究B	正岡 和恵		463

アメリカ文学特殊研究B	下河辺 美知子	469
アメリカ文学特殊研究C	デュフレーヌ レイモンド トッド /日比野 啓	475
英語教育特殊研究A	ロブソン ゴードン レーン	481
論文演習Ⅲ	小野 尚美	487
論文演習Ⅳ	小野 尚美	489
論文演習Ⅴ	小野 尚美	491
論文演習Ⅲ	正岡 和恵	493
論文演習Ⅳ	正岡 和恵	495
論文演習Ⅴ	正岡 和恵	497
論文演習Ⅲ	日比野 啓	499
論文演習Ⅳ	日比野 啓	501
論文演習Ⅴ	日比野 啓	503
論文演習Ⅲ	遠藤 不比人	505
論文演習Ⅳ	遠藤 不比人	507
論文演習Ⅴ	遠藤 不比人	509
論文演習Ⅲ	田辺 春美	511
論文演習Ⅳ	田辺 春美	513
論文演習Ⅴ	田辺 春美	515
古典文学特殊講義I	平野 多恵	517
古典文学特殊講義II	平野 多恵	521
近代文学特殊講義I	杉井 和子	525
近代文学特殊講義II	杉井 和子	529
日本語学特殊講義I	森 雄一	533
日本語学特殊講義II	森 雄一	537
古代文学特殊研究A	吉田 幹生	541
近世文学特殊研究	揖斐 高	547
近代文学特殊研究A	林 廣親	553
近代文学特殊研究B	浜田 雄介	559
日本語学特殊研究A	久保田 篤	565
論文演習Ⅲ	森 雄一	571
論文演習Ⅳ	森 雄一	573
論文演習Ⅴ	森 雄一	575
論文演習Ⅲ	久保田 篤	577
論文演習Ⅳ	久保田 篤	579
論文演習Ⅴ	久保田 篤	581
論文演習Ⅲ	吉田 幹生	583
論文演習Ⅳ	吉田 幹生	585
論文演習Ⅴ	吉田 幹生	587
論文演習Ⅲ	林 廣親	589
論文演習Ⅳ	林 廣親	591

論文演習Ⅴ	林 廣親		593
論文演習Ⅲ	浜田 雄介		595
論文演習Ⅳ	浜田 雄介		597
論文演習Ⅴ	浜田 雄介		599
欧米文化特殊研究B	中野 由美子		601
国際社会文化特殊研究A	川村 陶子		607
国際社会文化特殊研究B	墓田 桂		613
文化人類学特殊研究A	堀内 正樹		619
文化人類学特殊研究B	細谷 広美		625
歴史特殊研究D	松浦 義弘		631
社会学特殊研究A	小林 盾		637
メディア・コミュニケーション特殊研究A	伊藤 昌亮		643
論文演習Ⅲ	竹内 敬子		649
論文演習Ⅳ	竹内 敬子		651
論文演習Ⅴ	竹内 敬子		653
論文演習Ⅲ	松浦 義弘		655
論文演習Ⅳ	松浦 義弘		657
論文演習Ⅴ	松浦 義弘		659
論文演習Ⅲ	伊藤 昌亮		661
論文演習Ⅳ	伊藤 昌亮		663
論文演習Ⅴ	伊藤 昌亮		665
論文演習Ⅲ	小林 盾		667
論文演習Ⅳ	小林 盾		669
論文演習Ⅴ	小林 盾		671
論文演習Ⅲ	中野 由美子		673
論文演習Ⅳ	中野 由美子		675
論文演習Ⅴ	中野 由美子		677
論文演習Ⅲ	細谷 広美		679
論文演習Ⅳ	細谷 広美		681
論文演習Ⅴ	細谷 広美		683
論文演習Ⅲ	堀内 正樹		685
論文演習Ⅳ	堀内 正樹		687
論文演習Ⅴ	堀内 正樹		689
学際分野特殊研究(データの科学)	江口 真透		691
学際分野特殊研究(知的財産と経営)	岡田 桂治		695
学際分野特殊研究(科学の考え方I)	瀬戸 一夫		699
学際分野特殊研究(科学の考え方II)	瀬戸 一夫		703
学際分野特殊研究(力学系の理論と応用)	藤垣 芳文		707
学際分野特殊研究(原子核のエネルギー)	富谷 光良		711

科目名	イギリス文学研究 A I		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071311101	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

英語圏の文学研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。前期においてはその嚆矢ともいえる、Sigmund Freudの“The Uncanny”（「不気味なもの」）を精読する。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の2点を到達目標とする。

- ①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。
- ②この視点から文学テキストに自身の視点から問題を発見できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	テキストに関する導入。	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	90分
第2回	テキストの読解 1	
	指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第3回	テキストの読解 2	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分

第4回	テキストの読解 3	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第5回	テキストの読解 4	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第6回	テキストの読解 5	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第7回	テキストの読解 6	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第8回	テキストの読解 7	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第9回	テキストの読解 8	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分

第10回	テキストの読解 9	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第11回	テキストの読解 10	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第12回	テキストの読解 11	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第13回	テキストの読解 12	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第14回	テキストの読解 13	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90分
第15回	総括的議論	
	総括的議論のために	90分

授業の方法

担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法

発表（30％）とterm paperの質（70％）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

上記の批評理論について自習をされたい。

テキスト

担当者がコピーを用意する。

参考書

適宜複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学研究 AII		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071311102	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
英語圏の文学／文化研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。Bill Brown, Nicholas Royle, Barbara Johnsonらの論文がテキストになる。			

到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の2点を到達目標とする。 ①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。 ②この視点から文学テキストに自身の視点から問題を発見できる。			

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Thing Theoryの導入的な講義 1	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	90分
第2回	Thing Theoryの導入的な講義 2	
	前回の問題点の確認	90分
第3回	Brownの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分

第4回	Brownの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分
第5回	Brownの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分
第6回	Brownの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分
第7回	Royleの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分
第8回	Royleの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分
第9回	Royleの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120分

第10回	Royleの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	1 2 0 分
第11回	Johnsonの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	1 2 0 分
第12回	Johnsonの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	1 2 0 分
第13回	Johnsonの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	1 2 0 分
第14回	Johnsonの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	1 2 0 分
第15回	まとめ	
	学期を通じての議論の復習	1 2 0 分

授業の方法

担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法

発表（30%）とterm paperの質（70%）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期で獲得した知識。

テキスト

コピーで配布する。

参考書

適宜複数紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学研究BⅠ		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071311103	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
シェイクスピアの初期の悲劇『ロミオとジュリエット』を読む。テキストの精読および多様なメディアによる翻案をつうじて、解釈の多面性に触れる。また、代表的な論文を読むことによって批評理論のいくつかの型を修得し、実践へとつなげる。			
到達目標			
DP6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①テキストと作家を歴史的文脈の中に位置づけ、より精緻に分析できる。 ②テキスト内外に関する知識を養い、さまざまな事象を説明できる。 ③批評理論にのっとった解釈の型を習得し、みずからの論文に応用できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 作品に関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。		
	テキスト(翻訳)を読み、登場人物やあらすじについて理解しておくこと。		60
第2回	イントロダクション 材源、主題、批評史など、背景知識について学ぶ。		
	指定された文献を読んでくること。		60
第3回	1幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくること。		60

第4回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第6回	1幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第7回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第8回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60

第10回	2幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読むこと。	60
第11回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第12回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第13回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第14回	3幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読むこと。	60
第15回	興味のある批評文献（短いもの）を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえ発表する。	
	指定された文献を読むこと。	60

授業の方法

ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法

平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト

Shakespeare, William. Romeo and Juliet , edited by Rene Weis, The Arden Shakespeare, 2012. Arden Shakespeare : Third Series.

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

第4回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	4幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第6回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第7回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第8回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	5幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60

第10回	劇全体を振り返り、さまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60
第11回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第12回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第13回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読むこと。	60
第14回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読むこと。	60
第15回	興味のある二次利用のテキストや論文を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえて発表する。	
	指定された文献を読むこと。	60

授業の方法

ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法

平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト

前期と同じ。

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	アメリカ文学研究B I		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	2071311203	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
アメリカ文学のテキスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。 今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。			
到達目標			
DP7【問題発見能力および多面的な分析能力】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得する。 ②あわせて、グローバリズム世界の中で日本人としてアメリカ社会の現実をみすえる視点を持つ。 ③先行研究論文を読み、それをもとに自分の問題を設定して学術論文に仕立て上げる分析力を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。 ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。		
		1時間	
第2回	「バトルビー」読み1 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。 担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。		
		1時間	
第3回	「バトルビー」読み2 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。 担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。		
		1時間	

第4回	「バトルビー」読み3 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「バトルビー」読み4 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「バトルビー」読み5 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	映画鑑賞	
	これまでに作られた『白鯨』映画を調べておくこと。	1時間
第8回	「バトルビー」読み6 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「バトルビー」読み7 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第10回	「バトルビー」読み8 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第11回	「バトルビー」読み9 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「バトルビー」読み10 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テキストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備2 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法

講義と演習

成績評価の方法

学年末レポート（60％）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

授業内で指定する

参考書

Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings: The Monroe Doctrine and Narratives of U.S. Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continents: American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)
Gayatri C. Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)
Yunte Huang, "Transpacific Imaginations" (Harvard University Press, 2008)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学研究BⅡ		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	2071311204	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
アメリカ文学のテキスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。 今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。			
到達目標			
DP7【問題発見能力および多面的な分析能力】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得する。 ②あわせて、グローバリズム世界の中で日本人としてアメリカ社会の現実をみすえる視点を持つ。 ③先行研究論文を読み、それをもとに自分の問題を設定して学術論文に仕立て上げる分析力を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。		
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間	
第2回	「ジョン・マー」読み1 ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ 人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。		
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間	
第3回	「ジョン・マー」読み2 ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ 惑星思考、半球思考についての洞察を深める。		
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間	

第4回	「ジョン・マー」読み3 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「ジョン・マー」読み4 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「ジョン・マー」読み5 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	19世紀の航海についてのドキュメント	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第8回	「ジョン・マー」読み1 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「ジョン・マー」読み2 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第10回	「ジョン・マー」読み3 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第11回	「ジョン・マー」読み4 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「ジョン・マー」読み5 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テキストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備2 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法

講義と演習

成績評価の方法

学年末レポート（60%）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

授業内で指定する

参考書

Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings: The Monroe Doctrine and Narratives of U.S. Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continents: American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)
Gayatri Chakravorty Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学演習C		
教員名	デュフレヌ レイモンド トッド、日比野 啓		
科目ナンバー	2071312203	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
The ‘Late Freud’ : Psychoanalysis From 1920-1939 (Dufresne)/ラカン理論と映画テキスト分析（日比野）			
到達目標			
In this seminar on the late works of Sigmund Freud, we begin with one of Freud’s most speculative works, Beyond the Pleasure Principle (1920), and then look at features of the “cultural works” that follow. For example, we will read The Future of an Illusion (1927), the first chapter of Civilization and Its Discontents (1930), and two short essays written soon thereafter. Our goal is to unpack the meaning of these late works, and what they do to our understanding of psychoanalysis. Students are encouraged to read Freud’s works in any language, including Japanese, although the classroom discussion and text will be in English. Since my own Tales From the Freudian Crypt (2000) is translated into Japanese, you might want to consult it. I will also make available a few commentaries that I have written over the years - the thrust of which I will be discussing in class. In other words, you won’t need to guess at my own position because it will be very clear from the texts and my commentaries in class. At the same time, I do not expect you to agree with my views. You are being exposed to my understanding of the ‘late Freud’, and are in no way obliged to echo that view. Consider the classroom a place of open debate, the better for us to wrestle with the meaning of Freud’s work. Since this is a fairly intensive examination of Freud’s thinking, regular attendance and participation is important. There will be one oral test (or an option for a written test); one short essay answer test; and one final essay. ラカンの理論について学び、次に映画テキスト分析においてラカン理論がどのように応用し得るか、ジジエク『ラカンはこう読め！』を読み進めながら考えます。 これらの目標を達成することによって、DP3およびDP8を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Introduction to Freud & Psychoanalysis		
	Key Terms: the unconscious, couch, free association, trauma, dream interpretation, superego/ego/id, the origins of psychoanalysis, metapsychology		
	Read my short blog at https://blog.oup.com/2017/05/freud-first-wild-analyst/ . If you have the time feel free to read my short essay “The Making of a Freud Basher” (Reading Kit).	60	
第2回	Introduction to Freud’s Beyond the Pleasure Principle		
	Key Terms: See above		
	Read Chapter 1 and 2 of Beyond the Pleasure Principle.	120	
第3回	Beyond the Pleasure Principle		
	Key Terms: trauma, pleasure principle, reality principle, repetition		
	Read Chapter 3 and 4 of Beyond the Pleasure Principle	120	

第4回	Beyond the Pleasure Principle Key Terms: repetition compulsion, death drive, ontogenesis, phylogenesis, Nietzsche	
	Read Chapter 5 and 6 of Beyond the Pleasure Principle	120
第5回	Beyond the Pleasure Principle Key Terms: see above, plus Plato, Aristophanes	
	Read Chapters 7 and 8 of Beyond the Pleasure Principle	120
第6回	TEST (Oral Test worth 20%)	
	Review your course materials from Week 1-5. I will provide a question to help you prepare in advance.	120
第7回	The Future of an Illusion Key Terms: Marxism, revolution, communism, metapsychology	
	Read chapters 1, 2, and 3 of Future of an Illusion. If you have time read my Blogs at http://www.cambridgeblog.org/author-profile/todd-dufresne/	120
第8回	The Future of an Illusion Key Terms: lay analysis	
	Read chapters 4, 5, and 6 of Future of an Illusion	120
第9回	The Future of an Illusion Key Terms: phylogenesis, cultural superego, the future	
	Read chapters 7, 8, and 9 of Future of an Illusion	120
第10回	Civilization and Its Discontents Key Terms: Romain Rolland, pre-history, guilt, superego	
	Read chapter 1 of Civilization and Its Discontents.	120

第11回	Civilization and Its Discontents Key Terms: as above	
	Read a selection from Dufresne in the Kit.	120
第12回	Test 2 (essay test worth 30%)	
	Review materials from Week 7 to 10	120
第13回	Freud on Origins of Fire Key Terms: phylogenesis, pre-history, culture	
	Read Freud' s essay on "The Acquisition and Control of Fire" (1932)	120
第14回	Freud & Einstein Key Terms: war, peace, innate aggressiveness, guilt, future	
	Read Freud' s essay response to Einstein, "Why War?" (1933)	120
第15回	Dufresne on Freud Final essay worth 30% due at beginning of class	
	Complete your essay and submit it. Be prepared to read your thesis in class, and debate its claims.	180
第16回	イントロダクション：ラカンの精神分析について	
	テリー・イーグルトン『文学とは何か——現代批評理論への招待』「第5章 精神分析批評」を翻訳でいいので読んでください。	60
第17回	Lacan: A Beginner's Guide: Introduction/1. Lacan and his historical context /2. Through the looking glass: The Mirror Stage (pp. 1-40)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120

第18回	Lacan: A Beginner's Guide: 3. In the beginning was the word: structural linguistics and Lacan/4. The Other (pp. 41-73)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第19回	Lacan: A Beginner's Guide: 5. The paternal metaphor: the role of the father of the unconscious/6. Real, Symbolic, Imagery (pp. 74-108)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第20回	Lacan: A Beginner's Guide: 7. Unspeakable need, unquenchable desire: need, speech, and desire/ 8. That obscure object of desire: l'objet petit a (pp. 109-145)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第21回	Lacan: A Beginner's Guide: 9. Gender bending: the formula of 'sexuation'/10. Four Discourses: four forms of relationship/11. Can one train an analyst? (pp. 146-175)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第22回	Lacan: A Beginner's Guide: 12. Lacanian practice/ 13. After the flood: Lacan in the twenty-first century (pp. 176-212)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第23回	中間試験	
	第17回から第21回までの内容についての試験を実施します。	120
第24回	How to Read Lacan: 1. Empty Gestures and Performatives: Lacan Confronts the CIA Plot (pp. 7-21)	
	該当箇所で見られている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120

第25回	How to Read Lacan:: 2. The Interpassive Subject: Lacan Turns a Prayer Wheel (pp. 22-39)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第26回	How to Read Lacan:: 3. From Che vuoi? to Fantasy: Lacan with Eyes Wide Shut (pp. 40-40)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第27回	How to Read Lacan:: 4. Troubles with the Real: Lacan as a Viewer of Alien (pp. 61-78)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第28回	How to Read Lacan:: 5. Ego Ideal and Superego: Lacan as a Viewer of Casablanca (pp. 79-90)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第29回	How to Read Lacan:: 6. 'God is dead, but He doesn't know it': Lacan Plays with Bobok (pp. 91-104)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第30回	How to Read Lacan:: 7. The Perverse Subject of Politics: Lacan as a Reader of Mohammad Bouyeri (pp. 105-120)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。学期末エッセイを作成し提出する。	180

授業の方法 (Dufresne) Seminar style class with short lectures. Each class will begin with a lecture, may include a video, and will proceed to an open seminar discussion about key terms and issues raised in the Readings. (日比野) ゼミ形式。前半は担当者が該当部分の要約を作成し、議論を行います。後半では『ラカンこう読み！』で扱われている映画作品（Ryan's Daughter, Alien, Eyes Wide Shut, A Few Good Menなど。後期第1週に詳細なリストを配布します）を事前に見ておき、該当箇所と言及しながら、担当者が独自の解釈ができることを期待します。『ラカンこう読み！』は翻訳が出ているので、翻訳で読み進めてもいいですが、
成績評価の方法 (Dufresne) Attendance & Participation 20% Oral Test 20% Essay Test 60% Final Essay 80% (日比野) 授業への積極的な参加 40% 中間試験 80% 学期末エッセイ 80%
成績評価の基準 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。
テキスト (Dufresne) Freud, Sigmund. TBA for purchase in Japanese or English. Freud, Sigmund. Reading Kit provided. (日比野) テリー・イーグルトン『文学とは何か——現代批評理論への招待（下）』（岩波文庫、2016年）ISBN：978-4-00-372042-4 Lionel Bailly, Lacan: A Beginner's Guide (Oneworld Publications, 2009) ISBN-13: 978-1851686377 スラヴォイ・ジジエク、鈴木晶訳『ラカンはこう読み！』（紀伊國屋書店、2008年）ISBN-13: 978-4314010368
参考書 (Dufresne) Dufresne, Todd. Tales From the Freudian Crypt: The Death Drive in Text and Context, Stanford: Stanford UP, 2000. ISBN-13: 978-0804734912 または トッド・デュフレーヌ、遠藤不比人訳、『〈死の欲動〉と現代思想』（みすず書房、2010年）ISBN-13: 978-4622074434 (日比野) Slavoj Zizek, How To Read Lacan (Granta Books, 2006) ISBN-13: 978-1862078949 Bruce Fink, A Clinical Introduction to Lacanian Psychoanalysis: Theory and Technique (Harvard University Press, 1999) ISBN-13: 978-0674135369 ブルース・フィンク、中西之信・椿田貴史・舟木徹男・信友建志訳『ラカン派精神分析入門—理論と技法』（誠信書房、2008年）
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育演習 A		
教員名	ロブソン ゴードン レーン		
科目ナンバー	2071312401	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
The theme of this class is research into individual learner differences. Based on the textbook, we will take a intensive look at the relationships between second language proficiency and personality, aptitude, motivation, learning styles, learning strategies, anxiety, creativity, the willingness to communicate, self-esteem and learner beliefs. We will begin with the history of research into individual learner differences, and the way in which such differences have been identified. We will then proceed through an intensive study of the previously listed variables. In addition to the textbook, key studies from each area of individual learner differences will be assigned for occasional student presentations.			
到達目標			
The goals of this coarse are to thoroughly familiarize students with the area of individual learner differences research, the type of instruments used, and the typical outcomes of such research. By providing students with this knowledge, it is hoped that it will contribute to their own areas of research interests.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction and Chapter 1, Individual Learner Differences -- Then and Now		
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14		90 min.
第2回	Chapter 1, cont.		
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14.		90 min
第3回	Chapter 2, Personality		
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34		90 min

第4回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34. Students will also read Dewaele & Furnham, Extraversion: The unloved variable in applied linguistic research with one student providing a summary.	90 min
第5回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34.	90 min
第6回	Chapter 3, Language Aptitude	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第7回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Nagata, Aline & Ellis, Modified input, language aptitude and the acquisition of word meanings with one student providing a summary.	90 min
第8回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第9回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Ross, Yoshinaga & Sasaki, Aptitude-exposure interaction effects on Wh-movement violation detection by pre- and post-critical period Japanese bilinguals with one student providing a summary.	90 min

第10回	Chapter 4, Motivation	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第11回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Noels, Clement & Pelletier, Intrinsic, extrinsic, and integrative orientations of French Canadian learners of English with one student providing a summary.	90 min
第12回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第13回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Ushioda, Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking with one student providing a summary.	90 min
第14回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第15回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the course. Students will announce their research areas.	90 min
第16回	Course introduction & Chapter 5, Learning Styles and Cognitive Styles	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min

第17回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139. Students will also read Dörnyei & Chan, Motivation and vision: An analysis of future L2 self images, sensory styles, and imagery capacity across two target languages with one student providing a summary	90 min
第18回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第19回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第20回	Chapter 6, Learning Strategies and Self-Regulation.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第21回	Chapter 6, cont.,	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169. Tseng, Dörnyei & Schmitt, A new approach to assessing strategic learning: The case of self-regulation in vocabulary acquisition with one student providing a summary.	90 min
第22回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第23回	Chapter 6, cont.	

	Students will be prepared to read and discuss pages 140–169.	90 min
第24回	Chapter 7, Other Learner Characteristics	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170–193.	90 min
第25回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170–193. Students will also read Horwitz, Language anxiety and achievement with one student providing a summary.	90 min
第26回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170–193.	90 min
第27回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170–193. Students will also read Yashima, Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context with one student providing a summary.	90 min
第28回	Chapter 8, Conclusion: Looking Back and Forward	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194–207.	90 min
第29回	Chapter 8, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194–207. Student research papers are due.	90 min
第30回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the courses.	90 min

授業の方法
This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented handouts and other materials. Students will be expected to actively participate during class time. Students will produce an individual learner differences study of between 10 and 20 pages in length. Students will also produce summaries of the assigned research studies.
成績評価の方法
The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 10% 2) summaries 20% and 3) research paper 70%.
成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目
N/A
テキスト
The Psychology of the Language Learner Revisited, Zoltan Dornyei and Stephen Ryan, Routledge, ISBN 978-1-138-01874-7
参考書
The Study of Second Language Acquisition, Second Edition, Rod Ellis.
質問・相談方法等(オフィス・アワー)
Questions will be taken before and after class.

科目名	T h e s i s W r i t i n g		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	2071313001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
This course will cover research skills, structure, writing planning and style, plus other areas related to the production of a postgraduate-level dissertation in English. The course is designed to offer a flexible approach to study, and can be tailored to individual student needs. The classes will be conducted in English.			
到達目標			
This course will give students a deeper understanding of: database usage reading for content annotation and literature reviews writing in an appropriate style presenting information concisely and cogently The course goals reflect DP7 and DP8			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction and overview of course, plus evaluation of individual student needs.		
	Material review and project work □	1-2 hours	
第2回	Writing/research skills: Developing a topic (1)		
	Sample topic derivation using in-class techniques	1-2 hours	
第3回	Writing/research skills: Developing a topic (2)		
	Sample topic derivation using in-class techniques	1-2 hours	

第4回	Writing/research skills: Structure and planning (1)	
	Sample plans on selected topics	1-2 hours
第5回	Writing/research skills: Structure and planning (2)	
	Expanded plans on selected topics, working towards first short paper	1-2 hours
第6回	Working with databases (1) – search terms	
	Material review and project work	1-2 hours
第7回	Working with databases (2) – reading for meaning	
	Material review and project work	1-2 hours
第8回	Annotation skills (1)	
	Short annotations following given format	1-2 hours
第9回	Annotation skills (2)	
	Short annotations following given format, working towards a full annotated bibliography	1-2 hours
第10回	Paper writing as a collaborative activity (1) – brainstorming and idea development	
	Material review and project work	1-2 hours

第11回	Paper writing as a collaborative activity (2) – peer reviewing skills	
	Material review and project work	1-2 hours
第12回	Written project workshop (a)	
	Developing longer research paper	1-2 hours
第13回	Written project workshop (b)	
	Developing longer research paper	1-2 hours
第14回	Written project workshop (c)	
	Developing longer research paper for submission	1-2 hours
第15回	Review of semester one and wrapup	
	Material review and self-evaluation	1-2 hours
第16回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins
第17回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins

第18回	Choosing Sources	
	Library Research	90 mins
第19回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第20回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第21回	Note-taking	
	Reading Sources	90 mins
第22回	Writing an introduction	
	Writing first draft of introduction	90 mins
第23回	Writing an introduction	
	Writing first draft of introduction	90 mins
第24回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins

第25回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins
第26回	Writing about previous research	
	Writing first draft of previous research	90 mins
第27回	Research Method	
	Writing first draft	90 mins
第28回	Research Method	
	Writing first draft	90 mins
第29回	Research Results/Discussion	
	Writing first draft	90 mins
第30回	Putting it all together and review	
	Write final draft of your paper	90 mins

授業の方法

The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade for semester one (Dr. Ralph) will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation and activities 20%
- 2) short paper 20%
- 3) annotated bibliography 30%
- 4) longer paper 30%

The final grade for semester two (Dr. Matikainen) will be based on the following criteria:

Classroom participation and activities 30%
Writing drafts throughout the semester 30%
Final paper 40%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Other material will be sourced by students as required.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Office hour is shown on the the university portal site.

科目名	イギリス文学コア・カリキュラムB		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	2071313012	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
本コア・カリキュラムでは、ブラック・ブリティッシュ作家のキャリル・フィリップスのヨーロッパ旅行記（The European Tribe, 1987, by Caryl Phillips）を読むことで、筆者のいう「ヨーロッパ内の他者」という立ち位置がどのようなものであるのかを理解する。			

到達目標			
「ポストコロニアル批評」の知識を深め、具体的な英語圏文学の作品の精読を通じて、文学作品の議論の仕方を学ぶ。Diploma Policyでいうと【文化現象の総合的理解】（DP6）と【問題発見能力および多面的な分析能力】（DP7）および【他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力】（DP8）を身につけることを到達目標としている。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業について		
	あらかじめ、シラバスに目を通しておく		60
第2回	作者、作品について		
	授業内容を確認する		60
第3回	The European Tribe (1)		
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく		60

第4回	The European Tribe (2)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第5回	The European Tribe (3)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第6回	The European Tribe (4)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第7回	The European Tribe (5)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第8回	The European Tribe (6)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第9回	The European Tribe (7)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60

第10回	The European Tribe (8)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第11回	The European Tribe (9)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第12回	The European Tribe (10)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第13回	The European Tribe (11)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第14回	The European Tibe (12)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第15回	総括	
	授業内容を振り返る	60

授業の方法

授業形態は、数名から成るグループがそれぞれ担当部分の要旨を述べ、論点を整理し、議論をおこない、そののちに教員やほかの受講生からのレスポンスをうけるという演習形式である。しかし、最初の数回の授業は、教員や英文のテキストに慣れてもらうために、講義形式を予定している。

成績評価の方法

授業への貢献度（30%）、学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

20世紀のイギリスについての基本的な知識があることが望ましい。

テキスト

Caryl Phillips, *The European Tribe* (Vintage Books, 1987). ISBN: 0-375-70704-2

参考書

加藤恒彦、『キャロル・フィリップスの世界』（世界思想社、2008年）
小林英里、「帝国の失われた子どもたち」、『二十一世紀の英語文学』（金星堂、2017年）
『MLAハンドブック第8版』（秀和システム、2017年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	批評理論コア・カリキュラムB		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071313032	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
Gregory Castle, The Literary Theory Handbook 2nd ed. を取り上げ、特にその第二部“The Scope of Literary Theory”を精読することで、二〇世紀中葉から今世紀における批評理論の様々な問題意識を理解する。			
到達目標			
#1 批評理論の基本的語彙に通暁する #2 各批評理論の持つ限界と可能性について知る #3 批評理論を用いて論文を書けるようになる これらの目標を達成することによって、DP2およびDP7を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション: The Literary Theory Handbook: Introduction; The Nature of Literary Theory; What is Literature; The Practice of Theory; How to Use the Handbook (pp. 1-10) を読む		
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120	
第2回	The Literary Theory Handbook: 1 Rise of Literary Theory: Early Developments in Literary Theory; Modernism and Formalism, 1890s-1940s; Cultural and Critical Theory, 1930s-1960s; The Poststructuralist Turn, 1960s-1970s (pp. 11-32) を読む		
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120	
第3回	The Literary Theory Handbook: 1 Rise of Literary Theory: 1980s-1990s; Postmodernism and Post-Marxism, 1980s-2000s; Posthumanism: Theory at the Fin de Siecle; Conclusion (pp. 33-50) を読む		
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120	

第4回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 1 Form/Structure/Narrative/Genre, pp. 51-67を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第5回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 1 Form/Structure/Narrative/Genre, pp. 68-83を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第6回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 2 Ideology/Philosophy/History/Aesthetics, pp. 84-118を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第7回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 2 Ideology/Philosophy/History/Aesthetics, pp. 119-141を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第8回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 3 Languages/Systems/Texts/Readers, pp. 142-159を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第9回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 3 Languages/Systems/Texts/Readers, pp. 160-177を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120

第10回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 4 Mind/Body/Gender/Identity, pp. 178-197を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第11回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 4 Mind/Body/Gender/Identity, pp. 198-217を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第12回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 5 Culture/Ethnicities/Nations/Locations, pp. 218-241を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第13回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 5 Culture/Ethnicities/Nations/Locations, pp. 242-265を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第14回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 6 People/Places/Bodies/Things, pp. 266-282を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120
第15回	The Literary Theory Handbook : 2 The Scope of Literary Theory: 6 People/Places/Bodies/Things, pp. 283-312を読む	
	(発表担当者) 該当範囲の内容を的確に要約し、参考文献一覧を付したハンドアウトを作成して発表準備を行う。 (それ以外) 該当範囲を読み、理解が不十分であれば参考文献一覧に挙げられた任意の文献を読む。	120

授業の方法

演習形式。毎回発表担当者がハンドアウトを配布して発表を行い、それをもとに参加者全員でディスカッションを行います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加：50%

学期末レポート：50%

学期末レポートは、4000字以上で、自分の専門分野について任意の作品・主題を取り上げてください。その際、学んだ批評理論を実際に使ってみてください。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イーグルトン『文学とは何か』Literary Theory: An Introductionを読んだことがなければ、日本語の翻訳でよいので通読しておいてください。

テキスト

Gregory Castle, The Literary Theory Handbook 2nd ed. (Wiley-Blackwell, 2013) ISBN-13: 978-0470671955

参考書

テリー・イーグルトン、大橋洋一訳『文学とは何か——現代批評理論への招待』（上）（下）（岩波文庫、二〇一四年）ISBN-13: 978-4003720417, ISBN-13: 978-4003720424

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	2071314001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	2071314002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって修士論文にむけて演習指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

授業時に説明する。

成績評価の方法

定期的に提出する論文の質を判断の基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

定期的に提出をする論文の質を評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアル I		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	2071315001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のリサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	チュートリアルII		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	2071315002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究の方法の基礎を教育するとともに、学生の研究テーマにそって、研究分野の専門的議論を英語でまとめられるように指導を行う。

到達目標

DP9を実現するために、以下の2点を到達目標とする。

- ① 文献のサーチの方法を学ぶ。
- ② 文学批評理論を学び、学生が自分の専門分野において優れた研究論文を書く能力の養成を目指す。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

適宜授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学共通講義Ⅰ		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070421001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
江戸時代末期の御籤本『神代正語籤 全』を読みながら、近代における和歌みくじの変化とおみくじにおける和歌の意義を考える。			
到達目標			
DP 6・DP 7・DP 8を実現するため、次の四点を到達目標とする。 ①幕末～明治における和歌みくじの意義について説明できる。 ②日本の和歌みくじ史上における『神代正語籤 全』の位置付けを説明できる。 ③変体仮名を翻刻できる。 ④『神代正語籤 全』の各籤の内容を正確に理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	シラバスを読んでおく。		60分
第2回	近代における和歌みくじ		
	事前に配布する論文を読んでおく。		60分
第3回	『神代正語籤 全』とは		
	前回の授業内容のふりかえり。		60分

第4回	『神代正語籤 全』を読む 1	
	指定の課題を行う。	60分
第5回	『神代正語籤 全』を読む2	
	指定の課題を行う。	60分
第6回	『神代正語籤 全』を読む3	
	指定の課題を行う。	60分
第7回	『神代正語籤 全』を読む4	
	指定の課題を行う。	60分
第8回	『神代正語籤 全』を読む5	
	指定の課題を行う。	60分
第9回	『神代正語籤 全』を読む6	
	指定の課題を行う。	60分

第10回	『神代正語籤 全』を読む7	
	指定の課題を行う。	60分
第11回	『神代正語籤 全』を読む8	
	指定の課題を行う。	60分
第12回	『神代正語籤 全』を読む9	
	指定の課題を行う。	60分
第13回	『神代正語籤 全』を読む10	
	指定の課題を行う。	60分
第14回	『神代正語籤 全』を読む11	
	指定の課題を行う。	60分
第15回	まとめ	
	前期のふりかえり	60分

授業の方法

近代におけるおみくじの変化について講義したのち、版本『神代正語籤 全』を読み進める。変体仮名読解の訓練のため、毎回、授業で読む部分の変体仮名を翻刻を行う。

成績評価の方法

授業時の発言・発表(50%)、課題レポート(50%)で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「古典文学共通講義Ⅰ」(前期)と「古典文学共通講義Ⅱ」(後期)は、どちらも「おみくじ」をテーマとする。理解を深めるため、通年での受講を推奨する。

テキスト

『字典かな 改訂版』笠間書院(360円)、その他プリント、またはPDFファイルを配布する。

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学共通講義II		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070421002	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
江戸時代末期の御籤本『神代正語籤 全』を読みながら、近代における和歌みくじの変化とおみくじにおける和歌の意義を考える。近代の和歌みくじについて学んだ知見を応用し、現代の和歌みくじのありかたについても検討する。おみくじについての学びの総まとめとして、現代の和歌みくじである天祖神社歌占にかんするプロジェクトにも関わる。			
到達目標			
DP 6・DP 7・DP 8を実現するため、次の五点を到達目標とする。 ①幕末～明治における和歌みくじの意義について説明できる。 ②日本の和歌みくじ史上における『神代正語籤 全』の位置付けを説明できる。 ③変体仮名を翻刻できる。 ④『神代正語籤 全』の各籤の内容を正確に理解できる。 ⑤和歌みくじの文化をわかりやすく発信できる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス・前期のふりかえり		
	シラバスを読んでおく。前期から続けての履修者は前期の資料を復習しておく。	60分	
第2回	『神代正語籤 全』を読む 1		
	指定の課題を行う。	60分	
第3回	『神代正語籤 全』を読む 2		
	指定の課題を行う。	60分	

第4回	『神代正語籤 全』を読む 3	
	指定の課題を行う。	60分
第5回	『神代正語籤 全』を読む 4	
	指定の課題を行う。	60分
第6回	『神代正語籤 全』を読む 5	
	指定の課題を行う。	60分
第7回	『神代正語籤 全』を読む 6	
	指定の課題を行う。	60分
第8回	『神代正語籤 全』を読む 7	
	指定の課題を行う。	60分
第9回	『神代正語籤 全』を読む 8	
	指定の課題を行う。	60分

第10回	天祖神社歌占プロジェクト1	
	指定の課題を行う。	60分
第11回	天祖神社歌占プロジェクト2	
	指定の課題を行う。	60分
第12回	天祖神社歌占プロジェクト3	
	指定の課題を行う。	60分
第13回	天祖神社歌占プロジェクト4	
	指定の課題を行う。	60分
第14回	天祖神社歌占プロジェクト5	
	指定の課題を行う。	60分
第15回	まとめ	
	後期のふりかえり	60分

授業の方法

幕末に出版された版本『神代正語箋 全』を読み進める。変体仮名読解の訓練のため、毎回、授業で読む部分の変体仮名を翻刻を行う。

成績評価の方法

授業時の発言・発表(50%)、課題レポート(50%)で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「古典文学共通講義Ⅰ」(前期)と「古典文学共通講義Ⅱ」(後期)は、どちらも「おみくじ」をテーマとする。理解を深めるため、通年での受講を推奨する。

テキスト

『字かな 改訂版』笠間書院(360円)、その他プリント、またはPDFファイルを配布する。

参考書

中村啓信『新版 古事記』(角川ソフィア文庫)、その他、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学共通講義 I		
教員名	杉井 和子		
科目ナンバー	2070421011	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義は、日本の近代文学史の流れの中での、特に私小説の問題に注目する。日本の昔話、西洋の童話、古い伝承などの広範な文学ジャンルを視野に入れ、そのことが近代作家のあらたなモチーフとどのようにつながるか、作家が私を語るために伝承に題材を求めたのは何故かを考察していく。語り手の位置について、特にこだわりながら、作家の意図、文体などを細かく分析し、原典とともに時代思潮をも理解していく。大正期の小説から、ポストモダンの小説へと飛びながら、その描かれた現代を、作家の意図とともに探る。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1回 イン트로ダクション 「浦島太郎」「赤頭巾」「不思議の国のアリス」「クマのプーさん」のお話をまずまとめてみる。	
	小さい頃に読んだ、4つの童話、昔話を思い出してまとめてみる。どんな教訓とともに読んだかもまとめる。	60
第2回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。	
	難解な小説を読解するため、どのような方法をとればいいのかを考える。	60
第3回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 原典がどう作り変えられているか、特にあらたな小説のキーワードを細かく抽出して、現代小説の問題点をまず、探る。	
	作品成立の時代背景、作家の特質などの理解をしながら、理解を深めていく。	60

第4回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 この新小説のなかに存在する2つの対立図式をくみためながら、問題に近づいていく。	
	話のモチーフを明確にし、風刺や社会批判の意識をできるだけ文中の語から読み取っていく。	60
第5回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 読解に有効な参考文献を読む。	
	原作との比較対照の上で、作家のモチーフに近づいていく。	60
第6回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 「私は誰？」という問いかけと、それを促す人間の共通体験について考える。	
	作家について。高橋の日本文学史のあらたな切り込みを参考にして、語り手の問題がどう焦点化されているかを理解する。	60
第7回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」をまとめる。この小説には現代がどんな問題として表象されているのかをまとめる。	
	文章を読み、「私小説」と昔話の接点を説明していく。	60
第8回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	独特な言い回し、着眼の面白さをまとめる。	60
第9回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	作家の語ろうとする内容をよりすっきりと説明していく。	60

第10回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	原作が提起する問題をまとめ、高橋の浦島物語との違いをまとめる。	60
第11回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	現実をどのような方法でそれらしく映し出しているか、作者が浦島を援用する目的は何かをまとめる。	60
第12回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	文中で作家自身の説明が述べられる所について考える。	60
第13回	宇野浩二の甘き世の話「新浦島太郎物語」を読む。	
	この題名がなにを意味しているか、原作のモチーフを明らかにしながら、比較対照をする。	60
第14回	「浦島太郎」の話のどんなパロディかをまとめていく。 この小説のタイトルの意義を考察する。	
	客観描写、風景描写、心情描写と根本的に異なる小説のなかに、その意図を読み取っていく。	60
第15回	まとめ 伝承物語の受容によって、現代小説はなにを表現できるようになったか、「私」が置かれた現代とともに、「私」の表現についてまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、あらたに書き加えられた意義を、時代思潮とともにまとめてみる。	60

授業の方法

作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法

授業時の発表（50%）レポート（50%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト

授業はすべてプリント。

「さよならクリストファーロビン」 高橋源一郎 岩波書店

「ペロー寓話集」 岩波文庫

「不思議の国のアリス」 岩波文庫 「クマのプーさん」 岩波書店 「宇野浩二集」

参考書

「いまファンタジーにできること」 アーシュラ K ル・グイン 河出書房新社

「いま読むペロー」 工藤庸子 羽鳥書店

「日本文学盛衰史」 高橋源一郎 講談社

「日本文学の表現機構」 安藤宏 岩波書店

「近代文体発生の史的研究」 山本正秀 岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近代文学共通講義II		
教員名	杉井 和子		
科目ナンバー	2070421012	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
本講義は、共通講義Ⅰに引き続き、歴史小説をもとにして、日本の近代文学史に迫っていく。特に、小説が書かれた時代、どんな歴史的背景の中で成立したかを丹念に見ていく。日本の近代小説を、伝承物語などを原典として再創造されたものに注目し、その変化、ずらしを細かく読み取り、両者の表現および思潮を捉え考察していく。様々な観点から作品分析を行い、その作家の生きた時代の意味をも理解していく。翻案という考え、また、歴史小説としての視点を含め、作家の批評意識に触れる。作家の意図、文体、原作の改変などを細かく分析しながら、原典とともに近代小説を捉え返し、時代思潮をも理解していく。			
到達目標			
基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。 戯作的なもの、怪奇小説的なものにも眼を向け、風刺へと発展していくプロセスをも見ていく。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1回 インTRODクシヨ 近代小説における翻案小説、再話の意義を解説し、さまざまな翻案や翻訳小説の紹介を行う。これから取り組む小説と評論についてのガイダンスをおこなう。		
	これまで自分の取り組んだ翻案について、また、初めて扱う翻案について理解を深める。	60	
第2回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。 織田の西鶴の現代語訳なども合わせて読んでいく。		
	異文化と、その語りの違いを確認しながら、枠組み小説に対する問題意識をもつ。この小説のモチーフを明らかにする。	60	
第3回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。歴史的な人物の自在な表現方法をまとめる。		
	この話が日本人にどう受け止められていったのか。さらに続けて考察していく。	60	

第4回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作品の成立事情、内容を理解し、読後の印象をまとめる。どのような意図を表すか、その意図を探る。	60
第5回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作者のこだわりや、表現上の特異な点を見つけていく。	60
第6回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読み込んでいく。昭和18年の作品の背景とともに読んでいく。この中で語る「私」がどのような特徴をもっているかに拘っていく。	
	どのような意識で原典を用いたのか、小説中の重要な言葉とそこに意味されたものを自分で解釈する。	60
第7回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。作家が英国少佐の心理を風刺しているのはどんな点か、をまとめる。	
	真面目にどんなことを考えているのか、考えていく。戦争の問題意識のありようとともに考え合わせていく。	60
第8回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	改変の意義を、自らの作品論としてまとめる。	60
第9回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	内容に合わせて、文体や表現の特徴をつかむ。	60

第10回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。 作家が時代に抗っていく形を読み込む。	
	英国少佐に語らせた意味をまとめる。	60
第11回	半村良の「筆筈」を読む。この小説は、なにを恐怖として描いているか。	
	題名や、筆筈というものの持つ意味性を捉える。その意義を考える。	60
第12回	半村良の「筆筈」を読む。	
	この小説の面白さについて自分の考えをまとめる。	60
第13回	半村良の「筆筈」を読む。主語の自在な変化を意味化していく、	
	作家の独特な表現の可能性を考察する。	60
第14回	この時期のエンターテイナーによる、あらたな小説の可能性を絞っていく。外国の小説の何を取り入れて自らの創作の樹立をめざしたのか、同時期の小説に照らして考察する。	
	特に、ジャンルや表現方法によって小説を位置づける。具体的に小説の言葉を抽出しながら説明し、考察する。	60
第15回	まとめ 日本の近代文学の史的な発展をまとめる。特に戦後の戯作はの活動に通目し、作家の私の意識の自在な変転の面白さをまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、時代思潮もまとめてみる。	60

授業の方法

作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法

授業時の発表（50%）レポート（50%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト

授業はすべてプリント。
「織田作之助全集 2巻」文泉堂
「表現の冒険」講談社文庫

参考書

「織田作之助文藝事典」浦西和彦 和泉書店大空社
「大阪近代文学作品事典」浦西和彦 和泉書店
「日本の名随筆 謎」半村良作品社
「近代小説の表現機構」安藤宏 岩波書店
「近代文体発生の史的研究」山本正秀 岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学共通講義 I		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070421021	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
日本語レトリック論の概要と分析手法を習得する。 テキストは、日本語を題材としてさまざまなレトリックについて平易に解説している。このテキスト及び関連研究論文を丁寧に検討していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の2点を到達目標とする。 ・日本語レトリック論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。 ・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。		10
第2回	テキスト(1) 第1章～第2章と関連文献の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90
第3回	テキスト(1) 第3章と関連文献の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90

第4回	テキスト（１）第４章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト（１）第５章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト（１）第６章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト（１）第７章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト（１）第８章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト（１）第９章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト（１）第10章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト（１）第11章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト（１）第12章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト（１）第13章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	テキスト（１）第14章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	まとめ	
	前期の授業の内容を振り返り、理解が至っていない点を明確にする。	90

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目しその到達度により評価を行う。

- ・日本語レトリック論の基本知識と分析方法を理解しているか。
- ・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

森雄一『学びのエクササイズ レトリック』（ひつじ書房）

関連研究文献については授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学共通講義II		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070421022	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。 テキストは、認知言語学的な観点からのメタファー論の概説として優れたものである。この書物を読み、十分に理解した後で関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の3点を到達目標とする。 ・認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。 ・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。		10
第2回	テキスト第1章、第2章の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90
第3回	テキスト第2章の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90

第4回	テキスト第2章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト第4章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト第6章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト第7章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目しその到達度により評価を行う。

- ・ 認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
- ・ 他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

谷ロー美著『認知意味論の新展開 メタファーとメトニミー』（研究社）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学研究 B		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070422042	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
近代日本文学の研究。 発表と討議、情報交換を通して、演習参加者各自の研究を深める。 原則的には統一テーマを設けないが、参加者の人数と意欲次第では特定のテキストを決めて共同研究を行う。 なお、研究科オリエンテーションおよび第一回の授業には必ず出席すること。			
到達目標			
DP6～8を実現するため、以下を到達目標とする。 近代文学についての理解を深め、自ら主体的に研究する力、研究成果を発表し、論文にまとめる力を身につける。 『人文研究』または『成蹊国文』ほかに論考を掲載する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	演習の進め方について検討し、発表順序を決める。		
	シラバスを読み、自分の研究テーマの意義や可能性などについて考え、メモをしておく。	60	
第2回	発表と討議 1		
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90	
第3回	発表と討議 2		
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90	

第4回	発表と討議 3	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第5回	発表と討議 4	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第6回	発表と討議 5	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第7回	発表と討議 6	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第8回	発表と討議 7	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第9回	発表と討議 8	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第10回	発表と討議 9	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第11回	発表と討議 1 0	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自 ら論点を用意しておく。	90
第12回	発表と討議 1 1	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自 ら論点を用意しておく。	90
第13回	発表と討議 1 2	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自 ら論点を用意しておく。	90
第14回	発表と討議 1 3	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自 ら論点を用意しておく。	90
第15回	前期反省会	
	半期の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90
第16回	後期の演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	自らの発表の準備を進めておく。	90
第17回	発表と討議 1 4	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自 ら論点を用意しておく。	90

第18回	発表と討議 1 5	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第19回	発表と討議 1 6	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第20回	発表と討議 1 7	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第21回	発表と討議 1 8	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第22回	発表と討議 1 9	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第23回	発表と討議 2 0	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第24回	発表と討議 2 1	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第25回	発表と討議 2 2	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第26回	発表と討議 2 3	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第27回	発表と討議 2 4	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第28回	発表と討議 2 5	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第29回	発表と討議 2 6	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第30回	反省会	
	1年間の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90

授業の方法

輪番による発表と討議を基本のスタイルとする。
発表時間数などは受講者との相談で決める。

成績評価の方法

発表と討議をそれぞれ約40%、その他の自主研究の成果約20%の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・ 授業で学んだ近代文学についての理解が身についているか。
- ・ 自ら主体的に研究したか。
- ・ 口頭発表を行い、論文等の形にまとめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

発表者との相談にて決定する。

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古代文学演習 A		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070422102	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
『古今和歌集』の読解演習。 『古今和歌集』に収められた和歌を、『万葉集』との繋がりがりやその後の平安和歌の展開、また中国文学との関係などを意識しながら、丁寧に読み解いていく。			
到達目標			
DP 8 を実現するために、次の 2 点を到達目標とする。 ・ 古典和歌が正確に読解できる。 ・ 古典和歌の解釈上の問題点を発見し、それを客観的に解決に導ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 『古今和歌集』の伝本や主要研究書など、基礎的な知識について講義する。		
	『古今和歌集』を読み解くための基礎知識について確認する。		60
第2回	春の歌 1		
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。		60
第3回	春の歌 2		
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。		60

第4回	春の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第5回	春の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第6回	春の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第7回	夏の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第8回	夏の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第9回	夏の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第10回	秋の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第11回	秋の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第12回	秋の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第13回	秋の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第14回	秋の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第15回	冬の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第16回	冬の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第17回	冬の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第18回	賀の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第19回	離別の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第20回	羈旅歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第21回	物名の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第22回	恋の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第23回	恋の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第24回	恋の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第25回	恋の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第26回	恋の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第27回	哀傷歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第28回	雑歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第29回	雑歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第30回	雑躰歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

平常点（４０％）および発表内容（６０％）を中心に総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業中に指示する。

参考書

鈴木日出男『古代和歌史論』（東京大学出版会）
小島憲之『古今集以前』（塙書房）
片桐洋一『古今和歌集の研究』（明治書院）
鈴木宏子『古今和歌集表現論』（笠間書院）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近世文学演習		
教員名	揖斐 高		
科目ナンバー	2070422131	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
江戸時代後期の文政11年（1828）に出版された、近世の学者・文人などの漢文体逸話集『近世叢語』を読解する。			
到達目標			
①漢詩文の訓読と注釈、現代語訳の能力を涵養する。 ②江戸時代の学者・文人たちの伝記を調査し、その言行の意味を考察する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方などを説明する。 ・『近世叢語』の概略と著者角田九華の伝記の概略を説明する。		
	シラバスによく目を通しておくこと。		10
第2回	佐藤一斎の序文と頼山陽の序文の読解演習。		
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。		90
第3回	角田九華の自序と「凡例」の読解演習。		
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。		90

第4回	巻1「徳行」林羅山の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第5回	巻1「徳行」中江藤樹の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第6回	巻1「徳行」貝原益軒の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第7回	巻1「徳行」五井持軒の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第8回	巻1「徳行」谷一斎の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第9回	巻1「徳行」綾部道弘（上）の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第10回	巻1「徳行」綾部道弘（下）の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第11回	巻1「徳行」農夫五郎・内藤平常・越智平庵の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第12回	巻1「徳行」樵夫清七・細井広沢の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第13回	巻1「徳行」安芸国の孝子ほかの読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第14回	巻1「徳行」後藤良山の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第15回	巻1「徳行」雨森芳洲の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。。	90
第16回	巻1「徳行」荻生徂徠の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第17回	巻1「徳行」太田見良・大神沢一・山県周南の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第18回	巻1「徳行」伊藤介亭・広瀬才二の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第19回	巻1「徳行」宮崎筠圃・若狭国の農夫の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第20回	巻1「徳行」望月鹿門・僧義寛・井上仲八の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第21回	巻1「徳行」片山北海・永田佐吉の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第22回	巻1「徳行」三浦梅圃の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第23回	巻1「徳行」永田東皐・伊藤茂臣ほかの読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第24回	巻2「言語」永田善斎の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第25回	巻2「言語」佐藤直方の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第26回	巻2「言語」浅見絢斎の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第27回	巻2「言語」梨木三位・五井持軒・三宅尚斎の読解演習。	
	今回演習予定の作品について前もってしておくこと。	90
第28回	巻2「言語」千田大円堂ほかの読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第29回	巻2「言語」新井白石の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第30回	まとめ	
	これまで演習した作品の問題点を考えておくこと。	60

授業の方法

ガイダンス講義を行なった後に、授業参加者に担当箇所を割り当て、順次演習形式で読解してゆく。担当発表者は発表資料を準備し、それに基づいて発表することとし、その発表について、出席者全員で質疑応答し、発表担当者の読解を補正する。

成績評価の方法

分担発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

返り点の付された漢文を書き下す能力があること。

テキスト

江戸時代に出版された板本のコピーを配付する。

参考書

必要に応じて指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	近代文学演習 A		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070422141	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
近代小説の読み解きを通じた作品論の可能性について考える。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6実現にむけ、次の三点を到達目標とする。 日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じている。 文学史の常識に通じている。 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスを身につけている。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス授業		
	【予習】シラバスを読み。日本近現代文学史に関する自分の知識や理解を顧み、また自分の研究テーマの文学史的意義付けについて考え、結果をメモしておく。		60分
第2回	ゼミの具体的な進め方について話し合う。		
	【予習】ガイダンスを踏まえて、テキストの内容を点検しておく。 【復習】話し合いの内容を反芻し、自分なりの演習スケジュールを確認する。		60分
第3回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。		
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。		90分

第4回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第5回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第6回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第7回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第8回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第9回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第10回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第11回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第12回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第13回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第14回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第15回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第16回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第17回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第18回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第19回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第20回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第21回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第22回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第23回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第24回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第25回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第26回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第27回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第28回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第29回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第30回	今期の演習についてその成果と反省点等を全員で振り返り話し合う。	
	【予習】各自自分の参加態度も含めて今期の演習の流れについて省みる。 【復習】話し合いを反芻し必要なメモをとる。	60分

授業の方法

担当者による発表と、全員による議論からなる演習を重ねる。臨機に共同研究のような試みも入れる予定。

成績評価の方法

総合評価。平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）（40%）、発表（40%）、レポート等（20%）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ① 日本近代文学の基本的なパースペクティブに通じているか。
- ② 文学史の常識に通じている。
- ③ 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスが身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

未定

参考書

適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学演習 A		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070422151	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
日本語を専門的に研究する際に必要な知識・能力を身につけるために、資料や研究文献を精読する。 授業では、受講生に、興味・関心を抱いている日本語関連の問題点や、現在追究している課題等について述べてもらい、関わりのある文献資料や先行研究を詳しく読み進めながら、考察し議論することにした。			
到達目標			
DP2 (課題の発見と解決)、6 (専門分野の知識・理解) を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①的確に日本語の用例を収集・分析し、高度な日本語研究を行うことができる。 ②日本語学・日本語資料に関する事項を理解し、詳細に説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス - 授業の進め方を説明する。 追究するテーマの披露 - 各自に関心を持っている問題点について述べてもらう。		
	追究したいテーマについてある程度の内容を話せるよう準備しておく。		60
第2回	精読する文献資料の選定 追究するテーマに関する小発表 テーマに関する知識を披露する。		
	追究したいテーマやその先行研究に関する知識をまとめておく。		60
第3回	文献資料についての解説 先行研究に関する発表		
	資料に関する先行研究を探しておく。		120

第4回	資料及び研究文献の精読（１）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第5回	資料及び研究文献の精読（２）	
	課題を復習する。	60
第6回	資料及び研究文献の精読（３）	
	課題を復習する。	60
第7回	資料及び研究文献の精読（４）	
	課題を復習する。	60
第8回	資料及び研究文献の精読（５）	
	課題を復習する。	60
第9回	資料及び研究文献の精読（６）	
	課題を復習する。	60
第10回	資料及び研究文献の精読（７）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60

第11回	研究テーマに関する発表（１）	
	発表の準備をする。	60
第12回	資料及び研究文献の精読（８）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第13回	資料及び研究文献の精読（９）	
	課題を復習する。	60
第14回	資料及び研究文献の精読（10）	
	課題を復習する。	60
第15回	資料及び研究文献の精読（11）	
	課題を復習する。	60
第16回	資料及び研究文献の精読（12）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第17回	研究テーマに関する発表（２）	
	発表の準備をする。	120

第18回	資料及び研究文献の精読（13）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第19回	資料及び研究文献の精読（14）	
	課題を復習する。	60
第20回	資料及び研究文献の精読（15）	
	課題を復習する。	60
第21回	資料及び研究文献の精読（16）	
	課題を復習する。	60
第22回	資料及び研究文献の精読（17）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第23回	研究テーマに関する発表（3）	
	発表の準備をする。	120
第24回	資料及び研究文献の精読（18）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60

第25回	資料及び研究文献の精読（19）	
	課題を復習する。	60
第26回	資料及び研究文献の精読（20）	
	課題を復習する。	60
第27回	資料及び研究文献の精読（21）	
	課題を復習する。	60
第28回	資料及び研究文献の精読（22）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第29回	資料及び研究テーマに関する発表	
	発表の準備をする。	120
第30回	授業のまとめ	
	不足している知識等を確認する。	60

授業の方法

講読・演習形式

成績評価の方法

発表内容（50%程度）、授業中の発言・質問など授業への積極的な参加（50%程度）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の用例を的確に収集し、高度な分析ができる。
②日本語学・日本語資料に関する事項について詳細な説明ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習 I		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070423001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070423002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、修士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（修士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 修士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070424001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070424002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行い、よりよい課題研究が行えるよう指導をする。

到達目標

DP7（「特定課題研究の成果」の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・「特定課題研究の成果」を執筆するために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際社会文化研究 I		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071331103	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、国際関係を文化の文脈から分析する作業を、文献講読を中心に行う。受講者の関心もふまえて具体的な対象国・地域やトピックを絞り、関連する文献を選定し、講読する。英語およびドイツ語の文献を用いる予定である。			
到達目標			
主にDP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）を実現するため、国際関係と文化にまつわる諸問題・諸議論について理解を深め、各人の研究に役立てることを目標とする。対話型の授業はDP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）の実現にもつながる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	〈具体的な授業の進め方は、受講者と相談の上決定する。〉 イントロダクション （授業の概要と問題意識を解説し、受講者の問題関心を聴取する。）		
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。		30
第2回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）		
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。		120
第3回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）		
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。		60～120

第4回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第5回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第6回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第7回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第8回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第9回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第10回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第11回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第12回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第13回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第14回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者に、授業での文献講読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。)	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第15回	授業前半のふり返りと今後の研究計画相談 (前半の授業を総括するとともに、後半の授業の方向性や、各人の研究の展望などについて意見を交換する。)	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60

授業の方法

主として外国語（英語またはドイツ語）の文献講読をベースにした対話型の授業を行う。受講者は課題となる文献を予習し、授業で文章の日本語訳あるいは主要な論点、内容に対する批判的考察を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法

授業への出席50%、毎回の課題の実施状況50%をめやすに、総合的に評価する。討論への積極的参加や、授業の成果を応用した研究の進展などがみられた場合は、加点を与える。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「国際関係論」「国際文化論」「文化人類学」や各国・地域の歴史、およびまた、それらに関連した内容の授業を、少しでも履修していることが望ましい。

テキスト

開講時および開講後に受講者の問題関心や希望を聴取し、その上で決定する。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化研究II		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071331104	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、国際関係を文化の文脈から分析する作業を、文献講読を中心に行う。受講者の関心もふまえて具体的な対象国・地域やトピックを絞り、関連する文献を選定し、講読する。英語およびドイツ語の文献を用いる予定である。			
到達目標			
主にDP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）を実現するため、国際関係と文化にまつわる諸問題・諸議論について理解を深め、各人の研究に役立てることを目標とする。対話型の授業はDP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）の実現にもつながる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	〈具体的な授業の進め方は、受講者と相談の上決定する。〉 イントロダクション （授業の概要と問題意識を解説し、受講者の問題関心を聴取する。）		
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。		30
第2回	受講者の研究概要と文献調査の報告 （受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。）		
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。		120
第3回	文献講読 （テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。）		
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。		60～120

第4回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第5回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第6回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第7回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第8回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第9回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第10回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第11回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第12回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第13回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第14回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者に、授業での文献講読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。)	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第15回	授業前半のふり返りと今後の研究計画相談 (前半の授業を総括するとともに、後半の授業の方向性や、各人の研究の展望などについて意見を交換する。)	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60

授業の方法

主として外国語（英語またはドイツ語）の文献講読をベースにした対話型の授業を行う。受講者は課題となる文献を予習し、授業で文章の日本語訳あるいは主要な論点、内容に対する批判的考察を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法

平常点50%、毎回の課題の実施状況50%をめやすに、総合的に評価する。討論への積極的参加や、授業の成果を応用した研究の進展などがみられた場合は、加点を与える。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「国際関係論」「国際文化論」「文化人類学」や各国・地域の歴史、およびまた、それらに関連した内容の授業を、少しでも履修していることが望ましい。

テキスト

開講時および開講後に受講者の問題関心や希望を聴取し、その上で決定する。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	文化人類学研究Ⅰ		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071331201	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
本授業は、文化人類学の一分野である音楽人類学および音文化研究に関して学修する。具体的なテーマとして、アラブ芸術の中で最も理論化の進んだアラブ古典音楽を取り上げ、その歴史的発展過程と構造的特徴を研究する。音楽理論の知識は必ずしも要求しないが、フランス語の資料を輪読するので、受講者はフランス語の素養を身につけていることが望ましい。もちろんアラビア語の知識があればそれに越したことはない。			
到達目標			
DP6およびDP8を実現するため、次の5点を到達目標とする。 1. 文献情報を的確に収集できる。 2. 音楽人類学についての基礎知識を身につける。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 理論的思考を行うことができる。 5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	導入 ・ 演習の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 ・ 使用する予定の資料群の概要を説明する。		
	[予習]シラバスをよく読んで、1年間の学修予定を理解しておく。	90	
第2回	文化人類学と音文化研究 ・ 音文化研究が文化人類学の中に占める位置を学修する。		
	[予習]文化人類学の学説史を振り返っておく。 [復習]音文化研究の位置づけを確認する。	90	
第3回	アラブ音楽の前夜 ・ ジャーヒーリーヤ時代のアラビア半島の音文化を学修する。		
	[予習]7世紀までのオリエント史を振り返っておく。	90	

第4回	イスラームの音文化 ・イスラームの誕生とともに成立した音文化を学修する。	
	[予習]イスラームの基本である六信五行を確認しておく。	90
第5回	三つの音楽群 ・ウマイヤ朝時代からアッバース朝時代に成立した都市・地方・砂漠の歌の特徴を学修する。	
	[予習]初期イスラーム史を振り返っておく。	90
第6回	「歌の書」とアラブ音楽の隆盛 ・イスバハーニーの「歌の書」の情報内容を学修する。 ・バグダードの宮廷音楽の特徴を学修する。	
	[復習]アッバース朝文化の特徴を理解しておく。	90
第7回	むくどり革命 ・「むくどり」というあだ名で有名な大音楽家ズィルヤーブの生涯と、彼が残した革命的文化遺産を学修する。	
	[予習]北アフリカのイスラーム史を調べておく。	90
第8回	アンダルシアの春 ・9世紀から15世紀に花開いたアンダルシア地方のアラブ文化を、音楽を中心に学修する。	
	[予習]アンダルシア史と中世スペイン史を振り返っておく。	90
第9回	レコンキスタの残像 ・レコンキスタによってイベリア半島を追われたムスリムとユダヤ教徒の、その後の足跡を北アフリカ・地中海世界に追う。	
	[予習]中世ユダヤ史を調べておく。	90

第10回	ユダヤ音楽の足跡 ・中世スペイン文化の成立に不可欠な役割を果たしたユダヤ音楽（＝セファルディーム音楽）の特徴と、レコンキスタ以降のユダヤ音楽の命運を追う。	
	[予習]16世紀を中心とした地中海世界の歴史を調べておく。	90
第11回	アンダルシアの残照 ・アラブ音楽とユダヤ・セファルディーム音楽に託されたアンダルシア文化の栄華を学修する。	
	[予習]アンダルシア文化に含まれた思想や哲学の業績を調べておく。	90
第12回	アラブ＝アンダルシア音楽の継承 ・アラブ＝アンダルシア音楽がレコンキスタ以降、北アフリカ各地で継承されていったプロセスを学修する。	
	[予習]16世紀以降の北アフリカ史を調べておく。	90
第13回	三つのアンダルシア音楽 ・モロッコ、アルジェリア、チュニジアでそれぞれに展開したアンダルシア音楽の特徴を学修する。	
	[復習]3国の音楽の違いを理解する。	90
第14回	ヌーバの伝統の成立 ・モロッコで展開されたアンダルシア音楽の16世紀から19世紀までの歩みを学修する。	
	[復習]モロッコ中世史と音楽の関わりを理解する。	90
第15回	イスラーム教団と音楽 ・イスラーム教団で使用する音・声とアンダルシア音楽の結びつきを学修する。	
	[復習]イスラーム教団で使用する声の技芸の特徴を整理する。	90

授業の方法

受講者は各回のテーマに応じてあらかじめ指定された資料をよく読んで、レジюмеを作成し、発表する。授業では受講者全員によるディスカッションを通じてテーマの理解を深める。

成績評価の方法

発表（40%）、授業中の発言・コメント・討議（30%）、2回程度の課題レポート（30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
上記「到達目標」に掲げた以下の諸点の達成度により評価する。

1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：イスラーム史、文化人類学の基礎。

テキスト

各回ごとにあらかじめ指示する（フランス語によるテキストが主流になる）。

参考書

授業中、適宜指示する。
辞典類（文化人類学事典、音楽事典など）は各自調達することが望ましい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	文化人類学研究II		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071331202	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

本授業は、文化人類学の一分野である音楽人類学および音文化研究に関して学修する。具体的なテーマとして、アラブ芸術の中で最も理論化の進んだアラブ古典音楽を取り上げ、その歴史的発展過程と構造的特徴を研究する。音楽理論の知識は必ずしも要求しないが、フランス語の資料を輪読するので、受講者はフランス語の素養を身につけていることが望ましい。もちろんアラビア語の知識があればそれに越したことはない。

到達目標

DP6およびDP8を実現するため、次の5点を到達目標とする。

1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	近代アラブ＝アンダルシア音楽の成立 ・ 20世紀のアラブ＝アンダルシア音楽の成立過程を、フランス植民地主義との関係で理解する。	
	[予習]北アフリカにおけるフランス植民地統治のプロセスの概要を調べておく。	90
第2回	旋法音楽 ・ アラブ＝アンダルシア音楽の支柱となっている「旋法」のシステムについて学修する。	
	[復習]旋法という概念を理解する。	120
第3回	リズム ・ アラブ＝アンダルシア音楽のもうひとつの支柱であるリズムのシステムについて学修する。	
	[復習]リズムの種類と特徴を整理する。	120

第4回	音楽のリズムと言葉のリズム ・アラビア語詩の韻律規則である「アルード」および「バハル」のシステムについて学修する。	
	[復習]アラビア語詩の韻律規則のシステムを整理する。	120
第5回	トルコ音楽の世界 ・16世紀以降アラブ世界に大きな影響を与えたトルコ音楽の特徴を理解する。	
	[予習]15世紀以来のオスマントルコ史の概要を調べる。	90
第6回	マシュリク音楽の展開 ・オスマントルコの治下で展開したマシュリク（東アラブ）の音楽事情を、シリアとエジプトを軸に学修する。	
	[予習]中東の中世史・近代史の概要を調べる。	90
第7回	ムワッシャハの世界 ・マシュリクで発展した「ムワッシャハ」という音楽ジャンルの特徴を学修する。	
	[復習]東アラブ世界における音楽ジャンルの特徴を整理する。	90
第8回	近代アラブ音楽の成立 ・1932年にカイロで開催されたアラブ音楽会議の内容を学修する。 ・この会議が近代アラブ音楽を誕生させた経緯を理解する。	
	[予習]20世紀のエジプト史と、同時代のヨーロッパの音楽事情を調べる。	120
第9回	アラブ音楽会議とは何だったのか ・1932年会議のプロシーディングスを解説する。	
	[復習]1932年会議のプロシーディングスの概要を整理する。	120

第10回	現代アラブ音楽の成立 ・20世紀を代表する大歌手ウンム・クルスームの生涯を通じて、現代アラブ音楽の誕生プロセスを学修する。	
	[復習]ウンム・クルスームのライフヒストリーを見直す。	90
第11回	音楽とイスラーム ・イスラームの展開の中で「音楽」がどのように扱われてきたのかを学修する。	
	[予習]イスラム思想の中で生じた音楽論争の骨子を調べておく。	90
第12回	比較音楽学から音文化研究まで (1) ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[復習]比較音楽学と民族音楽学の目的と方法の違いを整理する。	90
第13回	比較音楽学から音文化研究まで (2) ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[予習]音楽人類学とはなにか、その概要を調べておく。	90
第14回	音文化研究とアラブ音楽 ・アラブ音楽の研究が音文化研究にいかなる貢献を果たせるのかを理解する。	
	[予習]音文化研究の目的と方法を調べておく。	90
第15回	総括 ・1年間の演習の成果を振り返り、残された課題を確認する。	
	[復習]一年間の授業で理解できたことと課題として残ったことを整理し、文章化の準備をする。	120

授業の方法

受講者は各回のテーマに応じてあらかじめ指定された資料をよく読んで、レジюмеを作成し、発表する。授業では受講者全員によるディスカッションを通じてテーマの理解を深める。

成績評価の方法

発表（40%）、授業中の発言・コメント・討議（30%）、2回程度の課題レポート（30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
上記「達成目標」に掲げた以下の諸点の達成度により評価する。

1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：イスラーム史、文化人類学の基礎。

テキスト

各回ごとにあらかじめ指示する（フランス語によるテキストが主流になる）。

参考書

授業中、適宜指示する。
辞典類（文化人類学事典、音楽事典など）は各自調達することが望ましい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	歴史研究B I		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071331303	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

【テーマ】フランス革命の諸問題

【概要】フランス革命に関わるトピックを論じたフランス語テキストを読むことを通じて、フランス革命の意味を考える。

到達目標

DP8

優れた学識を備え、専門分野における研究能力と専門職業人として必要な知的素養の習得をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	導入	
	シラバスを読んでくる	20
第2回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第3回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第4回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第5回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第6回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第7回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第8回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第9回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第10回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第11回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第12回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第13回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第14回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第15回	まとめ	
	テキストの復習	120

授業の方法

フランス語のテキストを読み、質疑応答しながら、授業をすすめる。

成績評価の方法

授業への積極的参加（５０％）と課題レポート（５０％）によって成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

テキストは授業開始後、プリントして配布する。

参考書

授業開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史研究BⅡ		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071331304	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】フランス革命の諸問題

【概要】フランス革命に関わるトピックを論じたフランス語テキストを読むことを通じて、フランス革命の意味を考える。

到達目標

DP8

優れた学識を備え、専門分野における研究能力と専門職業人として必要な知的素養の習得をめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	導入的授業	
	シラバスを読んでくる	20
第2回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第3回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第4回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第5回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第6回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第7回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第8回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第9回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第10回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第11回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第12回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第13回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第14回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第15回	まとめ	
	テキストの復習	120

授業の方法

フランス語のテキストを読み、質疑応答しながら、授業をすすめる。

成績評価の方法

授業への積極的参加（５０％）と課題レポート（５０％）によって成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

テキストは授業開始後、プリントして配布する。

参考書

授業開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	女性史・ジェンダー研究II		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	2071331402	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
ジェンダー史を特に労働に重点を置きながら学ぶ			
到達目標			
DP6、DP7に基づき、修士論文、課題研究を提出するための能力を身につけるため、以下の2点を到達目標とする。 ①ジェンダーの視点での歴史分析の先行研究を知る。 ②自らジェンダー視点での歴史分析が出来る力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業計画の説明、報告者の割当		
	ジェンダー史に関する文献を2-3読んでみる。		60
第2回	『労働の社会分析』を読み、議論する		
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。		60. 報告者は120.
第3回	『労働の社会分析』を読み、議論する		
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。		60. 報告者は120.

第4回	『労働の社会分析』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第5回	『労働の社会分析』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第6回	『女性電信手の歴史』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第7回	『女性電信手の歴史』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第8回	『女性電信手の歴史』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第9回	『女性電信手の歴史』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.

第10回	『ダイナミズムとしてのジェンダー』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第11回	『ダイナミズムとしてのジェンダー』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第12回	『ダイナミズムとしてのジェンダー』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第13回	『ダイナミズムとしてのジェンダー』を読み、議論する	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第14回	これまで学んだことを、自分の研究テーマとの関連で考察し、発表する。	
	テキストの該当部分を読み、さらに関連する文献、史料を調査する。 報告者はレジュメを用意する。	60. 報告者は120.
第15回	まとめ	
	これまで学んだことを復習する。	60.

授業の方法

テキストの輪読。

成績評価の方法

報告、レジュメの内容。(60%)

議論の中での発言内容。(40%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

ミリアム・グラックスマン『「労働」の社会分析 -時間・空間・ジェンダー』法政大学出版会、2014年。

トーマス・C. ジェブセン『女性電信手の歴史 -ジェンダーと時代を超えて』法政大学出版会、2014年。

成蹊大学文学部学会『ダイナミズムとしてのジェンダー-歴史から現在を見るこころみ』学文社、2016年。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学研究 A I		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	2071331501	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
社会学的な研究では、実際にデータを用いて分析したり、理論的なモデルを構築することで、さまざまな社会現象のメカニズムを明らかにすることが目指されます。この授業では、(1)計量社会学的な分析手法とソフトウェアの使い方のほか、(2)ネットワークデータの分析手法、(3)質的比較分析の手法、(4)理論社会学的なモデルの基礎などからテーマを選択し、じっくりと学びます。研究論文を読めるようになること、実際にデータ分析を行えるようになることを目的とします。			
到達目標			
DP2【課題の発見と解決】および DP8 を達成するため、社会学的な理論構築とデータ分析の手法を学び、当該手法を用いた研究論文を読めるようになる。また、自らモデルの構成およびデータ分析をおこない論文を執筆するための技術を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	教員から授業時に提示する	60分	
第2回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習		
	文献を講読し実習課題を解く	120	
第3回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習		
	文献を講読し実習課題を解く	120	

第4回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第5回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第6回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第7回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第8回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第9回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120

第10回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第11回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第12回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第13回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第14回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第15回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120

授業の方法

演習方式でおこなう。
前期と後期それぞれ、上記のテーマ・手法から扱うものを選択する。
事前に文献を読み、課題をおこなってきたうえで、その内容を検討する。

成績評価の方法

文献の講読、課題、授業中の発言、レポートなどから総合的に評価する。
平常点（出席や参加の状況）10%，授業での発言や取り組み40%，課題やレポートへの取り組み50%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査、統計分析についての授業を履修済みであると望ましい。

テキスト

テーマにより、以下のものから選ぶことを予定する。
今井耕介，2018，『社会科学のためのデータ分析入門（上・下）』岩波書店。
鈴木努，2017，『ネットワーク分析 第2版』共立出版。
石田淳，2017，『集合論による社会的カテゴリー論の展開：ブール代数と質的比較分析の応用』勁草書房。
浜田宏，2018，『その問題、数理モデルが解決します』ベレ出版。
浅古泰史，2018，『ゲーム理論で考える政治学：フォーマルモデル入門』有斐閣。

参考書

適宜

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究 A II		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	2071331502	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

社会学的な研究では、実際にデータを用いて分析したり、理論的なモデルを構築することで、さまざまな社会現象のメカニズムを明らかにすることが目指されます。この授業では、(1)計量社会学的な分析手法とソフトウェアの使い方のほか、(2)ネットワークデータの分析手法、(3)質的比較分析の手法、(4)理論社会学的なモデルの基礎などからテーマを選択し、じっくりと学びます。研究論文を読めるようになること、実際にデータ分析を行えるようになることを目的とします。

到達目標

DP2【課題の発見と解決】および DP8 を達成するため、社会学的な理論構築とデータ分析の手法を学び、当該手法を用いた研究論文を読めるようになる。また、自らモデルの構成およびデータ分析をおこない論文を執筆するための技術を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	教員から授業時に提示する	60分
第2回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第3回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120

第4回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第5回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第6回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第7回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第8回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第9回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120

第10回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第11回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第12回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第13回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第14回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120
第15回	分析手法と理論に関する文献の講読、実習	
	文献を講読し実習課題を解く	120

授業の方法

演習方式でおこなう。
前期と後期それぞれ、上記のテーマ・手法から扱うものを選択する。
原則として、後期は前期とは異なる手法をテーマに選ぶ。
事前に文献を読み、課題をおこなってきたうえで、その内容を検討する。

成績評価の方法

文献の講読、課題、授業中の発言、レポートなどから総合的に評価する。
平常点（出席や参加の状況）10%、授業での発言や取り組み40%、課題やレポートへの取り組み50%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査、統計分析についての授業を履修済みであると望ましい。

テキスト

テーマにより、以下のものから選ぶことを予定する。
今井耕介, 2018, 『社会科学のためのデータ分析入門（上・下）』岩波書店.
鈴木努, 2017, 『ネットワーク分析 第2版』共立出版.
石田淳, 2017, 『集合論による社会的カテゴリー論の展開：ブール代数と質的比較分析の応用』勁草書房.
浜田宏, 2018, 『その問題、数理モデルが解決します』ベレ出版.
浅古泰史, 2018, 『ゲーム理論で考える政治学：フォーマルモデル入門』有斐閣.

参考書

適宜

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究B I		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	2071331503	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、競技スポーツや学校体育からダンスなど身体をベースにしたポピュラーカルチャーまで、幅広い身体文化について社会学的視点から分析し、議論する。社会学の古典を含む幅広い文献を講読することを通じて、現代社会における身体および身体文化の社会的位置づけやその変容について把握する。			
到達目標			
身体文化について分析する社会学的視点および方法を獲得する。 上記を到達目標とし、とくにDP2（課題の発見と解決）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	
第2回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（1）		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	
第3回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（2）		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	

第4回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（3）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第5回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（4）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第6回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（5）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第7回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（6）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第8回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（7）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第9回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（8）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90

第10回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（9）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第11回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（10）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第12回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（11）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第13回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（12）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第14回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（13）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第15回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（14）	
	これまでに読んだ文献を見直し、文献リストを作成する。	90

授業の方法

演習形式でおこないます。

成績評価の方法

報告の内容 30%、議論への参加状況 30%、提出課題 40%を基準として総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

初回授業時に指定する。

参考書

とくになし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究BⅡ		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	2071331504	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、競技スポーツや学校体育からダンスなど身体をベースにしたポピュラーカルチャーまで、幅広い身体文化について社会学的視点から分析し、議論する。社会学の古典を含む幅広い文献を講読することを通じて、現代社会における身体および身体文化の社会的位置づけやその変容について把握する。			
到達目標			
身体文化について分析する社会学的視点および方法を獲得する。 上記を到達目標とし、とくにDP2（課題の発見と解決）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	
第2回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（1）		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	
第3回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（2）		
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90	

第4回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（3）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第5回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（4）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第6回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（5）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第7回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（6）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第8回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（7）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第9回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（8）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90

第10回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（9）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第11回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（10）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第12回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（11）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第13回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（12）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第14回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（13）	
	指定された文献を精読して次回授業での議論に備える。	90
第15回	初回授業時に指定された文献に関する報告とディスカッション（14）	
	これまでに読んだ文献を見直し、文献リストを作成する。	90

授業の方法

演習形式でおこないます。

成績評価の方法

報告の内容 30%、議論への参加状況 30%、提出課題 40%を基準として総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

初回授業時に指定する。

参考書

とくになし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学研究 C I		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	2071331505	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
文化社会学演習 文化の生成と消滅についての理論的基礎を学び、実際の文化現象を読み解くトレーニングをおこなう。			
到達目標			
学生それぞれの研究テーマを、どのような研究の枠組みのなかで探求することがふさわしいのか、について、学生それぞれが理解し、研究の道筋を構築することを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の進め方について。 授業参加の姿勢について。 毎回の授業から自分の研究への、結びつけ方について。		
	自分の研究テーマについての設計をもっていること。	60分	
第2回	文化社会学研究文献の精査。研究情報の集め方について。		
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭でない点や疑問点について、発見しておくこと	60分	
第3回	研究文献の精読(1)		
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭でない点や疑問点について、発見しておくこと	90分	

第4回	研究文献の精読（2）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第5回	研究文献の精読（3）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第6回	研究文献の精読（4）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第7回	中間のまとめ——文献を研究のなかにどう活かすか。	
	自分の研究への振り返りをする。研究の資料収集について確認しておくこと。	90分
第8回	研究文献の精読（5）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第9回	研究文献の精読（6）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分

第10回	研究文献の精読（7）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第11回	研究文献の精読（8）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第12回	中間のまとめ——オリジナルデータとは何か	
	自分の研究について振り返りをする。および、研究のオリジナリティについて考えること。	90分
第13回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（1）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	90分
第14回	それぞれの研究計画についての発表。および今後の研究についての展望についての発表。（2）	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。	90分
第15回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究計画について。	
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 それを夏休みの研究計画のなかに具体的にあらわすこと。	90分

授業の方法

ゼミ形式。

成績評価の方法

出席（およそ20%程度）。研究文献の精読の達成度（40%程度）。研究文献への批判的精査あり方（20%程度）。研究論文の達成度（20%程度）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

基本的に、学部レベルの社会学・文化社会学などの知識が必要である。

テキスト

学生の研究テーマをふまえて、ゼミの最初に決める。

参考書

ゼミのなかで指導する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業前後に受け付ける。

科目名	社会学研究CII		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	2071331506	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
文化社会学演習 文化の生成と消滅についての理論的基礎を学び、実際の文化現象を読み解くトレーニングをおこなう。			
到達目標 学生それぞれの研究テーマを、どのような研究の枠組みのなかで探求することがふさわしいのか、について、学生それぞれが理解し、研究の道筋を構築することを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	研究の進捗状況の確認、および、夏休みの研究成果についての報告。		
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 夏休みの研究成果をふまえ、今後の研究計画をたてること。	90分	
第2回	今後の研究の展望について。および研究文献の精読についてのガイダンス。		
	自分の研究の現時点での進捗状況を、立ち止まって考えること。および、自らの課題をとらえること。 今後の研究計画をたて、それに応じた研究の具体的方法について吟味すること。	90分	
第3回	研究文献の精読(9)		
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭でない点や疑問点について、発見しておくこと	90分	

第4回	研究文献の精読（10）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第5回	研究文献の精読（11）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第6回	研究文献の精読（12）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第7回	中間のまとめ——学びをどのように応用するのか	
	いままでの研究を振り返り、それを論文という表現形式の中で形にするためには、何が必要かを考える。	90分
第8回	研究文献の精読13)	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第9回	研究文献の精読（14）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分

第10回	研究文献の精読（15）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第11回	研究文献の精読（16）	
	文献の精読。およびそれにたいして、明瞭出ない点や疑問点について、発見しておくこと	90分
第12回	論文執筆指導（1） 論理的筋道をたてることについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第13回	論文執筆指導（2） 資料を有効に使うことについて	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第14回	論文執筆指導（3） 文章表現についての注意	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。	120分
第15回	論文執筆の全体の確認。および今後の課題の確認。	
	論文の執筆。その過程で明らかになった課題を押さえておくこと。 論文の成果と課題について、客観的に考えること。 。	120分

授業の方法

ゼミ形式。

成績評価の方法

出席（およそ20%程度）。研究文献の精読の達成度（40%程度）。研究文献への批判的精査あり方（20%程度）。研究論文の達成度（20%程度）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

基本的に、学部レベルの社会学・文化社会学などの知識が必要である。

テキスト

学生の研究テーマをふまえて、ゼミの最初に決める。

参考書

ゼミのなかで指導する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業前後に受け付ける。

科目名	メディア・コミュニケーション研究 A I		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071331601	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
近年、メディアやコミュニケーションのあり方を社会や文化の説明項と見なすのではなく、社会や文化によって構成される被説明項と考える立場が主流となりつつあります。このような動きは、いわゆる技術決定論に対する批判として1980年代以降「社会構成主義的技術論」が注目を浴びるようになったことと密接に関連しています。一体こうした動きの中で何が問題とされ、どんな提案がおこなわれてきたのか。メディアとコミュニケーションをめぐる問いを立てる上でも参考になるこれらの基礎知識を、基本的文献を購読しながら身につけることを目指します。			
到達目標			
DP 6 および DP 8 を達成するため、以下を到達目標とします。 ・「技術決定論」と対比させることで、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解すること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60
第2回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読(1)		
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60
第3回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読(2)		
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60

第4回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（3）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第5回	"The Social Construction of Technological Systems"の購読（4）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第6回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（1）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第7回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（2）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第8回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（3）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第9回	"Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs"の購読（4）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第10回	"Does Technology Drive History?"の購読（1）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第11回	"Does Technology Drive History?"の購読（2）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第12回	"Does Technology Drive History?"の購読（3）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第13回	"Does Technology Drive History?"の購読（4）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第14回	"Does Technology Drive History?"の購読（5）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第15回	まとめ	
	授業内容を振り返り、理解したことを自分なりに整理する。	60

授業の方法

英文テキストの購読と議論を中心とする演習形式。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）20%、議論への貢献度40%、発表資料の出来40%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （１）テキストの内容を的確に理解しているか。
- （２）各テキストの内容を「技術決定論」と「社会構成主義的技術論」をめぐる一連の議論の中に位置づけることができるか。
- （３）「技術決定論」との対比において、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Bijker, W. E., T. P. Hughes, and Trevor Pinch (Eds.), 1987, The Social Construction of Technological Systems. The MIT Press.
Bijker, W. E., 1995, Of Bicycles, Bakelites, and Bulbs: Toward a Theory of Sociotechnical Change. The MIT Press.
Smith, M. R. and L. Marx, 1994, Does Technology Drive History?: The Dilemma of Technological Determinism. The MIT Press. (いずれもコピーを配布します)

参考書

授業中に随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究AⅡ		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071331602	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
近年、メディアやコミュニケーションのあり方を社会や文化の説明項と見なすのではなく、社会や文化によって構成される被説明項と考える立場が主流となりつつあります。このような動きは、いわゆる技術決定論に対する批判として1980年代以降「社会構成主義的技術論」が注目を浴びるようになったことと密接に関連しています。一体こうした動きの中で何が問題とされ、どんな提案がおこなわれてきたのか。メディアとコミュニケーションをめぐる問いを立てる上でも参考になるこれらの基礎知識を、基本的文献を購読しながら身につけることを目指します。			
到達目標			
DP6およびDP8を達成するため、以下を到達目標とします。 ・「技術決定論」と対比させることで、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解すること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60
第2回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読(1)		
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60
第3回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読(2)		
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。		60

第4回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（3）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第5回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（4）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第6回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（5）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第7回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（6）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第8回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（7）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第9回	” Shaping Technology/ Building Society” の講読（8）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60

第10回	” The Social Shaping of Technology” の講読（1）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第11回	” The Social Shaping of Technology” の講読（2）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第12回	” The Social Shaping of Technology” の講読（3）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第13回	” The Social Shaping of Technology” の講読（4）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第14回	” The Social Shaping of Technology” の講読（5）	
	授業中におこなう指示にしたがって復習をするとともに、次回の授業に備えてテキストを読み、内容を発表資料の形にまとめる。	60
第15回	まとめ	
	授業内容を振り返り、理解したことを自分なりに整理する。	60

授業の方法

英文テキストの購読と議論を中心とする演習形式。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）20%、議論への貢献度40%、発表資料の出来40%

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （１）テキストの内容を的確に理解しているか。
- （２）各テキストの内容を「技術決定論」と「社会構成主義的技術論」をめぐる一連の議論の中に位置づけることができるか。
- （３）「技術決定論」との対比において、「社会構成主義的技術論」の特徴およびその意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Bijker, W. E. and J. Law (Eds.), 1994, Shaping Technology/ Building Society: Studies in Sociotechnical Change. The MIT Press.
MacKenzie, D. and J. Wajcman (Eds.), 1987, The Social Shaping of Technology. Open University Press. (いずれもコピーを配布します)

参考書

授業中に随時紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究BⅠ		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071331603	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
メディア・コミュニケーションに関する、フランス語圏を中心とした文献の講読を行い、各自がメディア・コミュニケーションの具体的な現象を分析できるようにしていきます。講読文献については、参加者と相談して決めていきたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）を実現するために、メディア・コミュニケーションについての理論的分析をみずからの力で行えるようになることを目指します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	講読文献および関連資料の理解		90
第2回	文献講読（１）		
	講読文献および関連資料の理解		90
第3回	文献講読（２）		
	講読文献および関連資料の理解		90

第4回	文献講読（3）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第5回	文献講読（4）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第6回	文献講読（5）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第7回	文献講読（6）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第8回	中間まとめ	
	講読文献および関連資料の理解	90
第9回	文献講読（7）	
	講読文献および関連資料の理解	90

第10回	文献講読（８）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第11回	文献講読（９）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第12回	文献講読（１０）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第13回	文献講読（１１）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第14回	文献講読（１２）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第15回	まとめ	
	講読文献および関連資料の理解	90

授業の方法

受講者とともに文献を講読していきます。

成績評価の方法

期末レポート＝５０％、授業への参加（≠出席）＝５０％

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語で書かれた理論的文献を読みこなせることが望ましい。

テキスト

授業開始時に決定します。

参考書

随時、紹介してきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション研究BII		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071331604	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
メディア・コミュニケーションに関する、フランス語圏を中心とした文献の講読を行い、各自がメディア・コミュニケーションの具体的な現象を分析できるようにしていきます。講読文献については、参加者と相談して決めていきたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）を実現するために、メディア・コミュニケーションについての理論的分析をみずからの力でできるようになることを目指します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	講読文献および関連資料の理解		90
第2回	文献講読（1）		
	講読文献および関連資料の理解		90
第3回	文献講読（2）		
	講読文献および関連資料の理解		90

第4回	文献講読（3）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第5回	文献講読（4）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第6回	文献講読（5）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第7回	文献講読（6）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第8回	中間まとめ	
	講読文献および関連資料の理解	90
第9回	文献講読（7）	
	講読文献および関連資料の理解	90

第10回	文献講読（８）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第11回	文献講読（９）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第12回	文献講読（１０）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第13回	文献講読（１１）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第14回	文献講読（１２）	
	講読文献および関連資料の理解	90
第15回	まとめ	
	講読文献および関連資料の理解	90

授業の方法

受講者とともに文献を講読していきます。

成績評価の方法

期末レポート＝５０％、授業への参加（≠出席）＝５０％

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

フランス語で書かれた理論的文献を読みこなせることが望ましい。

テキスト

授業開始時に決定します。

参考書

随時、紹介してきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	欧米文化演習		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071332101	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
アメリカ社会史に関する一次史料と二次史料を組み合わせた文献を精読し、史料の読解についての基礎的なトレーニングを行うとともに、先行研究の動向を把握する。さらに、各自の研究テーマや学術的な関心に沿った形で、指定テキスト以外の一次史料や二次史料も用いて、史料・文献の批判的読解や史料に基づいた実証的分析のトレーニングを行う。また、先行研究のレビューの方法、研究課題の設定などのアカデミックスキルの基本についても確認する。			
到達目標			
DP 7、DP 8 を実現するため、以下の 4 点を到達目標とする。 ①史料批判とはなにかを理解し、実践することができる。 ②事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションを行うことができる。 ③特定のテーマに関する一次史料と二次史料に基づき、研究動向をまとめて文章化することができる。 ④アメリカ社会史に関する基礎的な歴史知識を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・ 演習の内容、進め方等を説明する。 ・ 使用するテキストを決め、各自で準備する。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。		60
第2回	アメリカ研究の現在 (その1) ・ エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。		
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60
第3回	アメリカ研究の現在 (その2) ・ エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。		
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60

第4回	アメリカ研究の現在（その3） ・エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	プレゼンテーション 1 ・アメリカ合衆国に関して、各自で最も関心のある研究領域を選び、先行研究の動向と課題について発表する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第6回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第7回	一次史料と二次史料の比較検討（その1） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	一次史料と二次史料の比較検討（その2） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	一次史料と二次史料の比較検討（その3） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第10回	一次史料と二次史料の比較検討（その4） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

第11回	プレゼンテーション 2 ・すでにテキストで取り上げられている一次史料を一つ選び、それについて二次文献を新たに追加しつつ、解説する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第12回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第13回	一次史料と二次史料の比較検討 （その5） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第14回	一次史料と二次史料の比較検討 （その6） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第15回	一次史料と二次史料の比較検討 （その7） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第16回	一次史料と二次史料の比較検討 （その8） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第17回	プレゼンテーション 3 ・すでにテキストで取り上げられている二次史料（抜粋）を一つ選び、その著者による他の研究論文を口頭で紹介する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60

第18回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第19回	映像史料分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第20回	映像史料分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第21回	映像史料分析 その3 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第22回	映像史料分析 その4 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第23回	図像史料分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第24回	図像史料分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60

第25回	オーラルヒストリー分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第26回	オーラルヒストリー分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第27回	オーラルヒストリー分析 その3 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第28回	プレゼンテーション 4 ・各自のテーマに即して、可能な限り映像史料や図像史料を用いてプレゼンテーションを行う。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第29回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第30回	全体のまとめ ・理解度を確認する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自でしておく。	60

授業の方法

演習形式で行う。各自で事前に史料・文献を読み、授業当日にはディスカッションと解説、質疑応答を行う。また、口頭発表の際には、事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションと質疑応答を行う。

成績評価の方法

毎回の演習時におけるディスカッションへの貢献、課題など＝平常点（50%）、レジュメ・書評、レポート等の課題（25%）、プレゼンテーション（25%）による総合評価とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本を含む世界各地の文化、歴史に関する科目のほか、文化人類学・社会学等の隣接諸学に関する科目。

テキスト

開講時に受講者と相談のうえ、決定する。ただし、以下の文献については、一次史料と二次史料の比較検討を行う際に、受講者のテーマ・関心に近い巻（あるいは複数の巻のなかのいくつかの章）を選んで使用する。

・Thomas G. Paterson, ed. Major Problems in American History Series. Houghton Mifflin.

参考書

- ・ニール・キャンベル、アラスディア・キーン『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ 第2版』萌書房、2012年。
- ・アメリカ学会訳編『原典 アメリカ史』第1巻～第9巻、岩波書店、1950～2006年。
- ・五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門 第3版』東京大学出版会、2003年。
- ・有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化演習		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071332102	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
「国内強制移動（internal displacement）」をめぐる諸問題を扱う。国内避難民の問題は1990年代に国際社会の関心事項として認識されるようになり、国連の対応においても一定の進展がみられた。この授業ではこれまでの取り組みの軌跡、現状、今後の課題を検証する。			
到達目標			
DP2・社会の諸問題を理解するために必要な情報を調査収集し、本質的な課題を発見・解決するため、調査収集した情報を的確に分析する能力を身に付けることができる。そうした能力を向上させながら、この授業のテーマについて主体的に考えることができようになるとともに、幅広く知的議論が行えるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	(以下のような流れで進めることを考えている。詳しくは、履修者と相談の上決定する。) ガイダンス		
	授業に関連する事項を予習する。		90
第2回	文献購読		
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。		90
第3回	文献購読		
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。		90

第4回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第10回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第11回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第15回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第16回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第17回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第18回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第19回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第20回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第21回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第22回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第23回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第24回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第25回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第26回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第27回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第28回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第29回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第30回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

英語文献の講読を行う（英語で原書を読む習慣を身に付けておくこと）。

成績評価の方法

平常点（20％）に加えて、授業での発表内容（40％）および学修姿勢（40％）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目を履修しているのが望ましい。英文の原書を講読するので、英語の読解力は必須。

テキスト

下記の文献を読む。ただし、履修者の関心に合わせて他の文献を読むことも可能。

-Elizabeth Ferris, The Politics of Protection: The limits of Humanitarian Action, Washington, D.C.: Brookings Institution, 2011

-墓田桂『国内避難民の国際的保護-越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015年）

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学演習		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071332201	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
アンデスの先住民についてその文化、宗教、国家との関係、グローバル化する世界との関係について、文化人類学の観点から考えていきます。			
到達目標			
DP8を身につけるため、以下を到達目標とする。 文化人類学の基本的考え方を知る。 多様な文化、価値観の存在に気づく。 文献をクリティカルに読む力を鍛える。 データを収集し、分析する力を鍛える。 論理的な思考力を鍛える。 自ら課題を見出す力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入部 授業の進め方、レジュメの書き方についての説明 発表担当の割当		
	これまで文化人類学を勉強したことがない場合は、事前に入門書等を読んでおく。		30
第2回	映画		
	発表に向けて準備を進めておく。		0
第3回	文献を読み、ディスカッションをする。		
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		120

第4回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第5回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第6回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第7回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第8回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第9回	関連映画を鑑賞しディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる	60
第10回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第11回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第12回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第13回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第14回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第15回	関連映画を鑑賞し、ディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる。	60
第16回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第17回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第18回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第19回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第20回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第21回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第22回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第23回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第24回	関連映画を鑑賞してディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる。	60

第25回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第26回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第27回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。発表方法についても十分準備しておく。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第28回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第29回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第30回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

授業の方法

演習方式です。発表担当者がレジュメを作成して発表をし、それをもとに質疑応答、ディスカッションをします。テキストは毎回受講生全員が適宜内容を調べながら丁寧に読んできて下さい。また、必要に応じてテキストでとりあげられている参考文献にも目を通して下さい。

成績評価の方法

平常点100%。(プレゼンテーション、ディスカッション、論理性、課題発見能力など)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

文化人類学の基本的な考え方や方法論が理解できているか。

文献をクリティカルに読む力、データを収集分析し論理的に思考する力が身に付いたか。

グローバル化と文化の関係について知識を深めることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまで文化人類学を学んだ経験がない場合は、事前に文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。

テキスト

『アンデスの宗教的世界』等を予定していますが、最初の授業で受講学生の関心やレベル、語学力を考慮し決定します。

参考書

授業中適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	歴史演習B		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	2071332302	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
【テーマ】中東近現代史演習 【概要】この授業では、中東近現代史に関連する日本語・外国語の文献を講読しながら、当該地域の近現代史に関する最新の研究動向を確認し、問題点を批判的に検討して、受講者各自の研究に還元する。必要に応じて、各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう回も設ける。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、2（課題の発見と解決）、6、8を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・中東近現代史に関する日本語・外国語の文献を読み解く能力を身につける。 ・中東近現代史研究の最新動向を確認し、各自の研究のアップデートとブラッシュアップを図る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。簡単な自己紹介、および各自の研究テーマの概要説明の準備をしておく。 【復習】 テキストを用意し、概要を確認する。	60	
第2回	文献講読と質疑		
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60	
第3回	文献講読と質疑		
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60	

第4回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第5回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第6回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第7回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第8回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第9回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第10回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60

第11回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第12回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第13回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第14回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第15回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第16回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第17回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60

第18回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第19回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第20回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第21回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第22回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第23回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第24回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60

第25回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第26回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第27回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第28回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第29回	文献講読と質疑	
	【予習】 テキストの該当部分を精読する。 【復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60
第30回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業内容を整理し、各自の研究テーマに応用できるものを見きわめる。	60

授業の方法

- ・ 演習形式でおこなう。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（50％）、授業内報告（50％）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中東地域は、歴史学以外にもさまざまな角度からアプローチできる。したがって、他地域・他分野の学生の受講も歓迎する。

テキスト

受講者と相談のうえ選定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学演習 A		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	2071332501	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
高齢化に関する議論を目にしない日がないといっているほど、私たちは日々高齢化を「社会問題」として捉え、さまざまな議論を行っている。それでは、なぜ、高齢化は社会問題であるのだろうか。またそもそもここで問題とされている高齢化とはいかなる意味をもつものであるのだろうか。人口高齢化 demographic aging なのか、長寿化 longevity であるのか、あるいは個人の加齢や老い aging、そして衰えの問題 senility であるのだろうか。 本講義では、社会学および社会老年学の古典および最新の議論を大量に読み込むことを通して、近現代社会における老いの社会的構築とその変容を再考する。とくに、前期は社会構造、社会制度に注目し、産業化、資本主義化、国民国家形成、科学主義などによる老いの社会的構築について、後期は日常生活や社会関係に注目し、その影響や生活の技法について考察する。議論する。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP8の達成のため、高齢化、老いにかんする社会学、社会老年学の基本的な議論を、その基盤となる理論的背景を踏まえて理解できるようになるとともに、社会構造、社会制度がもたらす近代社会における老いの社会的構築について理解できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ～老いを考える意味		
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む		120
第2回	老人とは誰か		
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む		120
第3回	理論と方法①：ライフコース		
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む		120

第4回	理論と方法②：近代化理論	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第5回	理論と方法③：批判的アプローチ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第6回	産業化と老い①：雇用労働	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第7回	産業化と老い②：定年制	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第8回	産業化と老い③：ポスト産業社会と老いの解体	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第9回	社会制度と老い①：社会保障制度	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第10回	社会制度と老い②：ライフコースの画一化	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120

第11回	社会制度と老い③：比較福祉国家	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第12回	科学と老い①：学知化という視点	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第13回	科学と老い②：老年学の構築	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第14回	科学と老い③：高齢化事業体 ageing enterprise	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第15回	前期の議論のまとめ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第16回	後期イントロダクション	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第17回	家族と老い①：高齢期家族	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120

第18回	家族と老い②：家族の縮小	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第19回	家族と老い③：独居、LGBTと老い	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第20回	日常生活と老い①：老後と人間関係	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第21回	日常生活と老い②：老後における余暇	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第22回	日常生活と老い③：服装や化粧と老い	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第23回	地域における老い①：高齢者カフェ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第24回	地域における老い②：高齢期ボランティア	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120

第25回	地域における老い③：高齢期のスモールビジネス	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第26回	老いとケア①：慢性疾患を生きる意味	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第27回	老いとケア②：認知症ケア	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第28回	老いとケア③：地域での支え合い	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第29回	老いとケア④：尊厳死は理想か？	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120
第30回	議論のまとめ	
	指定された文献を精読するとともに関連文献を読む	120

授業の方法

演習方式で行う。履修生は、毎週指定された文献（基本的には日本語か英語の論文ないし書籍の章で1～3本程度／各回）の精読と、関連文献の渉猟および読み込み、文献の短い書評の執筆が事前課題となる。講義では、学生による文献についてプレゼンと、そのテーマについてのディスカッションを行う。

成績評価の方法

事前準備および事前課題（30%）、講義での議論（30%）、レポート（40%）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「ライフコースの社会学」（文学部現代社会学科）、「老人福祉論」（成蹊教養カリキュラム）などが深く関連している。

テキスト

以下2冊は、本講義の各テーマの包括的なレビューを多数掲載している。必要部はコピーして配布する。

①Dannfer, Dale and Chris Phillipson eds, 2010, The SAGE Handbook of Social Gerontology, London: Sage.

②George, Linda K., and Kenneth F. Ferraro eds, 2016, Handbook of Aging and the Social Sciences, 8th ed., London: Academic Press.

参考書

講義時に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学演習B		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071332502	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第16回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第17回	トピック 14	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第18回	トピック 15	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第19回	トピック 16	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第20回	トピック 17	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第21回	トピック 18	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第22回	トピック 19	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第23回	トピック 20	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第24回	トピック 21	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第25回	トピック 22	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第26回	トピック 23	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第27回	トピック 24	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第28回	トピック 25	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第29回	トピック 26	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第30回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション演習 A		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071332601	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に集合行動という観点から考えます。デジタルメディアをめぐるさまざまな社会現象を固有の枠組みの中で分析・考察することを通じて、「デジタルメディア社会」の新たな可能性を展望するとともに、その問題の淵源を探ることを目指します。

到達目標

DP8を実現するため、次の2点を到達目標とする。

- ① デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その詳細を説明できるようになる。
- ② デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて分析し、考察できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第10回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第11回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第16回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第17回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第18回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第19回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第20回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第21回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第22回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第23回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第24回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第25回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第26回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第27回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第28回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第29回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第30回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前後期とも、前半は文献講読中心に進めます。後半は実際の社会現象を取り上げ、ケーススタディ中心に進めます。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション演習B		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	2071332602	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
このゼミでは、近現代日本の雑誌メディアに関する基本文献を読む。さらに、じっさいに雑誌メディアを分析する。 たとえば、「夫は仕事、妻は家事・育児という性別役割分業」などのジェンダーに関するルールや、「母親は子どもをかわいがらなければならない」、「家族内構成員同士は強い絆で結ばれている」などの家族に関するルール、「子どもには教育を与えなければならない」という学校教育に関するルールは、近代社会が生み出したものだといわれている。逆にいうとそれ以前には存在しなかったルールだといえる。そしてこのような近代社会が生み出したルールを人びとにわかりやすく、かつ魅力的なかたちで広めたのが、雑誌メディアである。また人びともそのイメージを利用して他者と差異化し、あるいは、仲間同士で集団を形成してきたといえる。このようなメディアの機能を捉えてみたいと考えている。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）、6、7、8、9を実現するため、次のような到達目標を設定する。 近現代日本の雑誌メディアを分析する視点および方法を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	メディア・コミュニケーションを学ぶために		
	初回授業時に説明します	90	
第2回	基本的文献に関する報告（1）		
	初回授業時に説明します	90	
第3回	基本的文献に関する報告（2）		
	初回授業時に説明します	90	

第4回	基本的文献に関する報告（3）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	基本的文献に関する報告（4）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	基本的文献に関する報告（5）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	基本的文献に関する報告（6）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	基本的文献に関する報告（7）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	基本的文献に関する報告（8）	
	初回授業時に説明します	90
第10回	基本的文献に関する報告（9）	
	初回授業時に説明します	90

第11回	基本的文献に関する報告（１０）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	基本的文献に関する報告（１１）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	基本的文献に関する報告（１２）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	基本的文献に関する報告（１３）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	基本的文献に関する報告（１４）	
	初回授業時に説明します	90
第16回	基本的文献に関する報告（１５）	
	初回授業時に説明します	90
第17回	基本的文献に関する報告（１６）	
	初回授業時に説明します	90

第18回	基本的文献に関する報告（１７）	
	初回授業時に説明します	90
第19回	基本的文献に関する報告（１８）	
	初回授業時に説明します	90
第20回	基本的文献に関する報告（１９）	
	初回授業時に説明します	90
第21回	基本的文献に関する報告（２０）	
	初回授業時に説明します	90
第22回	基本的文献に関する報告（２１）	
	初回授業時に説明します	90
第23回	基本的文献に関する報告（２２）	
	初回授業時に説明します	90
第24回	基本的文献に関する報告（２３）	
	初回授業時に説明します	90

第25回	基本的文献に関する報告（２４）	
	初回授業時に説明します	90
第26回	基本的文献に関する報告（２５）	
	初回授業時に説明します	90
第27回	基本的文献に関する報告（２６）	
	初回授業時に説明します	90
第28回	基本的文献に関する報告（２７）	
	初回授業時に説明します	90
第29回	基本的文献に関する報告（２８）	
	初回授業時に説明します	90
第30回	基本的文献に関する報告（２９）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法 演習形式。
成績評価の方法 提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。
成績評価の基準 成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 とくになし。
テキスト とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。
参考書 今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019年（刊行予定）。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	地域福祉・NPO演習		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	2071332701	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
この授業の前半では、子育て支援や、子どもの貧困への取り組みを切り口とし、地域でつながりを作るしくみがどのように活性化されているのかを学ぶ。後半では、高齢になるということ、障がいを持つということについても勉強し、地域において、ケアの提供や介護者支援がどのようになされているのかを理解する。			
到達目標			
DP2「課題の発見と解決」、DP3「他者との協働」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 ①地域のつながり作りに関する文献を読み、必要な基礎知識を身につける。 ②地域における具体的な取り組みがどのように行なわれているのかを知る。 ③地域性や時間の経過がそうした取り組みにどのように現れているのかを理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	前半のイントロダクション		
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90	
第2回	子育て支援1		
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90	
第3回	子育て支援2		
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90	

第4回	子育て支援 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第5回	子どもの貧困 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第6回	子どもの貧困 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第7回	子どもの貧困 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第8回	親への支援 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第9回	親への支援 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第10回	親への支援 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90

第11回	地域のつながりを作るしくみ 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第12回	地域のつながりを作るしくみ 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第13回	地域のつながりを作るしくみ 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第14回	地域のつながりを作るしくみ 4	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第15回	前半まとめ	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第16回	後半イントロダクション	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第17回	老いるということ 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90

第18回	老いるということ 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第19回	老いるということ 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第20回	障がいについて 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第21回	障がいについて 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第22回	障がいについて 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第23回	ケアの社会学 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第24回	ケアの社会学 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90

第25回	ケアの社会学 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第26回	ケアの社会学 4	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第27回	地域におけるケアラー支援 1	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第28回	地域におけるケアラー支援 2	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第29回	地域におけるケアラー支援 3	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90
第30回	後半まとめ	
	文献を読んで要点と自分の意見を書き出し、次回の授業での議論に備える。	90

授業の方法

毎回のテーマに基づいて文献や資料を読んだ上で、関連する具体的な場を見学する。見学した内容はフィールドノートにまとめ、重要だと思うポイントを話し合い、さらに内容を深める文献を読んでいく。必要に応じて、ウェブ上の資料や映像等も参照する。

成績評価の方法

平常点（授業での議論への参加や課題）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ロバート・D・パットナム／柴内康文訳，2006，『孤独なボウリング——米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房。
稲葉陽二，2011，『ソーシャル・キャピタル入門——孤立から絆へ』中公新書。

参考書

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク編著，2016，『子ども食堂をつくろう！——人がつながる地域の居場所づくり』明石書店。
上野千鶴子，2009，『ケアの社会学——当事者主権の福祉社会へ』太田出版。
熊谷晋一郎，2009，『リハビリの夜』医学書院。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅰ		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071333001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習II		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071333002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究Ⅰ		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071334001	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	課題研究II		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071334002	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

DP5・自己の世界観、人生観を確立し、それに基づく自己の意見を外に向けて発信できる豊かな表現力を得られる。その過程で、論文執筆に必要な具体的なスキルを獲得する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学特殊研究 A		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071350001	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
英語圏の文学／文学研究において独自の視点を提供しているThing Theoryに関する文献を読む。前期においては、その嚆矢ともいえる、Sigmund Freudの“The Uncanny”（「不気味なもの」）を精読する。後期においては、Bill Brown, Nicholas Royle, Barbara Johnsonらの論文がテキストになる。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の2点を到達目標とする。 ①精神分析的な「唯物論」性から文化現象を理解できる。 ②この視点から文学テキストに自身の視点から問題を発見できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	テキストに関する導入。		
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする		90
第2回	テキストの読解 1		
	指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備		90
第3回	テキストの読解 2		
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備		90

第4回	テキストの読解 3	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第5回	テキストの読解 4	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第6回	テキストの読解 5	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第7回	テキストの読解 6	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第8回	テキストの読解 7	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第9回	テキストの読解 8	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第10回	テキストの読解 9	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90

第11回	テキストの読解 1 0	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第12回	テキストの読解 1 1	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第13回	テキストの読解 1 2	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第14回	テキストの読解 1 3	
	前回の問題点に確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	90
第15回	総括的議論	
	総括的議論のために	90
第16回	Thing Theoryの導入的な講義 1	
	シラバスを読みそこで上がっている批評理論に関して事前に勉強をする	90
第17回	Thing Theoryの導入的な講義 2	
	前回の問題点の確認	90

第18回	Brownの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第19回	Brownの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第20回	Brownの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第21回	Brownの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第22回	Royleの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第23回	Royleの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第24回	Royleの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120

第25回	Royleの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第26回	Johnsonの論文を読む 1	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第27回	Johnsonの論文を読む 2	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第28回	Johnsonの論文を読む 3	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第29回	Johnsonの論文を読む 4	
	前回の問題点の確認と指定箇所の予習、担当者は口頭発表の準備	120
第30回	まとめ	
	学期を通じての議論の復習	120

授業の方法

担当者を決めて口頭発表をしていただく。

成績評価の方法

発表 (30%) と term paper の質 (70%)。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

（前期）上記の批評理論について自習をされたい。

（後期）前期で獲得した知識。

テキスト

（前期）担当者がコピーを用意する。

（後期）コピーで配布する。

参考書

適宜複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学特殊研究B		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071350002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を読む。テキストの精読および多様なメディアによる翻案をつうじて、解釈の多面性に触れる。また、代表的な論文を読むことによって批評理論のいくつかの型を修得し、実践へとつなげる。			
到達目標			
DP6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①テキストと作家を歴史的文脈の中に位置づけ、より精緻に分析できる。 ②テキスト内外に関する知識を養い、さまざまな事象を説明できる。 ③批評理論にのっとった解釈の型を習得し、みずからの論文に応用できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション 『ロミオとジュリエット』に関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。		
	テキスト（翻訳）を読み、登場人物やあらすじについて理解しておくこと。	60	
第2回	イントロダクション 『ロミオとジュリエット』に関連するさまざまなトピックについて、既存の知識をもとに自由に話し合う。		
	指定された文献を読んでくること。	60	
第3回	1幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60	

第4回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第5回	1幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第6回	1幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第7回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第8回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第9回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第10回	2幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60

第11回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第12回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第13回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第14回	3幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第15回	興味のある批評文献（短いもの）を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえ発表する。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第16回	イントロダクション 前期を振り返り、『ロミオとジュリエット』に関連するさまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	前期のポイントを復習しておくこと。	30
第17回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60

第18回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第19回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第20回	4幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読みディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第21回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第22回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第23回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前回の講読箇所について、内容に関する知識や論点を確認しておくこと。	60
第24回	5幕を振り返り、解釈上の重要なポイントについて話し合う。代表的な批評を読み、ディスカッションを行う。	
	指定された文献を読んでくること。	60

第25回	劇全体を振り返り、さまざまなトピックについて自由に話し合う。	
	劇の論点を整理しておくこと。	60
第26回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第27回	映画をいくつかとりあげ、重要なシーンを比較する。演出意図や映像テクノロジーがどのような解釈や効果を生み出してくるかを考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第28回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読むこと。	60
第29回	二次利用についての代表的な論文を読む。	
	指定された文献を読むこと。	60
第30回	興味のある二次利用のテキストや論文を受講生が各自探してきて、それについていままでの学修をふまえて発表する。	
	指定された文献を読むこと。	60

授業の方法

ゼミ形式。講義やディスカッションもまじえるが、基本的には受講生の発表をもとに授業を進める。

成績評価の方法

平常点（40%。発表や課題への取り組み、出席状況など）と学期末課題レポート（60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の知識が必要です。

テキスト

Shakespeare, William. Romeo and Juliet , edited by Rene Weis, The Arden Shakespeare, 2012. Arden Shakespeare : Third Series.

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学特殊研究B		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	2071350012	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
アメリカ文学のテキスト内に潜伏する時間的、空間的位相を、惑星思考という概念の中で読み解いていきたい。惑星思考とはガヤトリ・スピヴァックが使い始めた用語であるが、-ismで扱われるイデオロギーでもなく、対象をからめとる批評理論でもなく、グローバリズムが行きついた先にある他者にさしむけられる想像力についての心の態度のことである。アメリカという国家が、白人によって建設されつつも、白人表象の下に他の人種（黒人や先住民など）の存在をだまし絵のように読み取れるという現象の中に、アメリカにおけるグローバリズムの特徴が見えるであろう。 今年はアメリカが国家としての自意識を高め、その空間を拡大しつつ西半球という意識の中でその欲望をつのらせ実現していった十九世紀のアメリカ作家の作品の中からハーマン・メルヴィルの作品を扱う。			
到達目標			
DP7【問題発見能力および多面的な分析能力】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①二十一世紀の社会において、アメリカ文化を語るためのリテラシーを習得する。 ②あわせて、グローバリズム世界の中で日本人としてアメリカ社会の現実をみする視点を持つ。 ③先行研究論文を読み、それをもとに自分の問題を設定して学術論文に仕立て上げる分析力を獲得する			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。 ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。		
		1時間	
第2回	「ジョン・マー」読み1 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。 担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。		
		1時間	
第3回	「ジョン・マー」読み2 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。 担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。		
		1時間	

第4回	「ジョン・マー」読み3 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第5回	「ジョン・マー」読み4 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第6回	「ジョン・マー」読み5 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第7回	「ジョン・マー」の背景について図書館で検索	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第8回	「ジョン・マー」読み6 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第9回	「ジョン・マー」読み7 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第10回	「バトルビー」読み8 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第11回	「ジョン・マー」読み9 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第12回	「ジョン・マー」読み10 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テキストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第14回	レポート準備2 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第15回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第16回	ガイダンス ゼミのテーマの内容説明、作品概要とアメリカの人種問題のテーマの紹介 グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。	1時間
第17回	「バトルビー」読み1 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・人種問題の根底にある混血という事態についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第18回	「バトルビー」読み2 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第19回	「バトルビー」読み3 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第20回	「バトルビー」読み4 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第21回	「バトルビー」読み5 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第22回	19世紀の航海についてのドキュメントDVD鑑賞	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第23回	「バトルビー」読み6 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第24回	「バトルビー」読み7 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

第25回	「バトルビー」読み 8 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第26回	「バトルビー」読み 9 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第27回	「バトルビー」読み 10 ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・惑星思考、半球思考についての洞察を深める。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第28回	レポート準備のためのプレゼンテーション テキストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を取り上げ、それについて分析する。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第29回	レポート準備 2 子の授業で検討した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめて、レポートの準備をする。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間
第30回	振り返り 前期にあつかったテキストを振り返り、半球思考、惑星思考についての概念を自分なりにまとめる。	
	担当する部分において取り上げる単語、レトリック、文章、コメントを話し合う。	1時間

授業の方法

講義と演習

成績評価の方法

学年末レポート（60％）に加え、毎回の発表や平常点を基本としつつ総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

授業内で指定する

参考書

Gayatri Chakravorty Spivak, "Death of a Discipline" (Columbia University Press, 2003)
Gretchen Murphy, "Hemispheric Imaginings:The Monroe Doctrine and Narratives of U.S. Empire" (Duke University Press, 2005)
Wai Chee Dimock, "Through Other Continents: American Literature Across Deep Time" (Princeton University Press, 2006)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学特殊研究C		
教員名	デュフレヌ レイモンド トッド、日比野 啓		
科目ナンバー	2071350013	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
The ‘Late Freud’ : Psychoanalysis From 1920-1939 (Dufresne)/ラカン理論と映画テキスト分析（日比野）			
到達目標			
In this seminar on the late works of Sigmund Freud, we begin with one of Freud’ s most speculative works, Beyond the Pleasure Principle (1920), and then look at features of the “cultural works” that follow. For example, we will read The Future of an Illusion (1927), the first chapter of Civilization and Its Discontents (1930), and two short essays written soon thereafter. Our goal is to unpack the meaning of these late works, and what they do to our understanding of psychoanalysis. Students are encouraged to read Fred’ s works in any language, including Japanese, although the classroom discussion and text will be in English. Since my own Tales From the Freudian Crypt (2000) is translated into Japanese, you might want to consult it. I will also make available a few commentaries that I have written over the years - the thrust of which I will be discussing in class. In other words, you won’ t need to guess at my own position because it will be very clear from the texts and my commentaries in class. At the same time, I do not expect you to agree with my views. You are being exposed to my understanding of the ‘late Freud’ , and are in no way obliged to echo that view. Consider the classroom a place of open debate, the better for us to wrestle with the meaning of Freud’ s work. Since this is a fairly intensive examination of Freud’ s thinking, regular attendance and participation is important. There will be one oral test (or an option for a written test); one short essay answer test; and one final essay. ラカンの理論について学び、次に映画テキスト分析においてラカン理論がどのように応用し得るか、ジジエック『ラカンはこう読め！』を読み進めながら考えます。 これらの目標を達成することによって、DP3およびDP8を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Introduction to Freud & Psychoanalysis Key Terms: the unconscious, couch, free association, trauma, dream interpretation, superego/ego/id, the origins of psychoanalysis, metapsychology Read my short blog at https://blog.oup.com/2017/05/freud-first-wild-analyst/. If you have the time feel free to read my short essay “The Making of a Freud Basher” (Reading Kit).		
			60
第2回	Introduction to Freud’ s Beyond the Pleasure Principle Key Terms: See above Read Chapter 1 and 2 of Beyond the Pleasure Principle.		
			120
第3回	Beyond the Pleasure Principle Key Terms: trauma, pleasure principle, reality principle, repetition Read Chapter 3 and 4 of Beyond the Pleasure Principle		
			120

第4回	Beyond the Pleasure Principle Key Terms: repetition compulsion, death drive, ontogenesis, phylogenesis, Nietzsche	
	Read Chapter 5 and 6 of Beyond the Pleasure Principle	120
第5回	Beyond the Pleasure Principle Key Terms: see above, plus Plato, Aristophanes	
	Read Chapters 7 and 8 of Beyond the Pleasure Principle	120
第6回	TEST (Oral Test worth 20%)	
	Review your course materials from Week 1-5. I will provide a question to help you prepare in advance.	120
第7回	The Future of an Illusion Key Terms: Marxism, revolution, communism, metapsychology	
	Read chapters 1, 2, and 3 of Future of an Illusion. If you have time read my Blogs at http://www.cambridgeblog.org/author-profile/todd-dufresne/	120
第8回	The Future of an Illusion Key Terms: lay analysis	
	Read chapters 4, 5, and 6 of Future of an Illusion	120
第9回	The Future of an Illusion Key Terms: phylogenesis, cultural superego, the future	
	Read chapters 7, 8, and 9 of Future of an Illusion	120
第10回	Civilization and Its Discontents Key Terms: Romain Rolland, pre-history, guilt, superego	
	Read chapter 1 of Civilization and Its Discontents.	120

第11回	Civilization and Its Discontents Key Terms: as above	
	Read a selection from Dufresne in the Kit.	120
第12回	Test 2 (essay test worth 30%)	
	Review materials from Week 7 to 10	120
第13回	Freud on Origins of Fire Key Terms: phylogenesis, pre-history, culture	
	Read Freud's essay on "The Acquisition and Control of Fire" (1932)	120
第14回	Freud & Einstein Key Terms: war, peace, innate aggressiveness, guilt, future	
	Read Freud's essay response to Einstein, "Why War?" (1933)	120
第15回	Dufresne on Freud Final essay worth 30% due at beginning of class	
	Complete your essay and submit it. Be prepared to read your thesis in class, and debate its claims.	180
第16回	イントロダクション：ラカンの精神分析について	
	テリー・イーグルトン『文学とは何か——現代批評理論への招待』「第5章 精神分析批評」を翻訳でいいので読んでください。	60
第17回	Lacan: A Beginner's Guide: Introduction/1. Lacan and his historical context /2. Through the looking glass: The Mirror Stage (pp. 1-40)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120

第18回	Lacan: A Beginner's Guide: 3. In the beginning was the word: structural linguistics and Lacan/4. The Other (pp. 41-73)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第19回	Lacan: A Beginner's Guide: 5. The paternal metaphor: the role of the father of the unconscious/6. Real, Symbolic, Imagery (pp. 74-108)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第20回	Lacan: A Beginner's Guide: 7. Unspeakable need, unquenchable desire: need, speech, and desire/ 8. That obscure object of desire: l'objet petit a (pp. 109-145)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第21回	Lacan: A Beginner's Guide: 9. Gender bending: the formula of 'sexuation'/10. Four Discourses: four forms of relationship/11. Can one train an analyst? (pp. 146-175)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第22回	Lacan: A Beginner's Guide: 12. Lacanian practice/ 13. After the flood: Lacan in the twenty-first century (pp. 176-212)	
	該当箇所を読んで自分の意見をまとめる。	120
第23回	中間試験	
	第17回から第21回までの内容についての試験を実施します。	120
第24回	How to Read Lacan: 1. Empty Gestures and Performatives: Lacan Confronts the CIA Plot (pp. 7-21)	
	該当箇所で見られている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120

第25回	How to Read Lacan:: 2. The Interpassive Subject: Lacan Turns a Prayer Wheel (pp. 22-39)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第26回	How to Read Lacan:: 3. From Che vuoi? to Fantasy: Lacan with Eyes Wide Shut (pp. 40-40)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第27回	How to Read Lacan:: 4. Troubles with the Real: Lacan as a Viewer of Alien (pp. 61-78)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第28回	How to Read Lacan:: 5. Ego Ideal and Superego: Lacan as a Viewer of Casablanca (pp. 79-90)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第29回	How to Read Lacan:: 6. 'God is dead, but He doesn't know it': Lacan Plays with Bobok (pp. 91-104)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。	120
第30回	How to Read Lacan:: 7. The Perverse Subject of Politics: Lacan as a Reader of Mohammad Bouyeri (pp. 105-120)	
	該当箇所では扱われている映画作品を見て、自分の意見をまとめる。学期末エッセイを作成し提出する。	180

授業の方法 (Dufresne) Seminar style class with short lectures. Each class will begin with a lecture, may include a video, and will proceed to an open seminar discussion about key terms and issues raised in the Readings. (日比野) ゼミ形式。前半は担当者が該当部分の要約を作成し、議論を行います。後半では『ラカンこう読み！』で扱われている映画作品 (Ryan's Daughter, Alien, Eyes Wide Shut, A Few Good Menなど。後期第1週に詳細なリストを配布します) を事前に見ておき、該当箇所と言及しながら、担当者が独自の解釈ができることを期待します。『ラカンこう読み！』は翻訳が出ていますので、翻訳で読み進めてもいいですが、
成績評価の方法 (Dufresne) Attendance & Participation 20% Oral Test 20% Essay Test 80% Final Essay 80% (日比野) 授業への積極的な参加 40% 中間試験 80% 学期末エッセイ 80%
成績評価の基準 成蹊大学大学院の成績評価基準 (学則第11条の2) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。
テキスト (Dufresne) Freud, Sigmund. TBA for purchase in Japanese or English. Freud, Sigmund. Reading Kit provided. (日比野) テリー・イーグルトン『文学とは何か——現代批評理論への招待(下)』(岩波文庫、2016年) ISBN: 978-4-00-372042-4 Lionel Bailly, Lacan: A Beginner's Guide (Oneworld Publications, 2009) ISBN-13: 978-1851686377 スラヴォイ・ジジェク、鈴木晶訳『ラカンこう読み！』(紀伊國屋書店、2008年) ISBN-13: 978-4314010368
参考書 (Dufresne) Dufresne, Todd. Tales From the Freudian Crypt: The Death Drive in Text and Context, Stanford: Stanford UP, 2000. ISBN-13: 978-0804734912 または トッド・デュフレーヌ、遠藤不比人訳、『〈死の欲動〉と現代思想』(みすず書房、2010年) ISBN-13: 978-4622074434 (日比野) Slavoj Zizek, How To Read Lacan (Granta Books, 2006) ISBN-13: 978-1862078949 Bruce Fink, A Clinical Introduction to Lacanian Psychoanalysis: Theory and Technique (Harvard University Press, 1999) ISBN-13: 978-0674135369 ブルース・フィンク、中西之信・椿田貴史・舟木徹男・信友建志訳『ラカン派精神分析入門—理論と技法』(誠信書房、2008年)
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	英語教育特殊研究 A		
教員名	ロブソン ゴードン レーン		
科目ナンバー	2071350031	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
The theme of this class is research into individual learner differences. Based on the textbook, we will take a intensive look at the relationships between second language proficiency and personality, aptitude, motivation, learning styles, learning strategies, anxiety, creativity, the willingness to communicate, self-esteem and learner beliefs. We will begin with the history of research into individual learner differences, and the way in which such differences have been identified. We will then proceed through an intensive study of the previously listed variables. In addition to the textbook, key studies from each area of individual learner differences will be assigned for occasional student presentations.			
到達目標			
The goals of this coarse are to thoroughly familiarize students with the area of individual learner differences research, the type of instruments used, and the typical outcomes of such research. By providing students with this knowledge, it is hoped that it will contribute to their own areas of research interests.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction and Chapter 1, Individual Learner Differences -- Then and Now		
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14		90 min.
第2回	Chapter 1, cont.		
	Students will be prepared to read and discuss pages 1-14.		90 min
第3回	Chapter 2, Personality		
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34		90 min

第4回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34. Students will also read Dewaele & Furnham, Extraversion: The unloved variable in applied linguistic research with one student providing a summary.	90 min
第5回	Chapter 2, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 15-34.	90 min
第6回	Chapter 3, Language Aptitude	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第7回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Nagata, Aline & Ellis, Modified input, language aptitude and the acquisition of word meanings with one student providing a summary.	90 min
第8回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71.	90 min
第9回	Chapter 3, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 35-71. Students will also read Ross, Yoshinaga & Sasaki, Aptitude-exposure interaction effects on Wh-movement violation detection by pre- and post-critical period Japanese bilinguals with one student providing a summary.	90 min
第10回	Chapter 4, Motivation	

	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第11回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Noels, Clement & Pelletier, Intrinsic, extrinsic, and integrative orientations of French Canadian learners of English with one student providing a summary.	90 min
第12回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第13回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105. Students will also read Ushioda, Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking with one student providing a summary.	90 min
第14回	Chapter 4, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 72-105.	90 min
第15回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the course. Students will announce their research areas.	90 min
第16回	Course introduction & Chapter 5, Learning Styles and Cognitive Styles	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第17回	Chapter 5, cont.	

	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139. Students will also read Dörnyei & Chan, Motivation and vision: An analysis of future L2 self images, sensory styles, and imagery capacity across two target languages with one student providing a summary	90 min
第18回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第19回	Chapter 5, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 106-139.	90 min
第20回	Chapter 6, Learning Strategies and Self-Regulation.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第21回	Chapter 6, cont.,	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169. Tseng, Dörnyei & Schmitt, A new approach to assessing strategic learning: The case of self-regulation in vocabulary acquisition with one student providing a summary.	90 min
第22回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min
第23回	Chapter 6, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 140-169.	90 min

第24回	Chapter 7, Other Learner Characteristics	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第25回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Horwitz, Language anxiety and achievement with one student providing a summary.	90 min
第26回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193.	90 min
第27回	Chapter 7, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 170-193. Students will also read Yashima, Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context with one student providing a summary.	90 min
第28回	Chapter 8, Conclusion: Looking Back and Forward	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207.	90 min
第29回	Chapter 8, cont.	
	Students will be prepared to read and discuss pages 194-207. Student research papers are due.	90 min
第30回	Review & discussion.	
	Students will be prepared to review and wrap up the courses.	90 min

授業の方法
This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented handouts and other materials. Students will be expected to actively participate during class time. Students will produce an individual learner differences study of between 10 and 20 pages in length. Students will also produce summaries of the assigned research studies.
成績評価の方法
The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 10% 2) summaries 20% and 3) research paper 70%.
成績評価の基準
成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.
必要な予備知識／先修科目／関連科目
N/A
テキスト
The Psychology of the Language Learner Revisited, Zoltan Dornyei and Stephen Ryan, Routledge, ISBN 978-1-138-01874-7
参考書
The Study of Second Language Acquisition, Second Edition, Rod Ellis.
質問・相談方法等(オフィス・アワー)
Questions will be taken before and after class.

科目名	論文演習III		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071350091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071350092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	田辺 春美		
科目ナンバー	2071350093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	古典文学特殊講義 I		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070461001	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
江戸時代末期の御籤本『神代正語籤 全』を読みながら、近代における和歌みくじの変化とおみくじにおける和歌の意義を考える。			
到達目標			
DP 6・DP 7・DP 8を実現するため、次の四点を到達目標とする。 ①幕末～明治における和歌みくじの意義について説明できる。 ②日本の和歌みくじ史上における『神代正語籤 全』の位置付けを説明できる。 ③変体仮名を翻刻できる。 ④『神代正語籤 全』の各籤の内容を正確に理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	シラバスを読んでおく。		60分
第2回	近代における和歌みくじ		
	事前に配布する論文を読んでおく。		60分
第3回	『神代正語籤 全』とは		
	前回の授業内容のふりかえり。		60分

第4回	『神代正語籤 全』を読む 1	
	指定の課題を行う。	60分
第5回	『神代正語籤 全』を読む2	
	指定の課題を行う。	60分
第6回	『神代正語籤 全』を読む3	
	指定の課題を行う。	60分
第7回	『神代正語籤 全』を読む4	
	指定の課題を行う。	60分
第8回	『神代正語籤 全』を読む5	
	指定の課題を行う。	60分
第9回	『神代正語籤 全』を読む6	
	指定の課題を行う。	60分

第10回	『神代正語籤 全』を読む7	
	指定の課題を行う。	60分
第11回	『神代正語籤 全』を読む8	
	指定の課題を行う。	60分
第12回	『神代正語籤 全』を読む9	
	指定の課題を行う。	60分
第13回	『神代正語籤 全』を読む10	
	指定の課題を行う。	60分
第14回	『神代正語籤 全』を読む11	
	指定の課題を行う。	60分
第15回	まとめ	
	前期のふりかえり	60分

授業の方法

近代におけるおみくじの変化について講義したのち、版本『神代正語籤 全』を読み進める。変体仮名読解の訓練のため、毎回、授業で読む部分の変体仮名を翻刻を行う。

成績評価の方法

授業時の発言・発表(50%)、課題レポート(50%)で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「古典文学共通講義Ⅰ」(前期)と「古典文学共通講義Ⅱ」(後期)は、どちらも「おみくじ」をテーマとする。理解を深めるため、通年での受講を推奨する。

テキスト

『字典かな 改訂版』笠間書院(360円)、その他プリント、またはPDFファイルを配布する。

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学特殊講義II		
教員名	平野 多恵		
科目ナンバー	2070461002	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
江戸時代末期の御籤本『神代正語籤 全』を読みながら、近代における和歌みくじの変化とおみくじにおける和歌の意義を考える。近代の和歌みくじについて学んだ知見を応用し、現代の和歌みくじのありかたについても検討する。おみくじについての学びの総まとめとして、現代の和歌みくじである天祖神社歌占にかんするプロジェクトにも関わる。			
到達目標			
DP 6・DP 7・DP 8を実現するため、次の五点を到達目標とする。 ①幕末～明治における和歌みくじの意義について説明できる。 ②日本の和歌みくじ史上における『神代正語籤 全』の位置付けを説明できる。 ③変体仮名を翻刻できる。 ④『神代正語籤 全』の各籤の内容を正確に理解できる。 ⑤和歌みくじの文化をわかりやすく発信できる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス・前期のふりかえり		
	シラバスを読んでおく。前期から続けての履修者は前期の資料を復習しておく。	60分	
第2回	『神代正語籤 全』を読む 1		
	指定の課題を行う。	60分	
第3回	『神代正語籤 全』を読む 2		
	指定の課題を行う。	60分	

第4回	『神代正語籤 全』を読む 3	
	指定の課題を行う。	60分
第5回	『神代正語籤 全』を読む 4	
	指定の課題を行う。	60分
第6回	『神代正語籤 全』を読む 5	
	指定の課題を行う。	60分
第7回	『神代正語籤 全』を読む 6	
	指定の課題を行う。	60分
第8回	『神代正語籤 全』を読む 7	
	指定の課題を行う。	60分
第9回	『神代正語籤 全』を読む 8	
	指定の課題を行う。	60分

第10回	天祖神社歌占プロジェクト1	
	指定の課題を行う。	60分
第11回	天祖神社歌占プロジェクト2	
	指定の課題を行う。	60分
第12回	天祖神社歌占プロジェクト3	
	指定の課題を行う。	60分
第13回	天祖神社歌占プロジェクト4	
	指定の課題を行う。	60分
第14回	天祖神社歌占プロジェクト5	
	指定の課題を行う。	60分
第15回	まとめ	
	後期のふりかえり	60分

授業の方法

幕末に出版された版本『神代正語箋 全』を読み進める。変体仮名読解の訓練のため、毎回、授業で読む部分の変体仮名を翻刻を行う。

成績評価の方法

授業時の発言・発表(50%)、課題レポート(50%)で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「古典文学共通講義Ⅰ」(前期)と「古典文学共通講義Ⅱ」(後期)は、どちらも「おみくじ」をテーマとする。理解を深めるため、通年での受講を推奨する。

テキスト

『字かな 改訂版』笠間書院(360円)、その他プリント、またはPDFファイルを配布する。

参考書

中村啓信『新版 古事記』(角川ソフィア文庫)、その他、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学特殊講義 I		
教員名	杉井 和子		
科目ナンバー	2070461011	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義は、日本の近代文学史の流れの中での、特に私小説の問題に注目する。日本の昔話、西洋の童話、古い伝承などの広範な文学ジャンルを視野に入れ、そのことが近代作家のあらたなモチーフとどのようにつながるか、作家が私を語るために伝承に題材を求めたのは何故かを考察していく。語り手の位置について、特にこだわりながら、作家の意図、文体などを細かく分析し、原典とともに時代思潮をも理解していく。大正期の小説から、ポストモダンの小説へと飛びながら、その描かれた現代を、作家の意図とともに探る。

到達目標

基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1回 イン트로ダクション 「浦島太郎」「赤頭巾」「不思議の国のアリス」「クマのプーさん」のお話をまずまとめてみる。	
	小さい頃に読んだ、4つの童話、昔話を思い出してまとめてみる。どんな教訓とともに読んだかもまとめる。	60
第2回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。	
	難解な小説を読解するため、どのような方法をとればいいのかを考える。	60
第3回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 原典がどう作り変えられているか、特にあらたな小説のキーワードを細かく抽出して、現代小説の問題点をまず、探る。	
	作品成立の時代背景、作家の特質などの理解をしながら、理解を深めていく。	60

第4回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 この新小説のなかに存在する2つの対立図式をくみためながら、問題に近づいていく。	
	話のモチーフを明確にし、風刺や社会批判の意識をできるだけ文中の語から読み取っていく。	60
第5回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 読解に有効な参考文献を読む。	
	原作との比較対照の上で、作家のモチーフに近づいていく。	60
第6回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」を読む。 「私は誰？」という問いかけと、それを促す人間の共通体験について考える。	
	作家について。高橋の日本文学史のあらたな切り込みを参考にして、語り手の問題がどう焦点化されているかを理解する。	60
第7回	高橋源一郎の「さよならクリストファーロビン」をまとめる。この小説には現代がどんな問題として表象されているのかをまとめる。	
	文章を読み、「私小説」と昔話の接点を説明していく。	60
第8回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	独特な言い回し、着眼の面白さをまとめる。	60
第9回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	作家の語ろうとする内容をよりすっきりと説明していく。	60

第10回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	原作が提起する問題をまとめ、高橋の浦島物語との違いをまとめる。	60
第11回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	現実をどのような方法でそれらしく映し出しているか、作者が浦島を援用する目的は何かをまとめる。	60
第12回	宇野浩二の「甘き世の話 新浦島太郎物語」を読む。	
	文中で作家自身の説明が述べられる所について考える。	60
第13回	宇野浩二の甘き世の話「新浦島太郎物語」を読む。	
	この題名がなにを意味しているか、原作のモチーフを明らかにしながら、比較対照をする。	60
第14回	「浦島太郎」の話のどんなパロディかをまとめていく。 この小説のタイトルの意義を考察する。	
	客観描写、風景描写、心情描写と根本的に異なる小説のなかに、その意図を読み取っていく。	60
第15回	まとめ 伝承物語の受容によって、現代小説はなにを表現できるようになったか、「私」が置かれた現代とともに、「私」の表現についてまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、あらたに書き加えられた意義を、時代思潮とともにまとめてみる。	60

授業の方法

作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法

授業時の発表（50%）レポート（50%）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト

授業はすべてプリント。

「さよならクリストファーロビン」 高橋源一郎 岩波書店

「ペロー寓話集」 岩波文庫

「不思議の国のアリス」 岩波文庫 「クマのプーさん」 岩波書店 「宇野浩二集」

参考書

「いまファンタジーにできること」 アーシュラ K ル・グイン 河出書房新社

「いま読むペロー」 工藤庸子 羽鳥書店

「日本文学盛衰史」 高橋源一郎 講談社

「日本文学の表現機構」 安藤宏 岩波書店

「近代文体発生の史的研究」 山本正秀 岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近代文学特殊講義II		
教員名	杉井 和子		
科目ナンバー	2070461012	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
本講義は、共通講義Ⅰに引き続き、歴史小説をもとにして、日本の近代文学史に迫っていく。特に、小説が書かれた時代、どんな歴史的背景の中で成立したかを丹念に見ていく。日本の近代小説を、伝承物語などを原典として再創造されたものに注目し、その変化、ずらしを細かく読み取り、両者の表現および思潮を捉え考察していく。様々な観点から作品分析を行い、その作家の生きた時代の意味をも理解していく。翻案という考え、また、歴史小説としての視点を含め、作家の批評意識に触れる。作家の意図、文体、原作の改変などを細かく分析しながら、原典とともに近代小説を捉え返し、時代思潮をも理解していく。			
到達目標			
基本的な資料を、きちんと読み込み、何が問題となっているかを考察できるようにする。 戯作的なもの、怪奇小説的なものにも眼を向け、風刺へと発展していくプロセスをも見ていく。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1回 インTRODakション 近代小説における翻案小説、再話の意義を解説し、さまざまな翻案や翻訳小説の紹介を行う。これから取り組む小説と評論についてのガイダンスをおこなう。		
	これまで自分の取り組んだ翻案について、また、初めて扱う翻案について理解を深める。	60	
第2回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。 織田の西鶴の現代語訳なども合わせて読んでいく。		
	異文化と、その語りの違いを確認しながら、枠組み小説に対する問題意識をもつ。この小説のモチーフを明らかにする。	60	
第3回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。歴史的な人物の自在な表現方法をまとめる。		
	この話が日本人にどう受け止められていったのか。さらに続けて考察していく。	60	

第4回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作品の成立事情、内容を理解し、読後の印象をまとめる。どのような意図を表すか、その意図を探る。	60
第5回	織田作之助の「猿飛佐助」を読み込んでいく。	
	作者のこだわりや、表現上の特異な点を見つけていく。	60
第6回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読み込んでいく。昭和18年の作品の背景とともに読んでいく。この中で語る「私」がどのような特徴をもっているかに拘っていく。	
	どのような意識で原典を用いたのか、小説中の重要な言葉とそこに意味されたものを自分で解釈する。	60
第7回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。作家が英国少佐の心理を風刺しているのはどんな点か、をまとめる。	
	真面目にどんなことを考えているのか、考えていく。戦争の問題意識のありようとともに考え合わせていく。	60
第8回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	改変の意義を、自らの作品論としてまとめる。	60
第9回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。	
	内容に合わせて、文体や表現の特徴をつかむ。	60

第10回	織田作之助の「バーナー少佐の手記」を読む。 作家が時代に抗っていく形を読み込む。	
	英国少佐に語らせた意味をまとめる。	60
第11回	半村良の「筆筈」を読む。この小説は、なにを恐怖として描いているか。	
	題名や、筆筈というものの持つ意味性を捉える。その意義を考える。	60
第12回	半村良の「筆筈」を読む。	
	この小説の面白さについて自分の考えをまとめる。	60
第13回	半村良の「筆筈」を読む。主語の自在な変化を意味化していく、	
	作家の独特な表現の可能性を考察する。	60
第14回	この時期のエンターテイナーによる、あらたな小説の可能性を絞っていく。外国の小説の何を取り入れて自らの創作の樹立をめざしたのか、同時期の小説に照らして考察する。	
	特に、ジャンルや表現方法によって小説を位置づける。具体的に小説の言葉を抽出しながら説明し、考察する。	60
第15回	まとめ 日本の近代文学の史的な発展をまとめる。特に戦後の戯作はの活動に通目し、作家の私の意識の自在な変転の面白さをまとめる。	
	各作家について、自分なりにまとめ、時代思潮もまとめてみる。	60

授業の方法

作品読解のために、講義と解説を行い、受講者の発表、小レポートをも課す。全体で活発な討論を行うような方法をとる。

成績評価の方法

授業時の発表（５０％）レポート（５０％）講義の積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代文学史を学習して、作家の特徴、背景などをよく理解しておくこと

テキスト

授業はすべてプリント。
「織田作之助全集 2巻」文泉堂
「表現の冒険」講談社文庫

参考書

「織田作之助文藝事典」浦西和彦 和泉書店大空社
「大阪近代文学作品事典」浦西和彦 和泉書店
「日本の名随筆 謎」半村良作品社
「近代小説の表現機構」安藤宏 岩波書店
「近代文体発生の史的研究」山本正秀 岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学特殊講義 I		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070461021	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
日本語レトリック論の概要と分析手法を習得する。 テキストは、日本語を題材としてさまざまなレトリックについて平易に解説している。このテキスト及び関連研究論文を丁寧に検討していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の2点を到達目標とする。 ・日本語レトリック論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。 ・他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。		10
第2回	テキスト(1) 第1章～第2章と関連文献の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90
第3回	テキスト(1) 第3章と関連文献の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90

第4回	テキスト（１）第４章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト（１）第５章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト（１）第６章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト（１）第７章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト（１）第８章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト（１）第９章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト（１）第10章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト（１）第11章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト（１）第12章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト（１）第13章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	テキスト（１）第14章と関連文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	まとめ	
	前期の授業の内容を振り返り、理解が至っていない点を明確にする。	90

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目しその到達度により評価を行う。

- ・日本語レトリック論の基本知識と分析方法を理解しているか。
- ・他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

森雄一『学びのエクササイズ レトリック』（ひつじ書房）

関連研究文献については授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学特殊講義II		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070461022	単位数	2
配当年次		開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
認知言語学的な観点からのメタファー理論の概要と分析手法を習得する。 テキストは、認知言語学的な観点からのメタファー論の概説として優れたものである。この書物を読み、十分に理解した後で関連研究論文を講読していく。また、随時、受講者が現在研究している内容を報告してもらい皆で討議する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、8(創造性豊かな研究能力)を実現するために次の3点を到達目標とする。 ・ 認知言語学的な観点からのメタファー論の基本的手法を理解し、言語現象を自分なりに分析できる。 ・ 他者に対してわかりやすく自分が行った分析を示すことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。		10
第2回	テキスト第1章、第2章の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90
第3回	テキスト第2章の講読と討議		
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。		90

第4回	テキスト第2章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第5回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第6回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第7回	テキスト第3章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第8回	テキスト第4章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第9回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

第10回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第11回	テキスト第5章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第12回	テキスト第6章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第13回	テキスト第7章の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第14回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90
第15回	関連研究文献の講読と討議	
	テキスト及び配布された資料を読み、今回の授業で扱うトピックの研究状況を理解する。	90

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表の質（５０パーセント）、他の受講生の発表への質問・コメントなど授業への取り組み（５０パーセント）

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

次の点に着目しその到達度により評価を行う。

- ・ 認知言語学的なメタファー論の基本知識と分析方法を理解しているか。
- ・ 他者に対してわかりやすく自分の行った分析を示せるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

谷ロー美著『認知意味論の新展開 メタファーとメトニミー』（研究社）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古代文学特殊研究 A		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070460002	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
『古今和歌集』の読解演習。 『古今和歌集』に収められた和歌を、『万葉集』との繋がりがりやその後の平安和歌の展開、また中国文学との関係などを意識しながら、丁寧に読み解いていく。			
到達目標			
DP 8 を実現するために、次の 2 点を到達目標とする。 ・ 古典和歌が正確に読解できる。 ・ 古典和歌の解釈上の問題点を発見し、それを客観的に解決に導ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 『古今和歌集』の伝本や主要研究書など、基礎的な知識について講義する。		
	『古今和歌集』を読み解くための基礎知識について確認する。		60
第2回	春の歌 1		
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。		60
第3回	春の歌 2		
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。		60

第4回	春の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第5回	春の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第6回	春の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第7回	夏の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第8回	夏の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第9回	夏の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第10回	秋の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第11回	秋の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第12回	秋の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第13回	秋の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第14回	秋の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第15回	冬の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第16回	冬の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第17回	冬の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第18回	賀の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第19回	離別の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第20回	羈旅歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第21回	物名の歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第22回	恋の歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第23回	恋の歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第24回	恋の歌 3	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

第25回	恋の歌 4	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第26回	恋の歌 5	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第27回	哀傷歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第28回	雑歌 1	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第29回	雑歌 2	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60
第30回	雑躰歌	
	担当歌について、語学的に正確な読解を施した上で、鑑賞上のポイントになる点を自分なりに考えてくる。	60

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

平常点（４０％）および発表内容（６０％）を中心に総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業中に指示する。

参考書

鈴木日出男『古代和歌史論』（東京大学出版会）
小島憲之『古今集以前』（塙書房）
片桐洋一『古今和歌集の研究』（明治書院）
鈴木宏子『古今和歌集表現論』（笠間書院）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近世文学特殊研究		
教員名	揖斐 高		
科目ナンバー	2070460031	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
江戸時代後期の文政11年（1828）に出版された、近世の学者・文人などの漢文体逸話集『近世叢語』を読解する。			
到達目標			
①漢詩文の訓読と注釈、現代語訳の能力を涵養する。 ②江戸時代の学者・文人たちの伝記を調査し、その言行の意味を考察する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習や復習の仕方などを説明する。 ・『近世叢語』の概略と著者角田九華の伝記の概略を説明する。		
	シラバスによく目を通しておくこと。		10
第2回	佐藤一斎の序文と頼山陽の序文の読解演習。		
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。		90
第3回	角田九華の自序と「凡例」の読解演習。		
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。		90

第4回	巻1「徳行」林羅山の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第5回	巻1「徳行」中江藤樹の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第6回	巻1「徳行」貝原益軒の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第7回	巻1「徳行」五井持軒の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第8回	巻1「徳行」谷一斎の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第9回	巻1「徳行」綾部道弘（上）の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第10回	巻1「徳行」綾部道弘（下）の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90

第11回	巻1「徳行」農夫五郎・内藤平常・越智平庵の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第12回	巻1「徳行」樵夫清七・細井広沢の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第13回	巻1「徳行」安芸国の孝子ほかの読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第14回	巻1「徳行」後藤良山の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。	90
第15回	巻1「徳行」雨森芳洲の読解演習。	
	演習予定の箇所を前もって通読し、不明な語句などを調査しておくこと。。	90
第16回	巻1「徳行」荻生徂徠の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第17回	巻1「徳行」太田見良・大神沢一・山県周南の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第18回	巻1「徳行」伊藤介亭・広瀬才二の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第19回	巻1「徳行」宮崎筠圃・若狭国の農夫の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第20回	巻1「徳行」望月鹿門・僧義寛・井上仲八の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第21回	巻1「徳行」片山北海・永田佐吉の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第22回	巻1「徳行」三浦梅園の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第23回	巻1「徳行」永田東皐・伊藤茂臣ほかの読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第24回	巻2「言語」永田善斎の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90

第25回	巻2「言語」佐藤直方の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第26回	巻2「言語」浅見絢斎の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第27回	巻2「言語」梨木三位・五井持軒・三宅尚斎の読解演習。	
	今回演習予定の作品について前もってしておくこと。	90
第28回	巻2「言語」千田大円堂ほかの読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第29回	巻2「言語」新井白石の読解演習。	
	演習予定の作品について前もって予習しておくこと。	90
第30回	まとめ	
	これまで演習した作品の問題点を考えておくこと。	60

授業の方法

ガイダンス講義を行なった後に、授業参加者に担当箇所を割り当て、順次演習形式で読解してゆく。担当発表者は発表資料を準備し、それに基づいて発表することとし、その発表について、出席者全員で質疑応答し、発表担当者の読解を補正する。

成績評価の方法

分担発表の出来映えと授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

返り点の付された漢文を書き下す能力があること。

テキスト

江戸時代に出版された板本のコピーを配付する。

参考書

必要に応じて指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時メールで受け付け、必要ならば授業の開始前に相談を受ける。

科目名	近代文学特殊研究 A		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070460041	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
近代小説の読み解きを通じた作品論の可能性について考える。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6実現にむけ、次の三点を到達目標とする。 日本近代文学の基本的なパースペクティヴに通じている。 文学史の常識に通じている。 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスを身につけている。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス授業		
	【予習】シラバスを読み。日本近現代文学史に関する自分の知識や理解を顧み、また自分の研究テーマの文学史的意義付けについて考え、結果をメモしておく。		60分
第2回	ゼミの具体的な進め方について話し合う。		
	【予習】ガイダンスを踏まえて、テキストの内容を点検しておく。 【復習】話し合いの内容を反芻し、自分なりの演習スケジュールを確認する。		60分
第3回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。		
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。		90分

第4回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第5回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第6回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第7回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第8回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第9回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第10回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第11回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第12回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第13回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第14回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第15回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第16回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第17回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第18回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第19回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第20回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第21回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第22回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第23回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第24回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分

第25回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第26回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第27回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第28回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第29回	担当者の発表と全員による論議。各自必要に応じて後で振り返る際の手がかりになるメモをとりながら参加する。	
	【予習】対象となるテキストを読み、興味を引かれた点、疑問点などの感想をメモする。 【復習】発表とそれをめぐって展開された論議を振り返り、必要なメモをとる。	90分
第30回	今期の演習についてその成果と反省点等を全員で振り返り話し合う。	
	【予習】各自自分の参加態度も含めて今期の演習の流れについて省みる。 【復習】話し合いを反芻し必要なメモをとる。	60分

授業の方法

担当者による発表と、全員による議論からなる演習を重ねる。臨機に共同研究のような試みも入れる予定。

成績評価の方法

総合評価。平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）（40%）、発表（40%）、レポート等（20%）。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ① 日本近代文学の基本的なパースペクティブに通じているか。
- ② 文学史の常識に通じている。
- ③ 反映論を超えた文学の歴史記述に向けたセンスが身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

未定

参考書

適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近代文学特殊研究B		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070460042	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
近代日本文学の研究。 発表と討議、情報交換を通して、演習参加者各自の研究を深める。 原則的には統一テーマを設けないが、参加者の人数と意欲次第では特定のテキストを決めて共同研究を行う。 なお、研究科オリエンテーションおよび第一回の授業には必ず出席すること。			
到達目標			
DP6～8を実現するため、以下を到達目標とする。 近代文学についての理解を深め、自ら主体的に研究する力、研究成果を発表し、論文にまとめる力を身につける。 『人文研究』または『成蹊国文』ほかに論考を掲載する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	演習の進め方について検討し、発表順序を決める。		
	シラバスを読み、自分の研究テーマの意義や可能性などについて考え、メモをしておく。	60	
第2回	発表と討議 1		
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90	
第3回	発表と討議 2		
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90	

第4回	発表と討議 3	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第5回	発表と討議 4	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第6回	発表と討議 5	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第7回	発表と討議 6	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第8回	発表と討議 7	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第9回	発表と討議 8	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第10回	発表と討議 9	
	発表者は十全の準備をし、レジユメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第11回	発表と討議 1 0	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第12回	発表と討議 1 1	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第13回	発表と討議 1 2	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第14回	発表と討議 1 3	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第15回	前期反省会	
	半期の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90
第16回	後期の演習の進め方について検討し、発表順序を決める。	
	自らの発表の準備を進めておく。	90
第17回	発表と討議 1 4	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第18回	発表と討議 1 5	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第19回	発表と討議 1 6	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第20回	発表と討議 1 7	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第21回	発表と討議 1 8	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第22回	発表と討議 1 9	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第23回	発表と討議 2 0	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第24回	発表と討議 2 1	
	発表者は十全の準備をし、レジメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90

第25回	発表と討議 2 2	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第26回	発表と討議 2 3	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第27回	発表と討議 2 4	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第28回	発表と討議 2 5	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第29回	発表と討議 2 6	
	発表者は十全の準備をし、レジュメを作成する。他の参加者はテキストと主要参考文献に目を通し、自ら論点を用意しておく。	90
第30回	反省会	
	1年間の演習と自らの研究の展開を振り返り、続く研究のデザインを考える。	90

授業の方法

輪番による発表と討議を基本のスタイルとする。
発表時間数などは受講者との相談で決める。

成績評価の方法

発表と討議をそれぞれ約40%、その他の自主研究の成果約20%の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・ 授業で学んだ近代文学についての理解が身についているか。
- ・ 自ら主体的に研究したか。
- ・ 口頭発表を行い、論文等の形にまとめたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

発表者との相談にて決定する。

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学特殊研究 A		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070460051	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
日本語を専門的に研究する際に必要な知識・能力を身につけるために、資料や研究文献を精読する。 授業では、受講生に、興味・関心を抱いている日本語関連の問題点や、現在追究している課題等について述べてもらい、関わりのある文献資料や先行研究を詳しく読み進めながら、考察し議論することにした。			
到達目標			
DP2 (課題の発見と解決)、6 (専門分野の知識・理解) を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①的確に日本語の用例を収集・分析し、高度な日本語研究を行うことができる。 ②日本語学・日本語資料に関する事項を理解し、詳細に説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス - 授業の進め方を説明する。 追究するテーマの披露 - 各自に関心を持っている問題点について述べてもらう。		
	追究したいテーマについてある程度の内容を話せるよう準備しておく。		60
第2回	精読する文献資料の選定 追究するテーマに関する小発表 テーマに関する知識を披露する。		
	追究したいテーマやその先行研究に関する知識をまとめておく。		60
第3回	文献資料についての解説 先行研究に関する発表		
	資料に関する先行研究を探しておく。		120

第4回	資料及び研究文献の精読（１）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第5回	資料及び研究文献の精読（２）	
	課題を復習する。	60
第6回	資料及び研究文献の精読（３）	
	課題を復習する。	60
第7回	資料及び研究文献の精読（４）	
	課題を復習する。	60
第8回	資料及び研究文献の精読（５）	
	課題を復習する。	60
第9回	資料及び研究文献の精読（６）	
	課題を復習する。	60
第10回	資料及び研究文献の精読（７）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60

第11回	研究テーマに関する発表（１）	
	発表の準備をする。	60
第12回	資料及び研究文献の精読（８）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第13回	資料及び研究文献の精読（９）	
	課題を復習する。	60
第14回	資料及び研究文献の精読（10）	
	課題を復習する。	60
第15回	資料及び研究文献の精読（11）	
	課題を復習する。	60
第16回	資料及び研究文献の精読（12）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第17回	研究テーマに関する発表（２）	
	発表の準備をする。	120

第18回	資料及び研究文献の精読（13）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60
第19回	資料及び研究文献の精読（14）	
	課題を復習する。	60
第20回	資料及び研究文献の精読（15）	
	課題を復習する。	60
第21回	資料及び研究文献の精読（16）	
	課題を復習する。	60
第22回	資料及び研究文献の精読（17）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第23回	研究テーマに関する発表（3）	
	発表の準備をする。	120
第24回	資料及び研究文献の精読（18）	
	資料に関する予習をする。課題を復習する。	60

第25回	資料及び研究文献の精読（19）	
	課題を復習する。	60
第26回	資料及び研究文献の精読（20）	
	課題を復習する。	60
第27回	資料及び研究文献の精読（21）	
	課題を復習する。	60
第28回	資料及び研究文献の精読（22）	
	課題を復習する。発表の準備をする。	60
第29回	資料及び研究テーマに関する発表	
	発表の準備をする。	120
第30回	授業のまとめ	
	不足している知識等を確認する。	60

授業の方法

講読・演習形式

成績評価の方法

発表内容（50%程度）、授業中の発言・質問など授業への積極的な参加（50%程度）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の用例を的確に収集し、高度な分析ができる。
②日本語学・日本語資料に関する事項について詳細な説明ができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	久保田 篤		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070460091	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070460092	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	2070460093	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生各自の研究テーマにそって助言、議論等を行いながら、博士論文執筆のための指導をする。

到達目標

DP6（博士論文の作成）を実現するために、必要な知識・研究技法が身についていることを目標とする。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 博士論文執筆のために必要な知識・研究技法が身についているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講者に応じて適宜指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	欧米文化特殊研究B		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071370102	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
アメリカ社会史に関する一次史料と二次史料を組み合わせた文献を精読し、史料の読解についての基礎的なトレーニングを行うとともに、先行研究の動向を把握する。さらに、各自の研究テーマや学術的な関心に沿った形で、指定テキスト以外の一次史料や二次史料も用いて、史料・文献の批判的読解や史料に基づいた実証的分析のトレーニングを行う。また、先行研究のレビューの方法、研究課題の設定などのアカデミックスキルの基本についても確認する。			
到達目標			
DP 7、DP 8 を実現するため、以下の 4 点を到達目標とする。 ①史料批判とはなにかを理解し、実践することができる。 ②事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションを行うことができる。 ③特定のテーマに関する一次史料と二次史料に基づき、研究動向をまとめて文章化することができる。 ④アメリカ社会史に関する基礎的な歴史知識を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・ 演習の内容、進め方等を説明する。 ・ 使用するテキストを決め、各自で準備する。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。		60
第2回	アメリカ研究の現在 (その1) ・ エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。		
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60
第3回	アメリカ研究の現在 (その2) ・ エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。		
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60

第4回	アメリカ研究の現在（その3） ・エスニシティ論やジェンダー研究などについて、最新の研究動向を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	プレゼンテーション 1 ・アメリカ合衆国に関して、各自で最も関心のある研究領域を選び、先行研究の動向と課題について発表する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第6回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第7回	一次史料と二次史料の比較検討（その1） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	一次史料と二次史料の比較検討（その2） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	一次史料と二次史料の比較検討（その3） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第10回	一次史料と二次史料の比較検討（その4） ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

第11回	プレゼンテーション 2 ・すでにテキストで取り上げられている一次史料を一つ選び、それについて二次文献を新たに追加しつつ、解説する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第12回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第13回	一次史料と二次史料の比較検討 (その5) ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第14回	一次史料と二次史料の比較検討 (その6) ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第15回	一次史料と二次史料の比較検討 (その7) ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第16回	一次史料と二次史料の比較検討 (その8) ・事前に指定した文献に基づき、それぞれの史料について解説する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第17回	プレゼンテーション 3 ・すでにテキストで取り上げられている二次史料（抜粋）を一つ選び、その著者による他の研究論文を口頭で紹介する。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60

第18回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第19回	映像史料分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第20回	映像史料分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第21回	映像史料分析 その3 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第22回	映像史料分析 その4 ・すでに取り上げたテーマに関する映像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第23回	図像史料分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第24回	図像史料分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関する図像史料について、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60

第25回	オーラルヒストリー分析 その1 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第26回	オーラルヒストリー分析 その2 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第27回	オーラルヒストリー分析 その3 ・すでに取り上げたテーマに関するオーラルヒストリーについて、分析方法を学修する。	
	【予習・復習】 指定された課題の準備とレビューを各自でしておく。	60
第28回	プレゼンテーション 4 ・各自のテーマに即して、可能な限り映像史料や図像史料を用いてプレゼンテーションを行う。	
	【予習・復習】 プレゼンテーションに向けた準備をしておく。	60
第29回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーションを振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーションのレビューを各自でしておく。	60
第30回	全体のまとめ ・理解度を確認する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自でしておく。	60

授業の方法

演習形式で行う。各自で事前に史料・文献を読み、授業当日にはディスカッションと解説、質疑応答を行う。また、口頭発表の際には、事前に作成したレジュメに基づき、プレゼンテーションと質疑応答を行う。

成績評価の方法

毎回の演習時におけるディスカッションへの貢献、課題など＝平常点（50%）、レジュメ・書評、レポート等の課題（25%）、プレゼンテーション（25%）による総合評価とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本を含む世界各地域の文化、歴史に関する科目のほか、文化人類学・社会学等の隣接諸学に関する科目。

テキスト

開講時に受講者と相談のうえ、決定する。ただし、以下の文献については、一次史料と二次史料の比較検討を行う際に、受講者のテーマ・関心に近い巻（あるいは複数の巻のなかのいくつかの章）を選んで使用する。

・Thomas G. Paterson, ed. Major Problems in American History Series. Houghton Mifflin.

参考書

- ・ニール・キャンベル、アラスディア・キーン『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ 第2版』萌書房、2012年。
- ・アメリカ学会訳編『原典 アメリカ史』第1巻～第9巻、岩波書店、1950～2006年。
- ・五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門 第3版』東京大学出版会、2003年。
- ・有賀夏紀・紀平英作・油井大三郎編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化特殊研究 A		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	2071370111	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
この授業では、「国際関係に文化の視点から取り組む」作業を、文献講読を中心に行う。 「文化でみる国際関係」「文化でつくる国際関係」「文化がつくる国際関係」の3つのテーマのいずれか、あるいは複数を取りあげ、受講者の関心もふまえて関連する文献を選定し、講読する。			
到達目標			
国際関係と文化にまつわる諸問題・諸議論について理解を深め、各人の研究に役立てることを目標とする。 全体を通して、「聞く」「課題を発見する」「情報を収集する」「情報を整理する」「読む」「書く」「分析する」「プレゼンする」といった、研究を遂行するための力を養うことをめざす。DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	〈具体的な授業の進め方は、受講者と相談の上決定する。〉 イントロダクション (授業の概要と問題意識を解説し、受講者の問題関心を聴取する。)		
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30	
第2回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。)		
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120	
第3回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)		
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120	

第4回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第5回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第6回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第7回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第8回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第9回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第10回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第11回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第12回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第13回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第14回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者に、授業での文献購読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。)	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第15回	授業前半のふり返りと今後の研究計画相談 (前半の授業を総括するとともに、後半の授業の方向性や、各人の研究の展望などについて意見を交換する。)	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60
第16回	後半のイントロダクション (後半の授業計画について協議する。)	
	【予習】シラバスをよく読み、演習の進め方を理解しておく。	30
第17回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者の研究テーマや研究上の関心、関連文献を報告してもらい、購読文献の選択や授業の計画に役立てる。)	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120

第18回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第19回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第20回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第21回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第22回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第23回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第24回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120

第25回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第26回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第27回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第28回	文献講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習・復習】テキストの指定箇所を熟読し、概要と考察をまとめる。	60～120
第29回	受講者の研究概要と文献調査の報告 (受講者に、授業での文献講読をふまえた各自の研究の展開を報告してもらう。)	
	【予習・復習】自身の研究概要と関連文献をまとめる。	120
第30回	まとめ (授業全体を総括し、各人の研究の展望などについて意見を交換する。)	
	【予習・復習】授業の内容を総括し、得られた成果や反省点を自身の研究に役立てる。	60

授業の方法

主として外国語（英語またはドイツ語）の文献講読をベースにした対話型の授業を行う。受講者は課題となる文献を予習し、授業で文章の日本語訳あるいは主要な論点、内容に対する批判的考察を発表する。それに基づいて議論を進める。

成績評価の方法

授業への出席50%、毎回の課題の実施状況50%をめやすに、総合的に評価する。討論への積極的参加や、授業の成果を応用した研究の進展などがみられた場合は、加点を与える。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「国際関係論」「国際文化論」「平和学」「文化人類学」、およびまた、それらに関連した内容の授業を、少しでも履修していることが望ましい。

テキスト

開講時および開講後に受講者の問題関心や希望を聴取し、その上で決定する。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際社会文化特殊研究B		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	2071370112	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
「国内強制移動（internal displacement）」をめぐる諸問題を扱う。国内避難民の問題は1990年代に国際社会の関心事項として認識されるようになり、国連の対応においても一定の進展がみられた。この授業ではこれまでの取り組みの軌跡、現状、今後の課題を検証する。			
到達目標			
DP2・社会の諸問題を理解するために必要な情報を調査収集し、本質的な課題を発見・解決するため、調査収集した情報を的確に分析する能力を身に付けることができる。そうした能力を向上させながら、この授業のテーマについて主体的に考えることができようになるとともに、幅広く知的議論が行えるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	(以下のような流れで進めることを考えている。詳しくは、履修者と相談の上決定する。) ガイダンス		
	授業に関連する事項を予習する。		90
第2回	文献購読		
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。		90
第3回	文献購読		
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。		90

第4回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第10回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第11回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第15回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第16回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第17回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第18回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第19回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第20回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第21回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第22回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第23回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第24回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90

第25回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第26回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第27回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第28回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第29回	文献購読	
	課題を準備する。授業に関連する事項を予習する。	90
第30回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

英語文献の講読を行う（英語で原書を読む習慣を身に着けておくこと）。

成績評価の方法

平常点（20％）に加えて、授業での発表内容（40％）および学修姿勢（40％）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目を履修しているのが望ましい。英文の原書を講読するので、英語の読解力は必須。

テキスト

下記の文献を読む。ただし、履修者の関心に合わせて他の文献を読むことも可能。

-Elizabeth Ferris, The Politics of Protection: The limits of Humanitarian Action, Washington, D.C.: Brookings Institution, 2011

-墓田桂『国内避難民の国際的保護-越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015年）

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学特殊研究 A		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071370201	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
本授業は、文化人類学の一分野である音楽人類学および音文化研究に関して学修する。具体的なテーマとして、アラブ芸術の中で最も理論化の進んだアラブ古典音楽を取り上げ、その歴史的発展過程と構造的特徴を研究する。音楽理論の知識は必ずしも要求しないが、フランス語の資料を輪読するので、受講者はフランス語の素養を身につけていることが望ましい。もちろんアラビア語の知識があればそれに越したことはない。			
到達目標			
DP7およびDP8を実現するため、次の5点を到達目標とする。 1. 文献情報を的確に収集できる。 2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 理論的思考を行うことができる。 5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入 ・ 演習の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 ・ 使用する予定の資料群の概要を説明する。		
	[予習]シラバスをよく読んで、1年間の学修予定を理解しておく。		90
第2回	文化人類学と音文化研究 ・ 音文化研究が文化人類学の中に占める位置を学修する。		
	[予習]文化人類学の学説史を振り返っておく。 [復習]音文化研究の位置づけを確認する。		90
第3回	アラブ音楽の前夜 ・ ジャーヒーリーヤ時代のアラビア半島の音文化を学修する。		
	[予習]7世紀までのオリエント史を振り返っておく。		90

第4回	イスラームの音文化 ・イスラームの誕生とともに成立した音文化を学修する。	
	[予習]イスラームの基本である六信五行を確認しておく。	90
第5回	三つの音楽群 ・ウマイヤ朝時代からアッバース朝時代に成立した都市・地方・砂漠の歌の特徴を学修する。	
	[予習]初期イスラーム史を振り返っておく。	90
第6回	「歌の書」とアラブ音楽の隆盛 ・イスバハーニーの「歌の書」の情報内容を学修する。 ・バグダードの宮廷音楽の特徴を学修する。	
	[復習]アッバース朝文化の特徴を理解しておく。	90
第7回	むくどり革命 ・「むくどり」というあだ名で有名な大音楽家ズィルヤーブの生涯と、彼が残した革命的文化遺産を学修する。	
	[予習]北アフリカのイスラーム史を調べておく。	90
第8回	アンダルシアの春 ・9世紀から15世紀に花開いたアンダルシア地方のアラブ文化を、音楽を中心に学修する。	
	[予習]アンダルシア史と中世スペイン史を振り返っておく。	90
第9回	レコンキスタの残像 ・レコンキスタによってイベリア半島を追われたムスリムとユダヤ教徒の、その後の足跡を北アフリカ・地中海世界に追う。	
	[予習]中世ユダヤ史を調べておく。	90
第10回	ユダヤ音楽の足跡 ・中世スペイン文化の成立に不可欠な役割を果たしたユダヤ音楽（＝セファルディーム音楽）の特徴と、レコンキスタ以降のユダヤ音楽の命運を追う。	
	[予習]16世紀を中心とした地中海世界の歴史を調べておく。	90

第11回	アンダルシアの残照 ・アラブ音楽とユダヤ・セファルディーム音楽に託されたアンダルシア文化の栄華を学修する。	
	[予習]アンダルシア文化に含まれた思想や哲学の業績を調べておく。	90
第12回	アラブ＝アンダルシア音楽の継承 ・アラブ＝アンダルシア音楽がレコンキスタ以降、北アフリカ各地で継承されていったプロセスを学修する。	
	[予習]16世紀以降の北アフリカ史を調べておく。	90
第13回	三つのアンダルシア音楽 ・モロッコ、アルジェリア、チュニジアでそれぞれに展開したアンダルシア音楽の特徴を学修する。	
	[復習]3国の音楽の違いを理解する。	90
第14回	ヌーバの伝統の成立 ・モロッコで展開されたアンダルシア音楽の16世紀から19世紀までの歩みを学修する。	
	[復習]モロッコ中世史と音楽の関わりを理解する。	90
第15回	イスラーム教団と音楽 ・イスラーム教団で使用される音・声とアンダルシア音楽の結びつきを学修する。	
	[復習]イスラーム教団で使用する声の技法の特徴を整理する。	90
第16回	近代アラブ＝アンダルシア音楽の成立 ・20世紀のアラブ＝アンダルシア音楽の成立過程を、フランス植民地主義との関係で理解する。	
	[予習]北アフリカにおけるフランス植民地統治のプロセスの概要を調べておく。	90
第17回	旋法音楽 ・アラブ＝アンダルシア音楽の支柱となっている「旋法」のシステムについて学修する。	
	[復習]旋法という概念を理解する。	120

第18回	リズム ・ アラブ＝アンダルシア音楽のもうひとつの支柱であるリズムのシステムについて学修する。	
	[復習]リズムの種類と特徴を整理する。	120
第19回	音楽のリズムと言葉のリズム ・ アラビア語詩の韻律規則である「アルード」および「バハル」のシステムについて学修する。	
	[復習]アラビア語詩の韻律規則のシステムを整理する。	120
第20回	トルコ音楽の世界 ・ 16世紀以降アラブ世界に大きな影響を与えたトルコ音楽の特徴を理解する。	
	[予習]15世紀以来のオスマントルコ史の概要を調べる。	90
第21回	マシュリク音楽の展開 ・ オスマントルコの治下で展開したマシュリク（東アラブ）の音楽事情を、シリアとエジプトを軸に学修する。	
	[予習]中東の中世史・近代史の概要を調べる。	90
第22回	ムワッシャハの世界 ・ マシュリクで発展した「ムワッシャハ」という音楽ジャンルの特徴を学修する。	
	[復習]東アラブ世界における音楽ジャンルの特徴を整理する。	90
第23回	近代アラブ音楽の成立 ・ 1932年にカイロで開催されたアラブ音楽会議の内容を学修する。 ・ この会議が近代アラブ音楽を誕生させた経緯を理解する。	
	[予習]20世紀のエジプト史と、同時代のヨーロッパの音楽事情を調べる。	120
第24回	アラブ音楽会議とは何だったのか ・ 1932年会議のプロシーディングスを解説する。	
	[復習]1932年会議のプロシーディングスの概要を整理する。	120

第25回	現代アラブ音楽の成立 ・20世紀を代表する大歌手ウンム・クルスームの生涯を通じて、現代アラブ音楽の誕生プロセスを学修する。	
	[復習]ウンム・クルスームのライフヒストリーを見直す。	90
第26回	音楽とイスラーム ・イスラームの展開の中で「音楽」がどのように扱われてきたのかを学修する。	
	[予習]イスラーム思想の中で生じた音楽論争の骨子を調べておく。	90
第27回	比較音楽学から音文化研究まで (1) ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[復習]比較音楽学と民族音楽学の目的と方法の違いを整理する。	90
第28回	比較音楽学から音文化研究まで (2) ・近代ヨーロッパで展開された音楽研究の流れを「比較音楽学」から「民族音楽学」へ、さらに「音楽人類学」から「音文化研究」へという軸に沿って理解する。	
	[予習]音楽人類学とはなにか、その概要を調べておく。	90
第29回	音文化研究とアラブ音楽 ・アラブ音楽の研究が音文化研究にいかなる貢献を果たせるのかを理解する。	
	[予習]音文化研究の目的と方法を調べておく。	90
第30回	総括 ・1年間の演習の成果を振り返り、残された課題を確認する。	
	[復習]一年間の授業で理解できたことと課題として残ったことを整理し、文章化の準備をする。	120

授業の方法

受講者は各回のテーマに応じてあらかじめ指定された資料をよく読んで、レジюмеを作成し、発表する。授業では受講者全員によるディスカッションを通じてテーマの理解を深める。

成績評価の方法

発表（40%）、授業中の発言・コメント・討議（30%）、2回程度の課題レポート（30%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

上記「達成目標」に掲げた以下の諸点の達成度により評価する。

1. 文献情報を的確に収集できる。
2. 音文化研究ないし音楽人類学についての基礎知識を身につける。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 理論的思考を行うことができる。
5. アラブの音文化について、基本的な事項を理解し、説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識：イスラーム史、文化人類学の基礎。

テキスト

各回ごとにあらかじめ指示する（フランス語によるテキストが主流になる）。

参考書

授業中、適宜指示する。

辞典類（文化人類学事典、音楽事典など）は各自調達することが望ましい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文化人類学特殊研究B		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071370202	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
アンデスの先住民についてその文化、宗教、国家との関係、グローバル化する世界との関係について、文化人類学の観点から考えていきます。			
到達目標			
DP8を身につけるため、以下を到達目標とする。 文化人類学の基本的考え方を知る。 多様な文化、価値観の存在に気づく。 文献をクリティカルに読む力を鍛える。 データを収集し、分析する力を鍛える。 論理的な思考力を鍛える。 自ら課題を見出す力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入部 授業の進め方、レジュメの書き方についての説明 発表担当の割当		
	これまで文化人類学を勉強したことがない場合は、事前に入門書等を読んでおく。		30
第2回	映画		
	発表に向けて準備を進めておく。		0
第3回	文献を読み、ディスカッションをする。		
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		120

第4回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第5回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第6回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第7回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第8回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第9回	関連映画を鑑賞しディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる	60
第10回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第11回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第12回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第13回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第14回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第15回	関連映画を鑑賞し、ディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる。	60
第16回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第17回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第18回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第19回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第20回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第21回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第22回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第23回	関連映画の鑑賞	
	映画の背景について調べる。	60
第24回	関連映画を鑑賞してディスカッションをする。	
	映画の背景について調べる。	60

第25回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第26回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第27回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。発表方法についても十分準備しておく。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第28回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第29回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第30回	文献を読み、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意する。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

授業の方法

演習方式です。発表担当者がレジュメを作成して発表をし、それをもとに質疑応答、ディスカッションをします。テキストは毎回受講生全員が適宜内容を調べながら丁寧に読んできて下さい。また、必要に応じてテキストでとりあげられている参考文献にも目を通して下さい。

成績評価の方法

平常点100%。(プレゼンテーション、ディスカッション、論理性、課題発見能力など)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

文化人類学の基本的な考え方や方法論が理解できているか。
文献をクリティカルに読む力、データを収集分析し論理的に思考する力が身に付いたか。
グローバル化と文化の関係について知識を深めることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまで文化人類学を学んだ経験がない場合は、事前に文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。

テキスト

『アンデスの宗教的世界』等を予定していますが、最初の授業で受講学生の関心やレベル、語学力を考慮し決定します。

参考書

授業中適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	歴史特殊研究D		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071370304	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
【テーマ】フランス革命の諸問題 【概要】フランス革命にかかわるトピックを論じたフランス語テキストを読むことを通じて、フランス革命の意味を考える。			
到達目標			
DP8 優れた学識を備え、専門分野における研究能力と専門職業人として必要な知的素養の修得をめざす。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入		
	シラバスを読んでくる。		20
第2回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。		
	テキストの予習と復習		120
第3回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。		
	テキストの予習と復習		120

第4回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第5回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第6回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第7回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第8回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第9回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第10回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第11回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第12回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第13回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第14回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第15回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第16回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第17回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第18回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第19回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第20回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第21回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第22回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第23回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第24回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120

第25回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第26回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第27回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第28回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第29回	フランス語テキストを的確に読み、フランス革命の意義について考える。	
	テキストの予習と復習	120
第30回	まとめ	
	テキストの復習	120

授業の方法

フランス語のテキストを読み、質疑応答しながら、授業をすすめる。

成績評価の方法

授業への積極的な参加（50%）と課題レポート（50%）によって成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

テキストは授業開始後、プリントして配布する。

参考書

授業開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学特殊研究 A		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071370501	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第16回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第17回	トピック 14	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第18回	トピック 15	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第19回	トピック 16	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第20回	トピック 17	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第21回	トピック 18	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第22回	トピック 19	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第23回	トピック 20	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第24回	トピック 21	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第25回	トピック 22	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第26回	トピック 23	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第27回	トピック 24	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第28回	トピック 25	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第29回	トピック 26	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第30回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）、グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・コミュニケーション特殊研究A		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071370601	単位数	4
配当年次		開講時期	2019年度 前期～後期
テーマ・概要			
デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に集合行動という観点から考えます。デジタルメディアをめぐるさまざまな社会現象を固有の枠組みの中で分析・考察することを通じて、「デジタルメディア社会」の新たな可能性を展望するとともに、その問題の淵源を探ることを目指します。			
到達目標			
DP8を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その詳細を説明できるようになる。 ②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて分析し、考察できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60
第2回	文献購読		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60
第3回	文献購読		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60

第4回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第10回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第11回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第16回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第17回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第18回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第19回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第20回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第21回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第22回	文献購読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第23回	小括	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第24回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第25回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第26回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第27回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第28回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第29回	ケーススタディ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第30回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前後期とも、前半は文献講読中心に進めます。後半は実際の社会現象を取り上げ、ケーススタディ中心に進めます。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	竹内 敬子、(教員未定)		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

人文研究における関係分野の諸理論及び方法論を幅広く紹介し、複眼的な視点から分析し考察する能力を養成する。また、専門分野の学術論文の書き方を指導するとともに、それぞれの学生の研究テーマに沿った演習指導を行う。

到達目標

到達目標は、下記の通りである。

- (1) 専門分野についての知識を高めるだけでなく、関連分野についても興味を持つ。
- (2) 専門分野の学術論文を理解し、批判的に読むことができる能力を養う。
- (3) 専門分野の学術論文の書き方を習得する。
- (4) 日本語だけでなく、英語でも学術論文を書くことができるよう訓練する。

授業の計画と準備学修

開講時に、受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論によるか、または個別指導を行うなど、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

博士前期課程を修了していること。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習III		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071370991	単位数	4
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅳ		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071370992	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	論文演習Ⅴ		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	2071370993	単位数	4
配当年次	3	開講時期	2019年度 前期～後期

テーマ・概要

学生の研究テーマにそって演習指導を行う。以下、授業の計画等は担当教員の指示を受けること。

到達目標

受講者に応じて設定する。

授業の計画と準備学修

開講時に受講者と相談して決める。

授業の方法

開講時に、受講者の人数等を考慮し、学生と相談の上、討論による、あるいは個別指導など、授業方法を考える。

成績評価の方法

授業時に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

担当教員が指示する。

テキスト

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（データの科学）		
教員名	江口 真透		
科目ナンバー	2110900104	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
データから科学的な理解を得るために統計学と機械学習の考え方と方法を包括的な視点から学ぶ。特に、教師あり学習のための回帰モデル、予測モデルについて、線形回帰、ロジスティック回帰、線形判別からブースティング、サポートベクターマシン、ランダムフォレスト、畳み込みニューラルネットに渡る方法について統一的に捉えることを目標にする。			
到達目標			
データを科学するための基本的な考え方と方法について学ぶ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	確率的フレームワーク（確率変数ベクトル，確率密度関数，確率変数の独立，確率変数の連続型，離散型，平均ベクトル，分散行列，多変量正規分布）		
	確率について復習しておく。	30	
第2回	統計モデル（パラメータ，正規モデル，指数型モデル，ボルツマンモデル，ポアソンモデル，2 項モデル，多項モデル）		
	統計について復習しておく。	30	
第3回	ランダムサンプル（独立同一分布，標本サイズ，未知パラメータ，ランダムサンプル，統計的推定，標本平均ベクトル，標本分散行列）		
	確率・統計の必要事項を復習しておく。	90	

第4回	ランダムサンプル（独立同一分布，標本サイズ，未知パラメータ，ランダムサンプル，統計的推定，標本平均ベクトル，標本分散行列） 第3回：最尤推定法（最尤推定量，対数尤度関数，正規モデルの最尤推定量，漸近定，理概収束，分布収束，大数の強法則，中心極限定理，最尤推定量の漸近性質，一致性，漸近正規性，KL ダイバージェンス，平均対数尤度関数，KL 最小化，モデル選択規準AIC）	
	最尤推定について予習しておく。	90
第5回	線形回帰モデル：ガウス・マルコフ定理	
	線形モデルについて具体例を調べておく。	90
第6回	指数型モデルと一般化線形モデル（GLM）	
	GLMの実行例について調べておく。	90
第7回	フィッシャー線形判別：誤判別確率，ベイズリスク，ROC	
	回帰と判別の違いについて理解しておく。	90
第8回	2 値回帰モデル：ロジスティック回帰，シグモイド関数	
	シグモイド関数について調べておく。	90
第9回	フィッシャー線形判別とロジスティック回帰	
	これまでの事項について整理しておく。	120

第10回	ブースティング： アダブースト, AUC ブースト	
	小レポートを提出する.	120
第11回	CART： 決定木, バギング, ランダムフォレスト 課題レポートを説明する.	
	アンサンブル学習について調べておく.	90
第12回	ロス関数のフィッシャー一致性とベイズリスク一致性	
	課題レポートについてまとめる.	90
第13回	SVM (サポートベクターマシン)： カーネルトリック	
	課題レポートについてまとめる.	90
第14回	深層学習： 制限ポルツマン・マシン, 畳み込みニューラルネット (CNN)	
	機械学習についてまとめる.	90
第15回	全体の総括的な考察と宿題レポートについて討論	
	課題レポートについて説明の準備する.	120

授業の方法

授業はスライドを使った講義を中心にする。課題について小レポート及び宿題レポートの提出を課す。

成績評価の方法

小レポート(25%)、宿題レポート(50%)、授業参加の取り組みの総合評価(25%)

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準(学則第11条の2)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

初等的な確率・統計を理解している。

テキスト

スライドファイルを配布する

参考書

Friedman, J., Hastie, T., & Tibshirani, R. (2001). The elements of statistical learning (Vol. 1, No. 10). New York, NY, USA:: Springer series in statistics.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	学際分野特殊研究（知的財産と経営）		
教員名	岡田 桂治		
科目ナンバー	2110900103	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
産業技術への知的財産権の活用は日本経済発展のカギと言えよう。しかし、知的財産権を保護する特許法、著作権法について一般の技術者がその内容を十分理解し、有効に活用しているとは言い難いのが現状であろう。産業界においてはその重要性を認識し、知的財産担当役員(CIPO)を置く企業も散見されるようになってきた。このような状況を踏まえ、知的財産関連法の習得と企業における知的財産活用の重要性を理解することが本授業のテーマである。 特許の歴史、基本理念、特許法、著作権法の概要、企業間の特許紛争、米国における特許訴訟リスク等の具体例による検証、会社経営における知的財産の重要性、持続可能な会社経営、ESG投資等を概説する。			
到達目標			
①特許法、著作権法について、その基本理念を理解し、「知的財産検定2級」程度の知識を習得する。 ②企業における特許権紛争の本質を理解し、課題への対処の仕方を理解する。 ③貸借対照表等の財務諸表による企業価値評価と知的財産に基づく評価の違い、知的財産経営の重要性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業概要、進め方、評価方法等について ・情報化社会における知的財産の位置づけ ・情報の意味、デジタル技術の特長と知財政策		
	ネット検索等により最近の特許権紛争について調べ、問題意識を醸成する。		90
第2回	特許制度の歴史 ・近代特許制度の歴史概観 ・米国プロパテント（特許重視）政策 ・バイドール法、ヤングレポート等		
	ネット検索によりプロパテント政策の意義を認識する。		60
第3回	日本の知的財産政策 ・知的財産戦略本部（内閣府）の政策 ・知的財産権の種類と特徴（特許、実用新案、著作権、営業秘密等）		
	前回配布の講義資料を読み、理解を深めておく。		60

第4回	特許法詳細 ・特許法主要条項の意味理解 ・特許の要件、職務発明、特許権効力の範囲、共有に係わる権利の扱い、差し止め請求権等	
	配布資料により各条項の意味を確認しておく。	90
第5回	特許出願の流れ ・特許出願のフロー ・特許申請に必要な書類 ・特許法の歴史的変遷	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第6回	企業における特許管理 ・特許出願から消滅までの管理事項 ・論文と特許の違いについて ・大学発特許の課題	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第7回	特許を取るための要件 ・新規性の意味解釈 ・進歩性の評価尺度と特許庁の指針 (構成の困難性、目的・効果の予測困難性等)	
	進歩性の判断基準を復習しておくとともに、配布された特許公開公報を読んでおく。	90
第8回	具体例による特許性判断 ・特許公開公報の実例による特許性判断の議論 ・進歩性の有無、明細書記載要件の充足等の議論 ・ビジネスモデル特許の具体例と成立要件	
	配布資料によりビジネスモデル特許の成立要件を確認しておく。	60
第9回	米国における特許訴訟について ・米国における訴訟リスク ・具体例による訴訟リスクの分析	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60

第10回	特許関連紛争の分析 ・ 企業間特許訴訟例（NAND型フラッシュメモリー、インクカートリッジ訴訟等） ・ 職務発明訴訟（青色LED等）と条項改定の影響 ・ 強い特許の条件	
	ネットにより特許訴訟の実例を検索しておく。	60
第11回	中小企業における知財財トラブルの分析 ・ 経済産業省による実態調査報告 ・ 秘密保護法概要、秘密保護契約書の実例 ・ 不正競争防止法、独占禁止法の概要	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第12回	著作権法の概要 ・ 著作者の権利、著作物伝達者の権利 ・ 著作物の定義、著作者の推定 ・ 著作権の制限、職務著作権、保護期間の原則等	
	配布資料により著作権法の各条項に目を通しておく。	60
第13回	知的財産権の国際化 ・ 知的財産と技術標準 ・ 知的財産に関する国際条約	
	配布資料により講義内容を確認しておく。	60
第14回	企業におけるオープン化戦略 ・ オープン化により期待される効果 ・ 米国IT企業におけるオープン化戦略例 ・ 企業情報システム・アプリケーション市場の変遷	
	オープン化戦略の実態をネット検索しておく。	90
第15回	企業経営と知的財産戦略 ・ 企業の価値評価基準（財務資本、人的資本、組織構造資本等） ・ 持続可能な会社経営の要件（SRI, PRI, ESG等の投資原則） ・ 企業不祥事発生の要因と分析	
	最近の企業買収等の実例、責任投資原則（PRI）、ESG投資等ををネットで調べておく。	60

授業の方法

- 配布資料、黒板による講義と討論により進めます。
- ・ 授業内容の理解度を確保するため、随時小テストを行います。
 - ・ 理解の状況を勘案して、授業の進行速度を調整するとともに、内容を一部変更することがあります。

成績評価の方法

随時行う小テスト（40%程度）、最終テスト（40%程度）、受講態度・発言等（20%程度）を基本とし、出席状況を加味して総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

- ・ 特許法の基本理念、各条項の内容理解度
- ・ 新規性、進歩性、職務発明等、用語の理解度
- ・ 著作権法の基本理念、各条項の内容理解度

必要な予備知識／先修科目／関連科目

技術開発、特許制度、会社経営等に興味を持ち、授業に積極的に参加する態度があれば特段の予備知識は不要です。インターネットを有効に活用した情報収集能力を期待します。

テキスト

黒板、配付資料等により授業を進めるので特定のテキストは使用しません。

参考書

井上岳史著；「特許が世界を塗り変える」 NTT出版、
大嶋洋一著；「エンジニアのための知的財産権概説」 CQ出版社、
竹田和彦著；「特許がわかる12章」 ダイヤモンド社、
柴田英寿・伊原智人著；「オフ・バランス経営革命」 東洋経済新報社、
中嶋隆・中嶋光著；「知的財産経営」 日本プラントメンテナンス協会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中の質問は歓迎します。 授業終了後にも教室で受け付けます。
更に深い議論を望む学生さんには、電子メールによりアクセスができる様にします。

科目名	学際分野特殊研究（科学の考え方Ⅰ）		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	2160310095	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
科学の考え方は、日常的なものの見方や考え方と、どこでどのように関係し、後者とどのように異なるのか。また、科学の客観性は、どのようにして成立するのか。これらの問題を、科学的な考え方が歴史のなかに登場した時代まで遡って検討し、その真相に迫る予定である。また、このことから得られた知見をもとに、現代科学が直面している諸問題を見直すために有効な視点を求める。			
到達目標			
科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討することで、現代科学が直面している諸問題を発見し(DP2)、自学自習的にそれらを検討する(DP1)ことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 科目の趣旨を説明する。また、授業の進め方と狙いについて、解説する。		
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。		30 30
第2回	経験的な知識について考える。		
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。		60
第3回	科学の客観性はどのように成り立つのか検討する。		
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。		60

第4回	草創期の科学的思考について考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	科学的な説明の原型を追究する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	説明原理の役割を検討し直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第7回	古代の自然研究がもつ現代的な意義を考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第8回	近代科学の歴史的背景を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	近代科学の歴史的背景について検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60

第10回	古代の自然研究と現代の自然科学を対比する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第11回	自然科学の基本前提を見直す。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第12回	現代科学の問題点を探る。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第13回	現代科学の問題を近代合理主義との関係で考える。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第14回	科学の方法を再検討する。	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第15回	現代科学が直面している諸問題を歴史的な観点から検討する。	
	(予習)今学期に学んだことを振り返り、質問したいことや、議論したいテーマを、各自で考えておく。	60

授業の方法

ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメ(スライド)を作成して他の出席者たちに配り、内容を解説し、質問に回答することが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合（各25パーセント）で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

特に次のことを重視して評価する。

- ・ 自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。
- ・ 科学の諸問題について議論する力量の有無。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』（ちくま新書） 740円
電子書籍版あり。

参考書

瀬戸一夫著『知識と時間』（勁草書房） 2,600円
その他、必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（科学の考え方II）		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	2160310096	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
科学的な考え方は、日常的なものの見方や考え方と、どこでどのように関係し、後者とどのように異なるのか。これらの問題を、科学が革命的な理論転換を遂げた、過去の典型的な事例に沿って検討する。これにより、科学の今後に向けて、どのような見方や考え方が必要なのかを討議する。			
到達目標			
科学の歴史から学び、科学的な考え方の本質について検討することで、現代科学が直面している諸問題を見直し、科学に関する問題を哲学的な観点からも捉えられる(DP1&DP2)。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 科目の趣旨説明		
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。		30 30
第2回	専門的な知識と常識の関係		
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。		60
第3回	運動の相対性		
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。		60

第4回	仮説演繹法	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第5回	天動説の世界観	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第6回	地動説の実像	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第7回	科学と宗教	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第8回	コペルニクス革命の真相	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第9回	革命の死角	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60

第10回	ニュートンの根本的着想	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第11回	対称性と客観性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第12回	・コペルニクス革命再考	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第13回	ニュートンの三法則に秘められた意味	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60
第14回	科学の排他性	
	(予習)あらかじめテキストを読んでおく。 必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第15回	科学による生活世界の支配	
	(予習)所定のテキストを読んで、内容を自分なりに理解し、質問事項を考えておく。 必要に応じて、前回までの授業内容を、確認しておく。	60

授業の方法

ゼミナール形式とする。各回の前半は、科学の歴史に関する基本的な文献を輪読し、後半は前以て指名された学生が特定のテーマでレポートする。また、レポートされた内容について、全員で議論する予定である。より具体的には、所定の教科書を読んで理解し、指定された箇所のレジュメを作成して他の出席者たちに配り、内容の解説、質問への回答をすることが、レポーターの役割である。なお、授業の進捗によって、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

受講姿勢、レポート内容、質疑応答の積極性、およびその内容を、同じ割合（各25パーセント）で総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

特に次のことを重視して評価する。

- ・ 自学自習的に科学の諸問題を考える姿勢が獲得されたか。
- ・ 科学の諸問題について議論する力量の有無。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』（ちくま新書）740円

電子書籍版あり。

瀬戸一夫著『コペルニクスの転回の哲学』（勁草書房）この本は購入しなくてよい。

参考書

必要に応じて、そのつど紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（力学系の理論と応用）		
教員名	藤垣 芳文		
科目ナンバー	2230753010	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 前期
テーマ・概要			
微分方程式の「解」の求め方についての基礎知識を学び、その方法を社会現象や自然現象の分析に応用する力を養う。さらに、微分方程式の平衡点および解曲線の「分岐」に関する初歩の理論を学習し、それを複雑な社会経済問題に応用することを試みる。解析的方法によって厳密に解ける微分方程式は限定されるので、そうでないものを取り扱うための線型近似やコンピュータによる数値計算の方法にも、いろいろな例題を通して慣れ親しむ。			
到達目標			
【経済学専攻・研究者養成コース】DP1・2(専門分野の知識・理解)，DP3(研究能力及び発信力) 【経済学専攻・高度社会人養成コース】DP4・5・6(専門分野の知識・理解)，DP7(論理的思考力)，DP8(総合マネジメント力)，DP9(他社との協働)，DP10(表現力及び発信力) 【経営学専攻・研究者養成コース】DP11・12(専門分野の知識・理解)，DP12(研究能力及び発信力) 【経営学専攻・高度社会人養成コース】DP14・15・16(専門分野の知識・理解)，DP17(論理的思考力)，DP18(総合マネジメント力)，DP19(他社との協働)，DP20(表現力及び発信力)を実現するため、以下を到達目標とします。 （１）自然現象や社会現象を微分方程式を用いてモデル化する力を養うこと。 （２）モデル化によって立てた微分方程式を、厳密に、あるいは図形的、ないしは近似的に解く方法を身につけ、それから得た結果を分析することで問題解決につながるための科学的な考え方や方法を習得すること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	序論・現象のモデル化と微分方程式		
	配布資料を用いての予習復習		90
第2回	状態の変化に関するいくつかの例題		
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること		90
第3回	1階微分方程式		
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること		90

第4回	2階以上の微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第5回	連立線形定係数微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第6回	非線形微分方程式	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第7回	平衡点の分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第8回	リミットサイクル	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第9回	ホップ分岐	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90

第10回	応用のための準備・経済主体の最適化行動入門	
	配布資料を用いての予習復習 授業で取り上げた例を自分自身でも解いてみること	90
第11回	応用1・市場を介した企業間の相互作用	
	配布資料を用いての予習復習	90
第12回	応用2・経済過程における内生的循環	
	配布資料を用いての予習復習	90
第13回	応用3・環境問題と環境税政策	
	配布資料を用いての予習復習	90
第14回	応用4・国際貿易と一般均衡	
	配布資料を用いての予習復習	90
第15回	復習とまとめ	
	配布資料を用いての復習	120

授業の方法

講義を中心に授業を進める。毎回、プリントを配布し、それにもとづいて講義を行う。

成績評価の方法

授業中に不定期に実施する小テストと期末レポートを総合して評価する。評価の割合は、平常点50%、期末レポート50%を予定する。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 11-2.

上記、達成目標の達成度にもとづいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識として「微分・積分」等の解析学の基本、「ベクトル・行列」等の線形数学の基本が必要。

テキスト

テキストは使用しない。毎回、担当者が作成した資料を配布する。

参考書

ローレンツ・H・W 著『非線形経済動学とカオス』，日本経済評論社，2000

桑村 雅隆 著『パターン形成と分岐理論』，共立出版，2015

新貝 寿明 著『徹底攻略 常微分方程式』，共立出版，2010

Strogatz, S. H., Nonlinear Dynamics and Chaos, 2nd ed., Westview Press, 2015

Wolfram, S., An Elementary Introduction to the Wolfram Language, 2nd ed., Wolfram 社のホームページからダウンロード可能

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学際分野特殊研究（原子核のエネルギー）		
教員名	富谷 光良、鷹尾 康一郎、岩瀬 広、尾高 茂		
科目ナンバー	2110900113	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2019年度 後期
テーマ・概要			
現代では一般の人々が放射線について向き合い、正しい理解を求められる時代となった。言うまでもなく2011年3月11日に発生した東日本震災では、地震そのものの破壊力や直後の津波だけでなく、福島第一原子力発電所の事故とそれにもなう放射性物質の飛散による被害は6年を経過した今も深刻な事態が続いており、放射線の防護や除染なども日常的に意識しなければならないからである。 このような放射線とはいったいどのようなものなのか。体に害をおよぼすのはなぜか、放射線診療や構造物・材料の非破壊検査などで利用されるのはどういう理由によるのか、眼に見えない放射線の量はどのようにして測るのか、など基本的なことから応用まで正しい知識を身につける必要がある。 そして、原子力発電である。エネルギー政策は私たちの生活を大きく左右する。したがって、原子力発電を将来のエネルギー政策の中にどう位置づけるのか、誰も無関心でいることはできない問題である。事故を含むリスクや安全管理などをふまえて検討するには、基礎となる知識や理解をもとに今後の日本を決める議論に参加することが望ましい。 また、事故にもなう被害の状況などについて実際に現地での調査活動の結果に基づいた議論をふまえ、人体への影響についても正しく理解することが必要であろう。 こうした観点から、本講義は関係するサイエンスやテクノロジーの分野で活躍されている研究者にオムニバス方式で登壇していただき、原子力発電を始め放射性物質と放射能に関する体系的な知識や情報を講義し、それをもとに自分たちの未来社会を決める議論に参加するための姿勢を醸成することを目指している。			
到達目標			
- 放射線について市民として知っておくべき基本的でかつ正しい知識を身につける。 - 原子力発電の仕組みを知り、原子力発電のリスクとメリットを理解して、原子力発電をめぐる様々な課題を正しく考えるための基盤を各個人の中に確立する。 - 原子力災害にかかわる諸問題について学び、日本のエネルギー政策をめぐる議論に参加するための基本的な知識と姿勢を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（富谷） 放射線科学、原子力発電、事故と放射線被害など、この講義で扱う内容を概観し、各人の予備知識の確認と扱う問題に対する意識あわせを行う。		
	予習：シラバスの内容を確認しておく。 復習：講義内容を整理して、授業中に与えられた参考資料を入手し、概要を把握する。		60
第2回	原子と原子核入門（富谷） 今後の授業内容に関係する予備知識を整理するために、原子、原子核などの基本的な事項を講義する。授業の最後に簡単なテストを行なって、知識の確認を行なう。		
	予習：前回の講義の内容を整理して、理解しておく。 復習：講義内容を整理しておく。		60
第3回	放射線と物質との相互作用（尾高） 電磁相互作用により、電子・光子は物質中で様々な現象を起こす。物質中での電離作用などは放射線検出器の原理になるし、また物質が生体分子であれば、生命への影響を考える上での基礎となる。それは、入射粒子の種類、物質の種類、入射エネルギーにより異なっている。物質と入射粒子の相互作用について理解する。また、放射線に関係する単位について理解する。		
	予習：電磁場中の荷電粒子の受ける力について、復習しておく。 復習：物質中の荷電粒子の振舞について、定性的に説明できるようにする。		60

第4回	加速器とその応用（尾高） 高エネルギー物理学，原子核物理学の研究に使われる，様々な加速器の原理と応用について説明する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：サイクロトロン の原理と実際の応用について説明できるようにする。	60
第5回	放射線測定器の原理（尾高） 様々な放射線測定器の原理と実際の使用例について説明する。測定器は第2回で説明した素粒子の物質中での振る舞いに基づいて設計されている。放射線の種類とエネルギーの大きさ，測定量と要求される精度により，使用される測定器は決められる。基本的な放射線測定器の原理と実際の使用例について理解する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：代表的な放射線測定器について，説明できるようにする。	60
第6回	霧箱による放射線の観測（尾高） 霧箱を用いて微弱なアルファ線源からの放射線を観測する。放射性元素の崩壊の系列をもとに観測された現象を理解する。実験室での実習となる。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：霧箱による観測について，レポートにまとめる。	60
第7回	原子力発電の仕組み（鷹尾） 原子炉の中ではどのような反応が起きているのか，これを制御して運転する仕組みはどのようなになっているのか，どのような安全対策が取られているのか，などを総合的に解説する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第8回	核燃料サイクルその1（鷹尾） 核燃料製造について紹介する。ウラン鉱石の採石から化学的・物理的処理を経て原子炉で使われるまでの過程について概説する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第9回	核燃料サイクルその2（鷹尾） 使用済み核燃料の処理・処分の方法と現状について紹介する。このテーマは原子力発電を考えるにあたって，避けて通ることのできない課題である。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60

第10回	核燃料サイクルその3（鷹尾） 使用済み核燃料および放射性廃棄物の処理・処分の方法と現状について紹介する。このテーマは原子力発電を考えるにあたって、避けて通ることのできない課題である。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：核燃料サイクルに関連する講義内容を整理した上で、課題として与えるテーマについて、レポートにまとめる。	60
第11回	環境放射線（岩瀬） 自然放射線・宇宙線の測定や観察を行いながらその種類と発生機構について学ぶ。またその観測頻度を比べ、人工放射線とあわせて、量に対する理解も深める。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第12回	放射線検出の実際（岩瀬） 線量検出に使用されるγ線測定器のスペクトルなど、測定結果の見方について実習や解説を行なう。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第13回	放射線量と人体への影響（岩瀬） 放射線量の考え方を、人体への影響を細胞やさらに細胞内の分子レベルに立ち返って理解する。	
	予習：前回の講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第14回	放射線の防護（岩瀬） 放射線が物質とどのように関わるかを理解することで、その防護や考え方について模索する。物質透過実験などを行う。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：講義内容を整理し理解しておく。	60
第15回	震災後の現状について（岩瀬） 福島原発周辺のデータから汚染の実態や線量分布、動植物への移行などについて解説する。また汚染とは何か、汚染するものしないものについて理解する。	
	予習：前回までの講義内容を整理しておく。 復習：線量の管理についての講義内容を整理した上で、課題として与えるテーマについて、レポートにまとめる。	60

授業の方法

主に教室での講義だが、実験・実習も取り入れてできるだけ話が具体的になるようにする。

成績評価の方法

平常点25%、レポート75%とする。

成績評価の基準

成蹊大学大学院の成績評価基準（学則第11条の2）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.11-2.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

専門知識は必要としないが、科学的な思考や扱いなどに慣れていることを前提とする。

テキスト

なし

参考書

授業中に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。